

トアリ此三個條ニ依レハ牧々近在窮民救助ノ道ヲモ立置カレズル
朝旨ナルト明瞭ナリ然ルニ只開墾規則ニ因ル時ハ府下窮民救助ノ
爲メトノミアリテ近在窮民救助ノ事ニ付テノ判決ナシ故ニ府下窮
民救助ノ道ハ相分リタレトモ近在窮民救助ノ道相分リ難キ判決ナ
ルヲ以テ不法ト思考ス

第二條

同裁判所判決第一條中ニ全民立會社ナリ故ニ小作願書及ヒ小作証
書ニ會社役人等ノ稱小作上納等ノ辭ヲ用ヰタリトテ之ヲ官廳ニ對
スルモノトナス可カラサル事トアレハ會社ノ官立ニシテ民立ニア
ラサル所以ハ控訴狀第一條ニ陳述セシ如シ又タトヒ會社ハ官立ニ
モセヨ民立ニモセヨ第一窮民授産ノ爲メ開墾局ノ設立アリ第二窮
民授産開墾規則ヲ施行セラル、ニ付會社ヲ結ハセラル、方法アリ

第三小金原開墾被仰出候御規則面之通り御局御支配小作人ニ被成
下度云々開墾會社御役人中様ト記シタル小作願書ヲ差出シタリ第
四地稅御上納又ハ御役所ト記シタル小作証書ヲ差出シタリ抑開墾
ノ事業ハ政府特別ノ恩典ニ出テ其開墾地ハ往時御用地ト唱ヘタル
牧馬場ナリシヲ自分ノ勞力ヲ以テ漸次良田ト爲シ七ケ年間現ニ其
地ニ住居セリ左スレハ開墾規則ニ據ルモ窮民授産ノ趣旨ニ對スル
モ又往古ヨリ土地ヲ開墾スレハ其地ハ開墾者ノ所有トナル習慣ニ
據ルモ小作願書小作証書ハ官廳ニ對シタルモノナルニ官廳ニ對セ
サルトノ判決ハ不法ナリト思考ス

第三條

同裁判所ノ判決第二條中ニ自費開墾者ト賃錢取リ小作人トハ開墾
規則上其差別アリトアレトモ元來自分共ニ於テ自費開墾者ト申立

タルコトナク開墾規則第二條近傍窮民ノ部分ト申立タルナリ然ルニ
自費開墾者ト申立タル如ク判決アリシハ不法ナリ

但開墾成功迄ノ入費ハ壹反ニ付金七圓五拾錢程モ相掛リタルニ
其賃錢トシテ下渡サレタルハ壹反ニ付金壹圓五拾錢ナリ左スレ
ハ入費十分ノ二ハ下金アリタルトモ十分ノ八ハ自分ノ資金ト勞
カトニ出タルモノナルニ東京上等裁判所ニ於テ其實際ヲ審理セ
ラレサリシハ人民ノ損害ヲ保護セラレサル裁判ナルヲ以テ不條
理ナリト思考ス

第四條

同裁判所ノ判決第二條中ニ原告人於テ賃錢ヲ受取リタル以上ハ決
シテ自費開墾者ニアラス其自ラ云フ所ノ往々地主タルヲ得ヘキ目
的ナリシトハ規則第二條近傍窮民ノ部分ニ就テ論スルモノナリト

アリ其文意ヲ推スニ自分共ハ開墾規則第二條ニ依ルヲ得ヘカヲサ
ルトノ判決ナリ賃錢ヲ取ルト取ラサルトニ差別アルハ勿論ナレト
然レトモ開墾規則第二條ニ賃銀飯米家作ノ手當ヲ以テ地所預リ受
作人タルヘキトアルニ據レハ賃銀ヲ受取リタリトテ規則第二條ニ
依ルヘキモノナルニ規則第二條ニ依ルヲ得ヘカラサルトノ意ヲ以
テ判決セラレタルハ不法ナリ

第五條

同裁判所ノ判決第三條中其小作金ヲ納ルコトヲ拒メルハ元ト官有地
ト心得小作ニシニ圖ラヌモ三井組ノ所有地トナリシ趣ニ付其原因
ヲ知ラサレハ納メ難シト謂ト雖モ原告ニ於テ初メ小作人タラシコ
ト願出シヨリ以來云々其所有主ノ官私ニ拘ラス被告ヘ對シ小作人
ノ義務ヲ盡スヘキハ當然ナリトアレトモ所有主ノ官私ニ拘ラス被

告へ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然ナリトハ驚愕ニ堪ヘサル
ナリ何トナレハ官有私有ノ別ヲ明カニシテ後土地ヲ引渡スヘ
キ理由アラハ其時被告人へ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然ナ
ルニ只官私ニ拘ラス小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然ナリトノ判決
ハ不法ナリト思考ス

第六條

同裁判所ノ判決第三條中ニ諸事被告ノ支配ヲ受來リ今モ仍ホ異ナ
ルヲナシ云々且該地ヲ會社へ付與セラレシコトハ固ヨリ官廳ノ處分
ニ關スルコトニテ其當否ヲ被告へ對シ中立ヘキ筋ニ非ストアレトモ
官廳ノ處分ニテ該地ヲ會社へ附與セラレタルモノナレハ其處分ノ
理由ヲ該地ニ住スル窮民へ公示スヘキハ今モ仍ホ諸事ヲ支配スル
八郎右衛門ノ責任ナリ然ルニ其事理曖昧ニシテ土地ヲ引揚ント欲

スルニ依リ控訴狀第十五條ノ末文ニ其當否ヲ辨シ事理ノ明了セン
コトヲ求メタルニ却テ其當否ヲ被告へ對シ申立ニキ筋言アラストノ
判決ハ不法ナリト思考ス

第七條

本件ノ始末ハ明治二年六月開墾局ヨリ施行セラレタル窮民授産開
墾規則ニ基キ結社セシ開墾會社々員三拾余人ノ内三井八郎右衛門
ノ代理人市岡晋一郎同社員中村初太郎吉田耕太郎三人ヨリ窮民
内自分共ノ部類七介村二百二十三人へ對シ開墾地ハ八郎右衛門外
二人ノ私有地ナル旨ヲ以テ小作地引揚ノ訴狀二十三件ヲ加村區裁
判所へ差出タリ因テ自分共ニ於テハ官有地受作人タル旨各自答辦
セシ處其内八郎右衛門ヨリ石塚與兵衛へ對スル一件ノ裁判アリ其
他ハ千葉裁判所へ差廻サレ同所ニ於テ審理中中村初太郎吉田耕太

郎ヨリ立澤甚五郎外三十一人へ對スル件々ハ原告ハ官有地進退人
被告ハ官有地受作人タル旨ノ証書爲取換解訟セリ八郎右衛門ノ被
告タル百九十一人ノ件々ハ明治八年十二月明治九年一月兩度ニ裁
判申渡サレタリ依テ被告ノ内石塚與兵衛ハ明治八年九月東京上等
裁判所へ控訴シ其他ハ明治九年三月廿三日同裁判所へ控訴シ同所
ノ裁判ヲ受ケ耕地ヲ引渡シ地稅及ヒ訴訟入費ノ爲ニ身代限ヲ差出
シタリ政府特別ノ恩典ニ出タル同種ノ窮民ニシテ其德澤ヲ蒙ル
一ナラサルハ不公平ト思考ス

第八條

被告八郎右衛門ニ於テ開墾地引揚請求ノ證據トスル小作証文ハ平
民八郎右衛門へ差入タルニアラスシテ政府ノ開墾事務ヲ擔當スル
八郎右衛門へ差入レタルナリ其事理ハ控訴狀第六條ヨリ第八條迄

ニ具陳セシ如クナリ然ルニ八郎右衛門ニ於テハ自己へ差入レタル
証文ナリト其權限ヲ取り違へ地所引揚ヲ訴出ルト雖モ抑窮民授産
ノ開墾ハ八郎右衛門ノ開墾ナル手政府特別ノ恩典ニ出タル開墾ナ
ル手政府特別ノ恩典ニ出タル開墾ナレハヨソ開墾局ヨリ窮民授産
開墾規則ヲ施行セラレ其規則ノ前文ニモ許多ノ窮民授産成功迄ハ
中々不容易大事件トアリ左スレハ右小作証文ハ職務上ニテ八郎右
衛門へ受取タルモノナルニ其小作証文ヲ以テ小作地ヲ引揚ントス
ルハ權利外ノ請求ト思考ス
前條々御審理ノ上原裁判ヲ破毀セラレシヲ乞フ

被告 三井八郎右衛門代人市岡晋一郎答辨ノ要領

答辨書ヲ分テ二章トシ第一章ハ爭訟ノ大体ニ就テ上告ノ不當ヲ辨
解シ第二章ハ上告狀ニ就テ逐條答辨ス其答辨ニ付憑証トスル所ノ

書類ハ今般答辨スル十二件トモ同一ニ付渡邊忠兵衛カ上告ニ對スル答辨書ニ添ヘ差出タリ其書目左ノ如シ

證據書類目錄

第一號

一 千葉縣下ニアル三井八郎右衛門私有開墾地處分ニ付市岡晋一郎ヘノ委任狀

第二號甲印

一 窮民授産開墾規則第一卷

第二號乙印

一 窮民授産開墾規則第二卷

第三號

一 小作人取扱方規則

第四號甲印

一 下總國開墾地ノ事ニ付東京府ヨリ千葉縣ヘ回答書ノ寫

第四號乙印

一 東京府ヨリ下總國牧々開墾一件ニ付舊印幡縣ヘ演說書中拔書ノ寫

第四號丙印

一 民部官ヨリ屋作料下渡書及ヒ東京窮民無産ノ者御處置大意

第四號丁印

一 東京窮民授産仕法略卷ノ一寫

第四號戊印

一 窮民授産取扱方内則寫

第四號己印

一開墾事業顛末大意

第四号庚印

一下総國開墾地ノ事ニ付千葉縣ヨリ加村區裁判所ヘノ回答書寫
尙原告人椎名元右衛門外四拾人ニ對スル証據目錄左ノ如シ

第一號

一小作証文寫並千葉裁判所ノ裁判執行届書寫ヘ調印ノ分一通

第二號

一三井組開墾方宛ノ小作証文一通

第三號

一三井組開墾方ヘ宛タル貸銀受取書一通

第四號

一市岡晋一郎ヘ宛タル解訟後入費貰受証文一通

第五號

一三井八郎右衛門代市岡晋一郎ヘ宛タル小作金日延証文一通

第六號

一地券証五十九通

第一章

第一條

原告人共訴フル處ノ要旨タルヤ下総國牧々開墾仰出サレシヨリ原告人共ハ開墾ニ從事シ往々地主タルヘキ目的ナリシニ後ニ該地ハ三井八郎右衛門ノ私有地タリトノ事ヲ聞キ目的相違スルノミナラス根元該地ハ原告人共ニ於テ地主トナルヲ得ヘキ權利アリテ三井八郎右衛門カ之ヲ私有スヘキ理由ナシト思ヘルモノ、如シ是原告人共ハ開墾著手ノ原因ヲ知ラサルニ依リ此妄想ヲ起セシナラン抑

開墾ノ舉タル其原因ハ專ラ東京ニ在ル所ノ無籍無産ノ窮民ヲシテ
 永シ産業ニ就カシムルノ恩典ニ出シモノニテ原告人共ノ如キハ孰
 レモ開墾ノ舉之レナキ前ヨリ該地ニ鄰接シタル松ヶ崎村ニ住居シ
 歴然タル在籍有産ノ一農夫ナリ就中原告ノ内山澤惣吉ハ該村副戸
 長出山半右衛門根本字兵衛ハ立會人ト相成リタル程ノ者ニテ決テ
 窮民ニアラス故ニ其初發開墾著手ノ際ニ於テ目的トセシ所ノ窮民
 ナルモノトハ其性質ヲ異ニスルモノナレハ他ノ窮民ト一般ノ恩典
 ナ蒙ルベキ理ナシ

第二條

原告人共ハ素ト窮民ニアラス又開墾規則中ニ所謂力民ノ部分ニモ
 アラス所謂力民ハ其力ヲ勞セシガ爲メニ別ニ金穀ノ酬ヲ得サルニ
 由リ其力ヲ勞セシ所ノ地面ヲ有スルノ酬ヲ得ルノ理アルヘシ原告

人共ノ如キハ各開墾賃料ヲ受取タル者ナリ已ニ賃料ヲ得又累ヌル
 ニ其地ヲ得ルノ理アリ然ラハ則之ヲ開墾規則中ニ所謂牧々近
 在窮民ノ部分ト看做サズ得ス而シテ近在窮民トモシハ幾坪
 ノ地ヲ開ケハ何百文ノ賃錢並定メ開墾成就ノ上ハ受作人タルヘキ
 條約ヲ以テ生産ヲ立ヘシトノ明文アリ故ニ原告人共ノ如キハ之ヲ
 規則面ヨリ論ズルモ條理上ヨリ論スルモ共ニ受作人タルヘキト判
 然タルモノニシテ到底地主トナルヲ得ヘカラスナルナリ

第三條

原告人共ハ初メテ該地開墾ニ着手セシトモハ官有地ニシテ開墾會
 社ハ官立ノモノト思ヒテ立タリ然ルニ其小作証書宛名ハ三井
 組開墾御掛衆中書シ且其冒頭ニ於テ貴所様御持ノ内小作下受仕
 下掲又去歲明治六年原告人共ハ高田村秋山彌平次等ニ同意シ地

所買取并賃銀受取方ノ儀ヲ千葉裁判所へ出訴シ其末遂ニ願下ケテ
 ナセシトキ貴殿御持地ノ内へ移住小作又ハ出小作罷在候ニ付テハ
 約定ノ都度々々書面差入確定致シ居候ヲ心得違致シ云々ノ一札ヲ
 差出タリ是レ原告人共ハ最初ヨリ三井八郎右衛門ノ私有地タルコ
 ナ信認シ又小作人タルコトモ甘心セシ明証ニシテ官有地下認メタル
 事アラサルコト瞭然タル事ナリ
 第四條 前條ノ如クナル事ハ地主タル者ハ其ノ地ノ所有權ノ
 前條々ニ陳述スルカ如クナルヲ以テ原告人共ハ地主タルヲ得ヘキ
 理ナキコト分明ナリ而シテ該地ハ三井八郎右衛門ノ私有地タルノ証
 ハ第一舊印幡縣廳ヨリ下附セラレタル地券証アリ其他之ヲ私有ス
 ヘキ理由アル所以ハ豊四季村渡邊忠兵衛ノ上告狀ニ對シ答辨セシ
 通りナリ

第二章

第一條

上告狀第一條ニ對スル答辨ノ旨意ハ前文第一章第一條中ニ開陳ス
 ル如シ故ニ東京上等裁判所ノ判決ハ不法ニアラスト思考ス

第二條

上告狀第二條ノ申立ハ原告人共ヨリ差出シタル小作証文ノ體面ヲ
 見レハ其官廳ニ對スルモノニアラサルコト判然タル故ニ東京上等
 裁判所ノ判決ハ不法ニアラスト思考ス

第三條

上告狀第三條ノ申立ハ原告人共ハ東京上等裁判所へ差出シタル控
 訴狀ヲ閲讀セシコトナケレハ果シテ自費開墾者ト申立タルコトナカリ
 シヤ否ヲ識別セズ故ニ之カ答辨ヲナシ不能ハサルナリ然レモ原告

人共か今日申立ル所ノ要點ニ開墾規則第三條近傍窮民ノ部分ナリト云フニ在リ而シテ東京上等裁判所ノ判決第二條中ニ規則第二條近傍窮民ノ部分ニ就テ論スルモノナリトアレハ原告人共か今日申立ル如ク判決アリシモノニシテ此判決ヲ不法トスル理由ヲ發見シ得サルナリ

上告狀第三條但書ニ開墾成功マテノ入費云々申立レトモ實際夫レ程ノ入費ヲ掛ケタルコトハ之レナシト思量セリ今姑ク原告人共ノ言フ所ニ從フモ東京上等裁判所ノ判決第二條中ニ已ニ近傍窮民ノ部分タルヲ知ル上ハ貨錢ノ少キト勞力ヲ用非シトハ素ヨリ得心ノ上取掛リシモノニテ夫カ爲メ別段ノ權利ヲ生スル筋無之トアリ此判決ヲ見レハ東京上等裁判所ニ於テ入費ノ實際ヲ審理セラルヘキ道理ナキトフ會得スルニ足ルヘシ

第四條

上告狀第四條ノ申立ハ東京上等裁判所ノ判決第二條中ニ規則第三條近傍窮民ノ部分ニ就テ論スルモノナリトアリ此ノ如キ明文アル上ハ東京上等裁判所ニ於テ原告人共カ開墾規則第二條ニ依ルヲ得ヘカラスト判決セラレタルニテアラザルト明瞭ナリ

第五條

上告狀第五條ノ申立ハ假令其地ハ官有ナルモ私有ナルモ小作人タルノ分限ヲ以テ小作金ヲ差拒ム理アルトナシ況キ原告人共カ初メヨリ三井八郎右衛門ノ私有地タルヲ識認セシモノナルトハ小作証書ニ於テ明瞭ナリ

第六條

上告條第六條ノ申立ハ固ヨリ三井八郎右衛門ハ官吏ニテラサレ

該地ヲ會社ニ付與セラレタルノ當否夫論スルノ權ナク又原告人共ニ向テ之ヲ説明スルノ責任モナシ故ニ右判決ハ不法ニアラスト思考ス

第七條 上告狀第七條ノ申立ハ八郎右衛門ノ關係セシコニテ原告人共ニ於テモ他人ノコトヲ援引シ以テ不公平ト云フモキ理之レナシハ第八條

第八條 上告狀第八條ノ申立ハ前文第一章第三條ヲ辨解ニテ明瞭ナリ
第一條 上告狀第一條ノ申立ハ東京上等裁判所ノ判決ヲ了解シ得タルニ出テタルモノトス何トナレハ東京上等裁判所ノ判決第一條中ニ開墾

規則ニ因ル時ハ該會社ハ當時府下無籍無産ノ窮民救助ノ爲メトアリテ開墾地近傍窮民救助ノ事ヲ擧ケザリシハ開墾會社ノ民立タルヲ辨明スル爲メ該會社ハ開墾規則ニ因リテ成立チタルモノニテ其成リ立チタル原因ハ首トシテ東京府下ノ窮民ヲ救助スルニ出テタルコトヲ辨スルニ在レハナリ而シテ其首トスル所ノ東京府下ノ窮民ヲ救助スルニ出テタル証ハ原告引証スル所ノ開墾規則前文中ニ就中東京ノ儀ハ非常ノ御變革被爲在候ヨリ俄ニ無籍ト相成候者不少云々右等ノ者共ヲ始メ其外窮民ニ至ル迄トアリ又原告引証スル所ノ開墾規則第三條ニ開墾地近傍在籍有産ノ窮民ト東京府下ノ無籍無産ノ窮民トハ差別アレドモ記シ同規則第九條ニモ今般ノ開墾ハ無籍ノ浮浪士ヲ始メ其外農工商トアルヲ以テ見ルヘシ故ニ東京上等裁判所ハ救助ノ首トスル所ヲ擧ケタル迄ニテ開墾地近傍窮民救

助ノ道ハ立テ置カレサル朝旨ナリト判決セシニアラス而シテ原告
 於テ相分リ難シト申立ル近傍窮民救助ノ事ハ開墾規則第二條
 明記シアル上ハ東京上等裁判所カ此判文ニ於テ開墾地近傍窮民ノ
 一ヲ擧ゲサリシトテ少シモ上告人ノ權利ニ妨害ナギニ因リ其擧
 非リシヲ以テ不法ニ裁判トスルヲ得ス
 第三條
 上告狀第二條ノ申立ニ付キ小作願書小作証書ノ果シテ官廳ニ對テ
 ルモノナルヤ否ヲ判決スルニ先ツ其小作願書ヲ受取リタル開墾
 會社ハ官立ナル乎民立ナル乎小作証書ヲ受取リタル三井組開墾方
 ハ何等ノ性質ニ成リ立チタルモノナルカヲ定メサルヘカラス而
 シテ原告ガ會社ヲ官立ナリトスル所以ハ控訴狀第二條ニ陳述セシ
 如シト申立ルニ依リ控訴狀第一條ヲ按スルニ其引証スル所三箇條

ナリトス而シテ其第一箇條ハ開墾規則前文ニ會社ヲ爲結トアル是
 ナリ然ルニ會社ヲ爲結トアル前後ノ文ニハ許多ノ窮民授産成功迄
 ハ中々不容易大事件ニ付政府ノ御世話而已ニテハ御手ノ十分ニ難
 被爲届御場合モ可有之依テハ今般東京始メ其外開墾ニ加入致度志
 願シ者ニ會社ヲ爲結自分金穀ヲ以テ開墾致度者ハ富民ノ部ニ入レ
 又ハ志ハ有之候トモ自力無之者ハ力民ノ部ニ入シ富民力民相互ニ
 助ケ合云々トアリ此文意ヲ解釋スレハ窮民授産ノ事ハ當時政府ノ
 世話ノミニテハ行届キ難キ場合モアルニ依リ志願ノ富民力民ニ會
 社ヲ結ハセ開墾ニ從事シ窮民授産ノ道ヲ立テシムルトナリ故
 ニ志願シ者ト云ヒ會社ヲ爲結ト云ヒ自分金穀ヲ以テ開墾致度者ト
 云ヒ志ハ有之候トモ自力無之者ト云ヒ歷々皆會社ノ民立タルヲ
 言フモノニシテ毫モ會社ノ官立タルヲ言フノ文意ナシ然レハ則

原告ノ所謂會社ヲ爲結トアルハ却テ會社ノ民立タルヲ証スルニ足ルモノニシテ會社ノ官立タルノ証ト爲スヲ得ス又第二ケ條第三ケ條ノ引証ハ開墾規則第八條ニ會社役人撰擧ノ事云々役義申可付等ニ付云々會社一般決議ノ上可申立事トアリ同規則第十條ニ開墾之御趣意ヲ拜承致シ願人或ハ有志ノ輩會社ノ者エ内談等有之節ハ其旨委細書取ヲ以當局ニ可届出管万一心得達致シ私ニ願書預リ又ハ如何敷税ト唱竊ニ金銀ヲ欺取云々トアル是ナリ原告ハ會社ノ社員カ右兩ケ條ノ如ク開墾局ノ命令ヲ受クルニ依リ會社ハ官立ノ証ナリトスレトモ抑開墾會社ノ成リ立チタルヤ政府ニ於テ先ツ開墾局ヲ置キ開墾規則ヲ設ケ其規則ニ據リテ富民方民ニ會社ヲ結ハセタルモノナレハ會社カ此規則ニ賴ツテ就業スヘキハ結社ノ初ヨリ定リタルモノナリ是故ニ開墾局カ右二條ノ如ク會社ノ事務ニ干與ス

ル所以ノ者ハ所謂許多ノ窮民ヲシテ授産セシムルハ容易ナラサル大事件ナルヲ以テ之ニ從事スルモノヲ監護スルニ出ルモノナルコトハ明瞭ナリトス左スレハ會社カ開墾局ノ命令ヲ受クルハ固ヨリ當然ノ事ニシテ其命令ヲ受ケタリトテ會社ハ官立ナリトシテ爲スヲ得ス又原告ニ於テタトヒ會社ハ官立ニモセヨ民立ニモセヨ小作願書小作証書ハ官廳ニ對スルモノナリト申立レトモ會社ノ官立タル乎民立タル乎ヲ問ハスシテ獨リ小作願書小作証書ノミニ依リ官廳ニ對スルモノト爲スヲ得サル者トス原告ハ第一窮民授産ノ爲メ開墾局ノ設立アリ第二窮民授産開墾規則ヲ施行セラル、ニ付會社ヲ結ハセラル、ノ方法アリト云フト雖モ開墾局ニテ規則ヲ立テ會社ヲ爲結タルモノナレハ開墾局ト會社トハ判然タル區別アリトス而シテ其會社ヲ爲結トアルハ官ヨリ人民ニ指揮シテ會社ヲ結ハシ

メシトニテ即チ會社ノ民立タルノ証ニシテ官立タルノ証ト爲スト
 得ス第三ハ小作願書ハ御局御支配小作人開墾會社御役人中様ト
 記シタリト云フト雖モ前ニ辨明セシ如ク民立タル會社ニ差出シタ
 ル小作願書ハ之ヲ官廳ニ對スルモノト爲ス夫得ス第四ハ小作証書
 ニ地稅御上納御役所ト記シタリト云フト雖モ其名宛ハ會社中ノ一
 人ナル三井組開墾方ニテ其証書ノ首ニ貴所様御持畑ノ内小作下請
 仕云々ト記シ又末文ニ御會社ノ御規則屹度相守可申トアルニヨレ
 ハ固ヨリ官廳ニ對セルモノトナスヘカラス是ニ由テ之ヲ觀レハ原
 告カ所謂開墾規則ニ據ルモ窮民授産ノ趣旨ニ對スルモ會社ハ民立
 ニシテ官立ニアラサル上ハ小作願書小作証書ハ官廳ニ對スルモノ
 ニアラストス又往古ヨリ土地ヲ開墾スレハ其地ハ開墾者ノ所有ト
 爲ル習慣ト申立レ厄右ハ他人ノ給與ニ依ラス獨立シテ開墾セシ者

ノ事ニシテ此案件ト其性質ヲ異ニセシ者ナリトス右ノ如クナルヲ
 以テ東京上等裁判所カ會社ノ民立タルトヲ辨明シ小作願書及ヒ小
 作証書ニ會社役人等ノ稱小作上納等ノ辭ヲ用弁タリトテ之ヲ官廳
 ニ對スルモノト爲スヘカラスト判決シタルハ不法ノ裁判ニアラス
 トス

第三條

上告狀第三條ノ申立ニ依リ原告ハ東京上等裁判所ニ於テ自費開墾
 ト申立タルトナキヤ否ヲ審査スルニ明治九年六月九日同裁判所ニ
 於テ原告ノ口供第一項ニ下總國葛飾郡十餘二村石塚與兵衛并同郡
 豊四季村渡邊忠兵衛控訴ト都テ同様アリトアリ依テ明治九年五月
 廿四日忠兵衛カ口供ヲ閱スルニ自分金穀ヲ以テ開墾致シ候者ハ往
 々該地ノ所有主タルヲ得ヘキ旨承リ云々自費ヲ以テ開墾致シ云々

自分ノ如キ自費開墾セシ者ハ云々トアレハ自費開墾者ト申立タル
ト明カナリ故ニ東京上等裁判所ハ自費開墾者ト賃錢取小作人トハ
開墾規則上其差別アリ而シテ原告人於テ賃錢ヲ受取リタル以上ハ
決シテ自費開墾者ノ部分ニアラスト判決セシモノゾテハ不法ノ裁
判ニアラストス

上告狀第三條但書ノ申立ヲ審理スルニ原告ハ開墾規則第二條ニ
アル近傍窮民ノ部中タルトニ異論ナキハ本條ノ申立ニ因テ明瞭
ナリ既ニ近傍窮民ノ部中タルニ異論ナキ上ハ東京上等裁判所カ
入費ノ實際ヲ審理セザリシヲ不條理ト爲スヲ得ス何トナレハ開
墾地近傍窮民處置ノ事ハ開墾規則第二條ニ明文アレハ此條ニ依
テ處置ヲ受クヘキモノニテ固ヨリ入費ノ實際ヲ審理スルヲ要セ
サレハナリ故ニ東京上等裁判所ニ於テ已ニ近傍窮民ノ部分タル

ヲ知レル上ハ賃錢ノ少キト努力ヲ用井シトハ素ヨリ得心ノ上取
掛リシモノニテ夫カ爲メ別段ノ權利ヲ生スル筋無之ト判決セシ
モノナレハ條理ニ適シタル裁判ナラズ

上告狀第四條ノ申立ハ東京上等裁判所ノ判文ヲ誤解セシモノトス
何トナレハ判文第二條中ニ原告人於テ賃錢ヲ受取タル以上ハ決シ
テ自費開墾者ニアラスト其自ラ言フ處ノ往々地主タルヲ得ヘキ目的
ナリシトハ規則第二條近傍窮民ノ部分ニ就テ論スルモノナリトア
ルハ原告カ自費開墾者ナリトノ申立ニ對シ自費開墾者ナレハ賃錢
ヲ受取ルヘキ理由ナシ既ニ賃錢ヲ受取タル上ハ自費開墾者ニアラ
ズ又自費開墾者ナレハ初ヨリ地主タルノ權ヲ有スルモノナレハ往
々地主タルヲ得ヘキ目的ナリシト言フヘキ理由ナシ既ニ往々地主

タルヲ得ヘキ目的ナリト云フ上ハ是亦自費開墾者ナリトノ申立ニ適當セス畢竟原告ニ於テ貨錢ヲ受取リタリト云ヒ又往々地主タルヲ得ヘキ目的ナリト云フハ規則第二條近傍窮民ノ部分ニ就テ論スルモノナリトノ意ニテ原告ハ規則第二條ニ依ルヲ得ヘカラスト判決セシメテ原告ハ規則第二條ニ依ルベキ申立ナリト判決セシナリ故ニ自己ノ誤解ヲ以テ此裁判ヲ不法トスルヲ得ス

第五條ニ於テ原告ハ被告ノ義務ヲ盡スヘキハ當然ナルハ上告狀第五條ノ申立ニ付東京上等裁判所ノ判決第三條中ニ所有主ノ官私ニ拘ラス被告ハ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然云々トアルヲ密按スルニ此判文ハ原告ニ於テ小作金ヲ納ルヲ拒ムルハ元官有地ト心得小作セシメニ圖ラズモ三井組ノ所有地トナリシ趣ニ

付其原因ヲ知ラサレハ納メ難シトノ申立ニ對スルモノニテ小作金ヲ納メルノ義務ハ所有主ノ官私ニ因テ之ヲ納ムルト納メサルトノ區別ヲ生スルモノニアラス故ニ原告ニ於テ小作人タラント願出小作証書ヲ差入タル上ハ該地ノ官有タルト私有タルトニ論ナク其小作人タルトハ明白ナリ已ニ小作人タレハ其小作証書ノ名宛人即チ被告人ニ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然ナリトノ意ナリトス然ルニ原告ニ於テハ官有私有ノ別ヲ明カニシテ而シテ後土地ヲ引渡スヘキ理由アラハ其時被告ハ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然ナリト云フト雖モ該地ノ官有タル手私有タル手ハ原告ニ於テ論スヘキトニアラス何トナレハ原告ハ初メヨリ小作証書ヲ被告ヘ差入被告ノ支配ヲ受ケ來ルモノナレハ其小作人タルノ契約ヲ履行スヘキモノナレハナリ然ルニ其契約ニ背キテ小作金ヲ差出ストコソ

拒ムニ依リ小作地引揚シ訴ヘラレタルモソナレハ原告カ所謂地所
 ナ引渡スヘキ理由ハ判然著明ナリトス故ニ東京上等裁判所ニ於テ
 其所有主ノ官私ニ拘ラス被告ヘ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當
 然ナルニ之ヲ差拒メルヨリシテ地所ヲ引揚シトスルハ証書上ニ對
 シ不當トスヘカラスト判決シタルハ適當ノ裁判ナリトス

第六條
 上告狀第六條ノ申立ヲ審理スルニ被告ニ於テ地所ヲ引揚シトスル
 ハ原告カ小作証書ヲ差入ナカラ小作人タルヲ義務ヲ盡サ、ルニ出
 テ其事理ノ明瞭ニシテ東京上等裁判所ノ判決ノ不法ニアラサルコ
 ハ已ニ第五條ニ辨明セシ如シ然ルニ原告ハ控訴狀第十三條及第
 十五條ノ末文ニ於テ却テ被告カ地所ヲ得タル確証ヲ知り得ンコトヲ
 示メタルヲミナラス控訴狀第一條同第三條同第十五條同第十六條

ニ於テハ該地處分上ノ事ニ論及セリ抑原告ハ初ヨリ被告ヘ小作証
 書ヲ差入小作人トナリタルモノナレハ小作人ニシテ地主カ地所ヲ
 得タル理由ヲ知り得ント求ムヘキ權利アルコトナシ且該地ヲ會社ヘ
 附與セラレタルハ官廳ノ處分ニ係ルモノナレハ民立會社ノ社員ナ
 ル被告ニ於テハ官廳ノ處分ニ付其處分ノ理由ヲ説明スルノ責任ナ
 キモノトス故ニ東京上等裁判所ノ判文第三條ノ結尾ニ於テ該地ヲ
 會社ヘ附與セラレシコトハ固ヨリ官廳ノ處分ニ關スルコトニテ其當否
 ナ被告ヘ對シ申立ヘキ筋ニアラスト判決セシモノニシテ不法ノ裁
 判ニアラストス

第七條

上告狀第七條第八條ハ東京上等裁判所ノ裁判ニ對スル申立ニアラ
 サルヲ以テ大審院ニ於テ辨明ヲ與フルノ限ニ在ラス

判決

前條々ノ如クナルヲ以テ大審院ニ於テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ由リ上告狀却下スル者也

第七拾三號

○窮民授産開墾地爭論一件上告ノ判文
明治九年八月二十八日
上告明治十一年五月廿七日
申渡

原告

千葉縣下下総國葛飾郡
高田村平民増田傳兵衛
外四人代人

東京府下第一大區九小
區出雲町三番地平民

松本善五郎

被告

京都府下上京第二十七

區油小路二條下ル二條

油小路町三百四番地平

民三井八郎右衛門代人

千葉縣下下総國葛飾郡

十餘二村平民

市岡晋一郎

千葉裁判所ノ審判

三井組代理市岡晋一郎ヨリ増田傳兵衛外五人ニ係ル小作金催促地所引上ケノ訴訟遂吟味處原告人於テ元來開墾地ノ儀ハ去ル明治二已年六月中當時東京府下ニ流落セル無籍無産ノ窮民ヲ移シ專ラ就産之途ヲ得セシメシカ爲メ會社設立相成ル御旨趣ニ從ヒ富民ノ者

篤キ朝旨ヲ奉シ同志協力結社セシモノニテ被告ノ如キ有籍有産者
 ノ救助ヲ專ラニス可キ儀ニ非ラス然ルニ土地ニ至リテハ初ヨリ會
 社ニ附與セラレシ事開墾規則上自ラ其趣意含蓄セテ殊ニ同三年
 十月中窮民引受數ニ應シ社中各持地ヲ定メ更ニ區分相立候ニ付即
 今被告モ小作セシメ置ク地ハ三井組所有ト相成リ已ニ同五年中
 小作人取扱規則ニ從ヒ小作証書ヲ取置タル處約ニ違ヒ小作金淹滯
 ノミナラス開墾規則第二條ニ依リ土地買取ル可キ權利アル旨ヲ以
 テ同六年十二月中訴訟ヲ起シ其後願意不相立ヲ悟リ一旦訴訟ニ及
 ヒナカラ尙依然トシテ小作人ノ義務ヲ盡ササルニ付証書約定ニ基
 キ小作金ハ勿論地所ヲモ引上度旨申立タリ
 被告於テハ明治二巳年六月頒布相成開墾規則第一卷第二條ニ基
 キ明治三年二月會社ニ願出許可ヲ得テハ反歩ノ地ヲ開墾シ同

五申年十一月ニ至リ小作証書差入以來該地ハ官有ニシテ會社ハ則
 テ官設ト心得約定通小作稅上納シ來レル處其後原告擅ニ私有地ノ
 趣申開ルニ付爾後納稅差拒ミタリ抑該地開墾ノ旨趣タルヤ專ラ窮
 民授産ノ恩典ニ出テタルモノナレハ富民ノ者ニ土地可賜謂レ無之
 故ニ開墾局ニ差出シタル願書中或ハ小作証書等ニ私有地ノ文休ハ
 有之トモ曾テ社員法地主ト看認メタルニ非ス至ク一時ノ誤謬ニ付
 明治六年十二月中當裁判所ニ有地所買取增賃銀請取之儀出訴致シ
 候處願意不條理ト相心得一旦訴狀願下ケ候得トモ尙熟ラ勘考スレ
 ハ右願下ケ致候モ矢張誤解ヨリ生シタル儀ニテ固ヨリ社員ハ該局
 ノ吏員ニシテ地所ハ官有地ト心得ルニ付小作金ハ直ニ官ニ上稅可
 致筋ナルガ故ニ原告ニ對シ納稅ハ勿論地所引渡シ候儀難相成旨申
 立タリ

因テ左之通判決ス

第一條

被告ニ於テ最初開墾局ニ差出シタル願書及ヒ小作証書ハ私有地ノ
文休ニ認メタル所アルモ右ハ當時ノ誤寫ニシテ元來官有地ト心得
シヲ以テ明治六年十二月地所買取云々ノ義當裁判所ニ出訴致シ其
節一旦非理ナルヲ自認シ訴狀願下ケ致セシ處猶之ヲ願レハ右願下
ケセシモ亦誤謬ニ出タル旨今更中立ルト雖モ開墾規則及ヒ小作人
取扱規則ヲ參照シ又其土地ヲ管轄スル千葉縣廳ノ証明スル所ニ據
レハ該地ハ會社ニ附與セラレシモノナリテ全ク原告ノ私有地ト可相
心得事

第二條

小作人取扱規則ニ據レハ被告ハ會社ハ加入致シタル筋ニ無之固ヨ

リ社外ノ小作人ニシテ其義務ヲ盡ス迄ノモノタレハ窮民授産處分
上ノ事ニ付可否ノ論議ニハ關係無之事

第三條

前二條之通ニ付被告ハ於テ証書而約定ノ義務ヲ欠キタル上原告
ノ督促ヲ抗拒スヘキ權利無之間小作金ニ勿論地所速ニ原告ヘ可引

渡事 明治八年十月廿四日

東京上等裁判所ノ審判

原告

增田傳兵衛外四人代理人松本善五郎控訴要領 明治九年

三月二十三日

明治二年六月 中窮民授産ノ爲メ下總國小金佐倉牧々開墾被仰出
リ自分共ハ右開墾地近傍窮民ナルヲ以テ窮民授産開墾規則第一卷
第二條ニ依リ開墾志願之旨明治三年二月舊開墾會社各出願シ小金

原字高田臺牧所稱之荒野反歩ヲ引受テ開墾シ明治五年四月中ニ至リ開墾規則第二條ニ基キ一反ニ付金壹圓五拾錢ヲ割リ以テ賃銀下渡相成タリ其後明治五年十月中小作証文差入耕地壹反ニ付貳拾五錢ノ上稅可致旨開墾會社ヨリ申渡サレ其際舊葛飾縣勸農掛鏑木平馬ヨリ右小作証文名當ハ三井組開墾掛中ト可相認旨廻狀ヲ以テ順達セシニ付乃チ承諾シ小作証文差入納稅致シ來リタル處三井八郎右衛門ヨリ右地所ノ地券御下ケ願ナシタル趣ヲ聞キ大ニ驚キ掛合中三井組ニ於テ小作証文ヲ以テ私有地ノ証憑トシ加村區裁判所ニ出訴シ未千葉裁判所ニ差廻サレ同所ニ於テ三井組私有地ニ付小作金ヲ償却シ地所引渡スヘシトノ裁判ヲ受ケタリ右裁判ハ不服ニ付別紙第一號ヨリ五號迄之書類ヲ證據トシ控訴スルコトノ如シ

證據書類目錄

- 第一號 窮民授產開墾御規則
- 第二號 葛飾縣勸農方廻狀
- 第三號 小作稅納之通
- 第四號 加村區裁判所へ具上セヌ答書
- 第五號 千葉御裁判所裁判狀

第一條

開墾會社官立ニシテ其社員ハ開墾ノ事務ヲ擔任シタル所以ハ窮民授產開墾規則前文ニ會社ヲ爲結下アリ又同規則第十條ニ開墾ノ御趣意ヲ拜承致シ願入或ハ有志ノ輩會社ノ者へ内談等有之候節ハ其旨委細書取テ以テ當局へ可届出等萬一心得違致シ私ニ願書預リ又ハ如何敷稅中唱鈴ニ金銀ヲ欺取云々同第八條ニ會社役人撰舉ノ

事云々役儀可申付等ニ付云々會社ニ般決議ノ上可申立事トスル此
數條ニ據シテ會社ノ官立タルハ勿論其社員ハ開墾局ノ命令ヲ受ケ
窮民授産上ノ職務ニ從事スル迄ノ者ニテ一人一己ノ私意ヲ行フヘ
キ者ニアラサレハ其社員タル被告三井八郎右衛門ニ於テ其地ヲ私
有ナルノ權利ナカルヘシ

第三條

開墾規則第三條ニ自分金穀ヲ以開墾加入願出候者所置ノ事云々三
町歩ノ地ヘ窮民一人引受云々上ヨリ拜借金ノ内ヲ以一人分ノ入費
ヲ下遣シ云々會社ヘ示談可致云々トアリ此條ニ依リ自費開墾願出
タル者ト被告八郎右衛門ノ如キ開墾規則ノ前文ニ依リ會社ヲ結ビ
タル社員ト別異ナルコトハ第三條中ニ會社ヘ示談可致トアルヲ以テ
判然タリ故ニ八郎右衛門カ窮民ヲ引受タレハトテ開墾規則第三條

ニ據ルヘキモノニテアラサルヘシ然レトモ窮民ヲ引受ケタルヲ以テ
規則第三條ニ照シ三町歩ノ地ヲ所有スルモノハ規則自分共ノ如キ
規則第三條ニ依リタル者ヲ除キソノ他ニ於テ所有スル別格規則
第三條ノ趣旨ヲ妨グヘキ條理ナカルヘシ
開墾規則第六條中ニ成功ノ入費中ニ牧々開墾ノ利ヲ以補フニ足ラ
ズトアリ又同規則第四條ニ縱令ハ地主ハ拾坪ヲ開候者ハ外ニ
壹坪半ノ地ヲ開キ會社ヘ差出スヘシ云々窮民授産ノ世話而已致候
者ハ寸地モ無之儀ニ付右地所相當ノ割ヲ以相渡往々其身土着ノ法
相立可申事トアリ此二條ヲ照合スルニ開墾ノ利ヲ以テ入費ヲ補フ
ニ足ラサルニ依リ拾坪ヲ開ク者ハ壹坪半ヲ會社ヘ差出スヘシトア
ルナリ凡利ヲ得ル者ハ元キコト能ハス即チ拾坪ハ元ニシテ壹坪

半ハ利ナリ然ルニ元利ヲ併セテ會社ノ所有ナレバ開墾規則
 前文ニ銘々一己ノ利欲ニ走り云々窮民授産ヲ御成業ヲ害フ間敷ト
 アル趣旨ニ抵觸スルヲ以テ被告八郎右衛門ニ於テ檀ニ開墾地ヲ引
 揚ントスルハ私欲ノ所業ナリ御成業ノ害ヲ及ボスルハ其趣旨ニ
 第四條ニ依リ得ルハ其地ニ亦政府ノ地ナリ之ヲ平民八
 郎右衛門ノ小作人取扱規則トスレハ同裁判所ノ判決第一條中ニ開
 墾規則ニ參照シテアリ政府ノ小作人取扱規則ト八郎右衛門ノ小作
 人取扱規則トニ地所ノ上ニ並行ハルニキ理ナシ有ハ八郎右衛門ノ
 地ニ政府ノ規則ヲ施行セラレタル歟又ハ八郎右衛門ノ規則ト政府
 ノ規則ヲ參互シ而シテ其地ハ八郎右衛門ノ地ト見認メラレタル歟

官民混淆事理明了ナラス因テ小作人取扱規則ノ成リ立テ及ヒ開墾
 地ニ付テ權利ヲ審理スルコトヲ乞フニ依リ得ルハ其地ニ亦政府ノ
 第五條ニ依リ得ルハ其地ニ亦政府ノ地ナリ之ヲ平民八郎右衛門ノ
 千葉裁判所判決第一條中ニ開墾規則及ヒ小作人取扱規則ニ參照シ
 云々原告ノ私有地ニ可相心得事トアレントモ開墾規則第何條ニ據ル
 トノ記載ナク又小作人取扱規則トハ政府ヨリ施行セラレタル規則ナ
 ルヤ八郎右衛門ニ設立シタル規則ナリヤ其判決明カクテ然ラズ雖モ
 抑此開墾ハ窮民授産ノ爲メ政府特別ノ恩典ニ出テ然ルコトニ開墾
 規則第二條ニ依リ賃銀飯米家作ヲ御手當ヲ蒙リ受作人トナリ自力
 出來次第右地所買取地主トナルヘキ方法ナリ此ノ如ク政府ノ開墾
 局ヨリ政府ノ規則ヲ以テ政府ヨリ御手當被下受作人トナリ又其
 地ヲ買取ルコトヲ得ル者政府ヨリ普ク人民ニ示サレタル止斷然政

府ノ地所ト謂ハサルヲ得ズ假リ三之ヲ八郎右衛門ノ私有地ト看倣
 スモ八郎右衛門ノ私有地ニ政府ヨリ開墾局并ニ規則ヲ立テラシ其
 規則ヲ普ク人民ヘ示サルヘキ理ナク又政府ニ於テ八郎右衛門ノ事
 務ヲ行ハルヘキ理ナシ然ルニ詞訟ノ末忽然顯ハレタル小作人取扱
 規則ヲ以テ窮民授産ノ方法ヲ害シ此ニ付テハ當初施行セラレ
 窮民授産ノ廉價取消ニ相成タル歟小作人取扱規則ヲ以テ窮民ノ無
 住無産トナルヘキヲ執行セザルハ是ノ歟前後ニ規則區別相立ツ
 様審判アラシクハ乞フ所ナリ

第六條 前條中ニ開墾掛中ト記シタル小作人取扱規則ニ
 小作証文中ニ貴所様御持ト記シタルハ八郎右衛門ヘ對スル語ニ似
 ズレバモ御持主ハ御持場御持主ノ二様ニ涉ル字ニテ御持主ナレハ
 八郎右衛門ヲ指シタルニ相當ル御持場御持主其職務ヲ指シタル

相當リ判然ナラス又同証文中ニ三井組開墾掛中ト記シタルハ政府
 ノ開墾會社ノ事務ヲ預リタル社員ヲ指シタルニ當レトモ若シ是ヲ
 八郎右衛門ノ開墾掛リトスルトキハ開墾ノ事業ハ政府ヨリ窮民授
 産ノ爲メニセラル、開墾ナル歟三井組ノ開墾ナル歟其原由ヲ審理
 アラシクシテ

第七條

小作証文中ニ地稅ト記シ御上納ト記シ御役所ト記シタルハ則官ニ
 對スル語ナリ左スレハ此三語ヲ以テ小作証文ハ其職務ヘ對シ差入
 レタルト判然タリ既ニ八郎右衛門ハ會社ノ役員ナルヲ以テ上稅ハ
 勿論都テ違背ハ仕間敷ト記シタルナリ然ルニ八郎右衛門ハ其職務
 上ニテ受ケタル小作証文ヲ以テ私有ノ証トスルハ平民ノ内八郎右
 衛門ニ限リ地稅御上納御役所ノ名稱ヲ許サレタル者歟若シ許サレ

タルモノトモハ其許サレタルトナリテ承知セヌシテ差出シタル小作証
文ハ其承知セサル廉ヲ以テ取消サレントナラズ

第八條

小作証文中ニ御會社ノ御規則ト記シタルハ政府ノ恩典ニ出テタル
窮民授産開墾規則前文ニ志願ノ者ニ會社ヲ爲結云々トアルヲ指シ
タルモノナリ若シ茲ニ八郎右衛門ノ開墾地アリ八郎右衛門ノ規則
アリトスレハ政府ノ開墾地ノ幾部分ヲ何年月日ニ八郎右衛門ニ分
割セラレタル歟若又開墾ノ事業ハ最初ヨリ八郎右衛門ノ如キ開墾
會社社員ノ事業ナリトモシ歟然ルトキハ平民ノ開墾地ニ政府ヨリ
局ヲ設ケ政府ノ窮民ヲ平民ノ開墾地ニ於テ授産スル規則ヲ施行セ
ラレタルモノ歟其開墾ト其規則トノ根源ヲ審理アラシムコトヲ乞フ

第九條

千葉裁判所ニ於テ三井八郎右衛門ノ口供ニ開墾規則第五條ニ依リ
金札貳拾萬圓會社一同ニ基金トシテ貸下ケ相成候分明治五年五月
中廢局廢社ノ砌右拜借金貳拾萬圓ハ其儘會社并ニ窮民ニ下賜候旨
被仰渡候ニ付窮民共ニ貸渡候金穀ハ勿論其他悉皆渡切ニ相成爾後
獨立ノ農夫ト相成候トアレトモ東京ノ窮民ハ開墾規則第一條ニ依
リ三ヶ年ノ間衣食住ハ勿論万事御世話ヲ蒙リ受作人トナリタルモ
ノナリ近在ノ窮民ハ開墾規則第二條ニ依リ賃銀飯米家作ノ御手當
ヲ蒙リ受作人トナリタルモノニテ窮民ノ差等ニ隨ヒ御救助ノ厚薄
アリト雖モ拜借金ヲ會社并ニ窮民ニ下賜ル旨仰渡サレタル上ハ東
京ノ窮民モ近在ノ窮民モ窮民タルノ別ナカルヘシ然ルニ東京ノ窮
民ノニ金穀其他ノ御貸渡シ被下切ニ相成近在ノ窮民ハ御下渡ノ賃
銀被下切ニ相成ス均シク政府ノ恩典ニシテ二途ニ處分セラルヘ

キ管ナキハ勿論ナレバ八郎右衛門其他ノ社員カ方法ヲ曲ケ事務ヲ取扱ヒタルト判然タリ故ニ其不當ヲ審理セラレントテ乞フ

第十條

前條ノ目供ニ依レハ八郎右衛門ニ於テハ東京窮民ノ外開墾ニ着手セシ窮民ハ開墾規則第二條ノ部内ニ非サル者トスル歟若シ然ルトキハ開墾規則第二條ハ有名無實ト看做シタル歟已ニ窮民授産ノ規則アリ其規則ニ適當シタル窮民ニシテ現ニ其規則ノ事業ヲ踐行シタルニ却テ規則ニ適當セサルモノトスルハ不當ナルヲ以テ其不當ノ廉ヲ審理アラントテ乞フ

第十一條

近在窮民ハ開墾規則第二條ノ通貨銀飯米家作ノ御手當ヲ蒙リ一旦受作人トナリ自力出來次第御拂下願テ地主トナリタキ志願ニ

テ開墾ニ着手セシ處御手當等ハ下渡ナキヲ以テ據ナク本村ノ財産ヲ賣却シ又ハ他借ヲナシ壹反ニ付金七圓五拾錢位モ相掛ケ又ハ其金額ニ應シタル筋力ヲ尽シ開墾セシニ成功ノ後ニ至リ壹反ニ付賃銀金壹圓五拾錢宛下渡相成タレトモ未タ飯米家作ノ御手當ヲ受ケサルノミナラス開墾入費モ十分ノ二ニ當ル金額壹反ニ付壹ヲ下渡アリタレト十分ノ八ハ窮民ノ出セシ資本ナルヲ以テ其實況ヲ審理アラントテ乞フ

第十二條

千葉裁判所ニ於テ被告ノ申立ニハ東京ノ窮民二千五百戸九千余人ニテ開墾其他ノ失費高凡七拾萬圓余ニ至レリト因テ葛飾郡豐四季村字南組ト稱フル四拾戸ノ者ノ救助ヲ蒙リタル金額ヲ計算スルニ平均壹戸ニ付金三拾圓未滿ナリ試ニ此割合ヲ以テ東京ノ窮民二千

五百戸ニ筭當スルニ七萬五千圓ニ上ラストヒ其他ノ入費ヲ格外ニ見込タリトモ御貸下金貳拾萬圓ノ高ヲ越ユヘキ筭ナシ然ルニ七拾萬圓余ノ申立ハ不相當ニシテ信シ難シ況ヤ御貸下金ト通算スレハ百萬圓餘ナルヲヤ果シテ實ナルモ冗費此ノ如クナルハ開墾規則前文中銘々一己ノ利欲ニ走ラス窮民授産ノ道相立候様注意可仕トアル旨ニ對シ不條理ナルニ依リ實地精算ノ審理アラントテ乞フ

第十三條

千葉裁判所ノ判決第一條中ニ其土地ヲ管轄スル千葉縣廳ノ證明スル所ニ據レハ該地ハ會社ヘ附與セラレタルモノニテ全ク八郎右衛門ノ私有地ト可相心得トアレトモ千葉縣廳ノ證明スルトノミニテ何年何月何ノ御役所ヨリ何等ノ達書アリ何等ノ証ニ據リ八郎右衛門ノ私有地トナリタルトノ証據ヲ示シ窮民ノ承知ヲ經タルニアラ

サレハ千葉縣廳ノ證明ハ無証ノ口實ヲ是トセシレシモノナルヤナ保シ難キニ依リ不明ノ判決ナリト思考ス

第十四條

千葉裁判所ノ判決第二條中ニ被告ハ會社ヘ加入致シタル筋ニ無之固ヨリ社外ノ小作人ニシテ其義務ヲ盡ス迄ノモノトアリ其社外タルハ勿論ナレトモ開墾規則第二條ニ開墾加入願出候者所置ノ事トアル廉ニ依リ開墾ニ加入セシモノナレハ其義務ヲ盡スニ至テハ政府ヘ對シテハ盡スヘキノ義務アレトモ八郎右衛門ヘ盡スヘキノ義務ナシ故ニ權限上不備ノ判決ナリト思考ス

第十五條

千葉裁判所ノ判決第二條中ニ窮民授産處分上ノ事ニ付可否ノ論議ニハ關係無之トアレトモ窮民授産開墾規則ノ趣旨ヲ體認シ耕耘勞

若七八年ノ久シキヲ經開墾地ノ人民トナリタル者ニ於テ窮民授産處分上ノ可否ヲ論議セシテ誰カ之ヲ論議スルトナリ得ンヤ然レドモ始ヨリ處分上ノ可否ヲ論セシニアラス八郎右衛門ニ於テ小作地引揚云々ト非理ノ訴ヲ爲スニ依リ止ムヲ得ス開墾規則ヲ援引シテ論争スルニ至リシノミ然ルニ八郎右衛門ノ主張スル所ハ開墾規則ニ抵觸スルノミナラス何年何月ヨリ八郎右衛門ノ私有地ト成リタルトソ證據トスヘキ文書モナク又曾テ通知シタルトモナク讀聞カセタルトモナキ小作人取扱規則ヲ証憑トセリ因テ姑ク可否ヲ議論スル權利上一歩ヲ讓リ專ラ審問ニ對シ八郎右衛門ノ私有地トナリタル確証ヲ求メタルニ却テ此ヲ舍テ處分上可否ノ論議ニ關係無之ト判決セラレタルハ不明ノ判決ナリト思考ス

第十六條

千葉裁判所ノ判決第二條全文ノ意ハ三井八郎右衛門ノ被告タル窮民ハ開墾規則ニ依ラサルトノ判決ナル歟若シ然ルトキハ第十條ニ論シタル如ク開墾規則第二條ハ有名無實ナル者歟又ハ取消サレタルモノ歟然ラズツハ開墾規則第二條ニ依リタル窮民ハ處分上ノ可否ヲ論議スルノ權ヲ有スルハ至當ノ條理ナリト思考ス

第十七條

小金佐倉牧々開墾地ハ舊來御用地ト唱ヘ野付村々地先進退ノ牧馬場ナリシヲ窮民授産ノ爲メ壹万三千町步ヲ八個年以内ノ開墾ニシテ既ニ千葉縣管内ニ覽表ニモ開墾地反別ト別段記載シアル地種ニシテ地所ノ名稱ニ依レハ野方無税ノ公有地ニ適當セリ又大藏省布達地租改正施行規則第十二則新開墾下年季中ノ分ハ其年季中無税ヲ積リ相心得新開墾作地反別何程ト相記無代價ノ券狀可相渡事

トアル廉價開墾規則第一條中御下金ヲ以開墾仕一旦受作人ト相成
 其入費ヲ十年内ニ返濟スルトテ獨立農夫タルヘシトアル廉價
 ナ参照スレハ普通ノ新開地窮民授産ノ爲メノ開墾モ道理上ニ於テ
 異ナルコトヲ認即テ鐵下年季中ノ新開地ニ十年限ヲ拜借金ヲ負ヒ
 ズル筋ニ相當シテ又証跡ニ就テ論ズルニキハ第一條第二條第三條
 ニ記載セシ如ク開墾規則御注意ノ通リナリ然ルニ千葉裁判所於
 テ官立會社ノ社員タル八郎右衛門關係ノ地ハ八郎右衛門ノ私有地
 ト裁判アリ中村初太郎吉田耕太郎關係ノ地ハ公有地ト裁判アリ而
 シテ千葉縣廳ニ於テハ開墾地ハ會社ニ附與セラレタルモノナリト
 無証據ノ事ヲ申立テシテ又明治五年廢局廢社ノ節許多窮民ノ内
 東京ノ窮民ハ各開墾地五反五畝步宛下サレタルハ官有地ト處分
 ナリ元來一種ノ開墾地ニシテ其處分此ノ如ク異同アルハ了解シ難

シ依テ官公民有地ノ區別ヲ審理セラレ開墾規則第二條ノ趣意判然
 相立ツ様審理セザレバ之ヲ夫乞ハ開墾規則ニ依テ審理スルニ可キ
 ナリト判文ニ於テハ開墾規則第一條ノ趣意判然ニ相立ツ様審理セザレバ
 本訴ハ明治八年九月二十五日下總國葛飾郡十余二村石塚與兵衛ノ
 控訴并明治九年三月二十三日下總國葛飾郡豐四季村渡邊忠兵衛ノ
 控訴ト其旨趣手續等都テ同様ナル旨申立テタリ然ルニ右石塚與兵
 衛渡邊忠兵衛ノ控訴何レモ初審裁判者至當トシ判決ニ及ヒテ明
 因テ本訴ノ義モ同様ノ筋ト相心得ニシ依テ之訴狀下ヲ戻シ候事
 明治九年七月三日
 大審院ニ於テハ
 原告増田傳兵衛外四人代人松本善五郎上告ノ要領
 第一條

東京上等裁判所ノ判決第一條中ニ開墾規則ニ因ル時ハ該會社ハ當時府下無籍無産ノ窮民救助ノ爲メ府下有志ノ者共朝旨ヲ奉シ結社セシモノニテトアレントモ開墾規則第一卷前文ニ無籍無産ノ窮民ヘ永ク産業ヲ被爲授度思召ヨリ被仰出候處就中云々右等ノ者共ヲ始メ其外窮民ニ至ル迄御世話被爲在度云々右窮民授産成功ヲ計ルヘシ云々トアリ又同規則第二條ニ牧々近在之窮民ヨリ開墾加入願出候者所置之事云々在籍有産ノ貧民ニシテ云々幾坪ノ地ヲ開候得ハ何百文ノ賃銀幾坪ノ草藪ヲ取候得ハ何程ノ賃銀ト定メ或ハ飯米位ノ手當ヲ以地所預リ或ハ家作迄貸渡何レモ開墾成就ノ上受作人タルヘキ云々生産ニ就候様可致云々トアリ又同規則第九條ニ今般之開墾ハ無籍ノ浮浪士始メ其外農工商ニ至ル迄差加候義ニ付云々トアリ此三個條ニ依レハ牧々近在窮民救助ノ道ヲモ立置カレタル

朝旨ナルヲ明瞭ナリ然ルニ只開墾規則ニ因ル時ハ府下窮民救助ノ爲メトノミアリテ近在窮民救助ノ事ニ付テノ判決ナシ故ニ府下窮民救助ノ道ハ相分リズトモ近在窮民救助ノ道相分リ難キ判決ナルヲ以テ不法ヲ思考ス

第二條

同裁判所判決第一條中ニ全国立會社ナリ故ニ小作願書及ヒ小作証書ニ會社役人等ノ稱小作上納等ノ辭ヲ用サズトテ之ヲ官廳ニ對スルモノトナス可カラサル事トアレハ會社ノ官立ニシテ国立ニアラサル所以ハ控訴狀第一條ニ陳述セシ如シ又トヒ會社ハ官立ニモセヨ国立ニモセヨ第一窮民授産ノ爲メ開墾局ノ設立アリ第二窮民授産開墾規則ヲ施行セラル、ニ付會社ヲ結ハセラル、方法アリ第三小金原開墾被仰出候御規則面ノ通り御局御支配小作人ニ被成下

度云々開墾會社御役人中様ト記シタル小作願書ヲ差出シタリ第四
 地稅御上納又ハ御役所ト記シタル小作証書ヲ差出シタリ抑開墾ノ
 事業ハ政府特別ノ恩典ニ出テ其開墾地ハ往時御用地ト唱ヘタル牧
 馬場ナリシヲ自分ノ勞力ヲ以テ漸次良田ト爲シ七ヶ年間現ニ其地
 ニ住居セリ左スレハ開墾規則ニ據ルモ窮民授産ノ趣旨ニ對スルモ
 又往古ニ於テ土地ヲ開墾スレハ其地ハ開墾者ノ所有トナル習慣ニ據
 ルモ小作願書小作証書ハ官廳ニ對シタルモノナルニ官廳ニ對シテ
 ルトノ判決ハ不法ナリト思考ス

第三條

同裁判所ニ判決第三條中ニ自費開墾者ト賃錢取ル小作人トハ開墾
 規則上其差別アリトテ元來自分共ニ於テ自費開墾者ト申立
 出ルコトナク開墾規則第三條近傍窮民ノ部分ト申立タルガリ然ルニ

自費開墾者ト申立タル如ク判決アリシハ不法ナリ

但開墾成功迄ノ入費ハ壹反ニ付金七圓五拾錢程モ相掛リタルニ
 其賃錢トシテ下渡サレタルハ壹反ニ付金壹圓五拾錢ナリ左スレ
 ハ入費十分ノ二ハ下金アリタレトモ十分ノ八ハ自分ノ資金ト勞
 力トニ出タルモノナルニ東京上等裁判所ニ於テ其實際ヲ審理セ
 ラレサリシハ人民ノ損害ヲ保護セラレサル裁判ナルヲ以テ不條
 理ナリト思考ス

第四條

同裁判所ノ判決第三條中ニ原告人於テ賃錢ヲ受取リタル以上ハ決
 シテ自費開墾者ニアラス其自ラ云フ所ノ往々地主タルヲ得ヘキ目
 的ナリシトハ規則第三條近傍窮民ノ部分ニ就テ論スルモノガリト
 アリ其文意ヲ推スニ自分共ハ開墾規則第二條ニ依ルヲ得ヘカフサ

ルトノ判決ナリ賃錢ヲ取ルト取ラサルトニ差別アルハ勿論ナレトモ然レトモ開墾規則第二條ニ賃銀飯米家作ノ手當ヲ以テ地所預リ受作人タルヘキトアルニ據レハ賃銀ヲ受取リタリトテ規則第二條ニ依ルヘキモノナルニ規則第二條ニ依ルヲ得ヘガラサルトノ意ヲ以テ判決セラレタルハ不法ナリ

第五條

同裁判所ノ判決第三條中其小作金ヲ納ルコトヲ拒メルハ元ト官有地ト心得小作セシニ圖ラズモ三井組ノ所有地トナリシ趣ニ付其原因ヲ知ラサレハ納メ難シト謂ト雖モ原告ニ於テ初メ小作人タラントナ願出シヨリ以來云々其所有主ノ官私ニ拘ラス被告ヘ對シ小作人ノ義務ヲ尽スルニ當然ナリトアレトモ所有主ノ官私ニ拘ラス被告ヘ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然ナリトハ驚愕ニ堪ヘサル

ナリ何トナレハ官有私有ノ別ヲ明カニシ而シテ後土地ヲ引渡スヘキ理由アラハ其時被告人ヘ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然ナルニ只官私ニ拘ラス小作人ノ義務ヲ尽スヘキハ當然ナリトノ判決ハ不法ナリト思考ス

第六條

同裁判所ノ判決第三條中ニ諸事被告ノ支配ヲ受來リ今モ仍ホ異ナルトナシ云々且該地ヲ會社ヘ附與セラレシトハ固ヨリ官廳ノ處分ニ關スルトニテ其當否ヲ被告ヘ對シ申立ヘキ筋ニ非ストアレトモ官廳ノ處分ニテ該地ヲ會社ヘ附與セラレタルモノナラハ其處分ノ理由ヲ該地ニ住スル窮民ヘ公示スヘキハ今モ仍ホ諸事ヲ支配スル八郎右衛門ノ責任ナリ然ルニ其事理曖昧ニシテ土地ヲ引揚ント欲スルニ依リ控訴狀第十五條ノ末文ニ其當否ヲ辨シ事理ノ明了セン

トテ求メタルニ却テ其當否ヲ被告ヘ對シ申立ヘキ筋ニアラストノ
判決ハ不法ナリト思考ス

第七條

本件ノ始末ハ明治二年六月開墾局ヨリ施行セラレタル窮民授産開
墾規則ニ基キ結社セシ開墾會社社員三拾余人ノ内三井八郎右衛門
ノ代理人市岡晋一郎同社員中村初太郎吉田耕太郎三人ヨリ窮民ノ
内自分共ノ部類七ヶ村二百二十三人ヘ對シ開墾地ハ八郎右衛門外
二人ノ私有地ナル旨ヲ以テ小作地引揚ノ訴狀二十三件ヲ加村區裁
判所ヘ差出タリ因テ自分共ニ於テハ官有地受作人タル旨各自答辨
セシ處其内八郎右衛門ヨリ石塚與兵衛ヘ對スル一件ノミ裁判アリ
其他ハ千葉裁判所ヘ差廻サレ同所ニ於テ審理中中村初太郎吉田耕
太郎ヨリ立澤甚五郎外三十一人ヘ對スル件々ハ原告ハ官有地進退

人被告ハ官有地受作人タル旨ノ証書爲取換解訟セリ八郎右衛門ノ
被告タル百九十壹人ノ件々ハ明治八年十二月明治九年一月兩度ニ
裁判申渡サレタリ依テ被告ノ内石塚與兵衛ハ明治八年九月東京上
等裁判所ヘ控訴シ其他ハ明治九年三月二十三日同裁判所ヘ控訴シ
同所ノ裁判ヲ受ケ耕地ヲ引渡シ地稅及ヒ訴訟入費ノ爲ニ身代限ヲ
差出シタリ政府特別ノ恩典ニ出タル同種ノ窮民ニシテ其德澤ヲ蒙
ルト一ナラサルハ不公平ト思考ス

第八條

被告八郎右衛門ニ於テ開墾地引揚請求ノ證據トスル小作証文ハ平
民八郎右衛門ヘ差入タルニアラスシテ政府ノ開墾事務ヲ擔當スル
八郎右衛門ヘ差入レタルナリ其事理ハ控訴狀第六條ヨリ第八條迄
ニ具陳セシ如クナリ然ルニ八郎右衛門ニ於テハ自己ヘ差入レタル

証文ナリト其權限ヲ取リ違へ地所引揚ヲ訴出ルト雖モ抑窮民授産ノ開墾ハ八郎右衛門ノ開墾ナル歟政府特別ノ恩典ニ出タル開墾ナル乎政府特別ノ恩典ニ出タル開墾ナレハコソ開墾局ヨリ窮民授産開墾規則ヲ施行セラレ其規則ノ前文ニモ許多ノ窮民授産成功迄ハ中々不容易大事件トアリ左スレハ右小作証文ハ職務上ニテ八郎右衛門へ受取タルモノナルニ其小作証文ヲ以テ小作地ヲ引揚ントスルハ權限外ノ請求ト思考ス

前條々御審理ノ上原裁判ヲ破毀セラレシテ乞フ

被告 三井八郎右衛門代人市岡晋一郎答辨ノ要領

答辨書ヲ分テ二章トシ第一章ハ爭訟ノ大体ニ就テ上告ノ不當ヲ辨解シ第二章ハ上告狀ニ就テ逐條答辨ス其答辨ニ付憑証トスル所ノ書類ハ今般答辨スル十二件トモ同一ニ付渡邊忠兵衛カ上告ニ對ス

ル答辨書ニ添へ差出タリ其書目左ノ如シ

證據書類目錄

第一號

一千葉縣下ニアル三井八郎右衛門私有開墾地處分ニ付市岡晋一

郎ヘノ委任狀

第二號甲印

一窮民授産開墾規則第壹卷

第二號乙印

一窮民授産開墾規則第貳卷

第三號

一小作人取扱方規則

第四號甲印

一 下總國開墾地ノ事ニ付東京府ヨリ千葉縣へ回答書ノ寫

第四號乙印

一 東京府ヨリ下總國牧々開墾一件ニ付舊印幡縣へ演說書中拔書

第四號丙印

一 民部官ヨリ屋作料下渡書及ヒ東京窮民無産ノ者御處置大意

第四號丁印

一 東京窮民授産仕法畧卷ノ一寫

第四號戊印

一 窮民授産取扱方内則寫

第四號己印

一 開墾事業顛末大意

第四號庚印

一 下總國開墾地ノ事ニ付千葉縣ヨリ加村區裁判所へノ回答書ノ寫

尙原告人増田傳兵衛外四人ニ對スル証據目錄左ノ如シ

第一號

一 小作証文寫并千葉裁判所ノ裁判執行濟届書へ調印有之分一通

第二號

一 三井組開墾方へ宛タル反別取調ノ義ニ付証文一通

第三號

一 三井組開墾方へ宛タル賃銀受取書六通

第四號

一 解訟後入費費受ノ一札一通

第五號

一 小作金日延証文一通

第六號

一 地券証三通

第一章

第一條

原告人共訴フル處ノ要旨タルヤ下総國牧々開墾仰出サレシヨリ原告人共ハ開墾ニ從事シ継々地主タルヘキ目的ナリシニ後ニ該地ハ三井八郎右衛門ノ私有地タリトノ事ヲ聞キ目的相違スルノミナラヌ根元該地ハ原告人共ニ於テ地主トナルヲ得ヘキ權利アリテ三井八郎右衛門ハ之レヲ私有スヘキ理由ナシト思ヘルモノ、如シ是レ原

告人共ハ開墾着手ノ原因ヲ知ラサルニヨリ此ノ妄想ヲ起セシナラシ抑開墾ノ舉タル其原因ハ專ラ東京ニアル無籍無産ノ窮民ナシテ永シ産業ニ就カシムルノ恩典ニ出シモノナリ原告人共ノ如キハ開墾ノ一農夫ニシテ決シテ窮民ト目スヘキモノニアラス故ニ其初發開墾着手ノ際ニ於テ目的トセシ所ノ窮民部分トハ其性質ヲ異ニスルモノニテ他ノ窮民ト一般ニ恩典ヲ蒙ルヘキ理ナシ

第二條

原告人共ハ素ト窮民ニアラス又開墾規則中ニ所謂力民ナルモノ、部分ニモアラス所謂力民ハ其力ヲ勞セシカ爲メニ別ニ金穀ノ酬ヲ得サルニヨリ其力ヲ勞セシ地面ヲ有スルノ酬ヲ得ヘキ理アルヘシ原告人共ハ各開墾賃料ヲ受取タリ已ニ賃料ヲ得又累タルニ其地ヲ

得ルノ理ナシ然ラハ則之ヲ開墾規則中ニ所謂牧々近在窮民ノ部分ト看做サ、ルヲ得ス然ルニ近在窮民ナルモノハ幾坪ノ地ヲ開ケハ何百文ノ賃錢ト定メ開墾成就ノ上ニ受作人タルハ條約ヲ以テ生産ヲ立ヘシトノ明文アリ故ニ原告人共以如キ之レヲ規則上ヨリ論スルモ條理上ヨリ論スルモ共ニ請作人タルヘキト判然タルモノニシテ到底地主タルヲ得ベカラサルナリ

第三條
原告人共ハ始メテ該地開墾ニ着手セシトキハ官有地ニシテ開墾會社ハ官立ノモノト思ヘリ以申立タリ然ルニ其小作証書宛名ハ三井組開墾方御掛衆中ト書シ且其冒頭ニ貴所様御持畑ノ内小作下請仕候ト掲載シ又去ル明治六年ニ於テ原告人等ハ同村秋山彌平次ヲ總代トシ地所買取并賃銀受取方ノ義ヲ千葉裁判所ニ出訴シ其末遂ニ

願下ナセシトキ貴殿御持地ノ内へ出小作罷在候ニ付テハ約定ノ都度々々書面差入確定致シ居候ヲ心得違致シ云々トノ一札ヲ差出シタリ是レ原告人共ハ三井八郎右衛門ノ私有地タルトヲ信認シ又小作人タルヲ甘心セシ明証ニシテ官有ト認メタルニ非ルト瞭然ナリ

第四條
前條々々陳述スルカ如クナルヲ以テ原告人共ハ地主タルヲ得ヘキ理ナキト分明ナリ而シテ該地ハ三井八郎右衛門ノ私有地タルノ証ハ第一舊印幡縣廳ヨリ下付セラレタル地券証アリ其他私有スヘキ理由アル所以ハ豊四季村渡邊忠兵衛ノ上告狀ニ對シ答辨セシ通りナリ

第一條

上告狀第一條ニ對スル答辨ノ旨意ヲ前文第一章第一條中ニ開陳スル如シ故ニ東京上等裁判所ノ判決ハ不法ニアラスト思考ス

第二條

上告狀第二條ノ申立ハ原告人共ヨリ差出シタル小作証文ノ體面ヲ見レハ其官廳ニ對スルモノニアラサルヲハ判然タリ故ニ東京上等裁判所ノ判決ハ不法ニアラスト思考ス

第三條

上告狀第三條ノ申立ハ原告人共カ東京上等裁判所へ差出シタル控訴狀ヲ閱讀セシメナケレハ果シテ自費開墾者ト申立タルトナカリシヤ否ヲ識別セス故ニ之レカ答辨ヲナスト能ハサルナリ然レトモ原告人共カ今日申立ル所要點ハ開墾規則第二條近傍窮民ノ部分ナ

リト云フニ在リ而シテ東京上等裁判所ノ判決第二條中ニ規則第二條近傍窮民ノ部分ニ就テ論スルモノナリトアレハ原告人共カ今日申立ル如ク判決アリシモノニシテ此判決ヲ不法トスル理由ヲ發見シ得サルナリ

上告狀第三條但書ニ開墾成功マテノ入費云々ト申立レトモ實際夫レ程ノ入費ヲ掛ケタルトハ之レナシト思量セリ今姑ク原告人共ノ言フ所ニ從フモ東京上等裁判所ノ判決第二條中ニ已ニ近傍窮民ノ部分タルヲ知レル上ハ貨錢ノ少キト勞力ヲ用ヰシトハ素ヨリ得心ノ上取掛リシモノニテ夫カ爲メ別段ノ權利ヲ生スル筋無之トアリ此判決ヲ見レハ東京上等裁判所ニ於テ入費ノ實際ヲ審理セラルヘキ道理ナキコトヲ會得スルニ足ルヘシ

第四條

上告狀第四條ノ申立ハ東京上等裁判所ノ判決第二條中ニ規則第二條近傍窮民ノ部分ニ就テ論スルモノナリトアリ此ノ如キ明文アル上ハ東京上等裁判所ニ於テ原告人共ハ開墾規則第二條ニ依ルヲ得ヘカラスト判決セラレタルニアラサルコト明瞭ナリ

第五條

上告狀第五條ノ申立ハ假令其地ハ官有ナルモ私有ナルモ小作人タルノ分限ヲ以テ小作金ヲ差拒ム理アルコトナシ況ヤ原告人共ハ初メヨリ三井八郎右衛門ノ私有地タルヲ識認セシモノナルコト小作証書ニ於テ明瞭ナリ

第六條

上告狀第六條ノ申立ハ固ヨリ三井八郎右衛門ハ官吏ニアラザレバ該地ヲ會社ヘ附與セラレタルノ當否ヲ論スルノ權ナク又原告人共

ニ向テ之ヲ説明スルノ責任モナシ故ニ右判決ハ不法ニアラスト思

考ス

第七條

上告狀第七條ノ申立ハ八郎右衛門ノ關係モシコニアラス原告人共ニ於テモ他人ノコトヲ援引シ以テ不公平ト云フベキ理之レナシ

第八條

上告狀第八條ノ申立ハ前文第一章第三條ノ辨解ニテ明瞭ナリ

辨明

第一條

上告狀第一條ノ申立ハ東京上等裁判所ノ判決ヲ了解得サルニ出テタルモノトス何トナレハ東京上等裁判所ノ判決第一條中ニ開墾規則ニ因ル時ハ該會社ハ當時府下無籍無産ノ窮民救助ノ爲メトア

開墾地近傍窮民救助ノ事ヲ舉テ成シハ開墾會社ノ民立タルヲ辨明スル爲メ該會社ハ開墾規則ニ因リテ成リ立テタルモノニテ其成リ立テタル原因ハ首トシテ東京府下ノ窮民ヲ救助スルニ出テタルヲ辦スルニ在レハナリ而シテ其首トスル所ノ東京府下ノ窮民ヲ救助スルニ出テタル証ハ原告引証スル所ノ開墾規則前文中ニ就中東京ノ儀ハ非常ノ御變革被爲在候ヨリ俄ニ無籍ト相成候者不
 少云々右等ノ者共ヲ始メ其外窮民ニ至ル迄トアリ又原告引証スル所ノ開墾規則第二條ニ開墾地近傍在籍有産ノ窮民ト東京府下ノ無籍無産ノ窮民トハ差別アルヲ記シ同規則第九條ニモ今般ノ開墾ハ無籍ノ浮浪士ヲ始メ其外農工商トアルヲ以テ見ルヘシ故ニ東京
 上等裁判所ハ救助ノ首トスル所ヲ舉ケタル迄ニテ開墾地近傍窮民救助ノ道ハ立テ置カレサル朝旨ナリト判決セシニアラス而シテ原

告ニ於テ相分リ難シト申立ル近傍窮民救助ノ事ハ開墾規則第二條ニ明記シアル途ハ東京上等裁判所方此判文ニ於テ開墾地近傍窮民ノ首ト舉ケザリシ田次少シモ上告人ハ權利ヲ妨害タキニ因リ其舉テザリシヲ以テ不法ノ裁判トスル所得テ然ラズ開墾規則前文中ニ第三條開墾地近傍在籍有産ノ窮民ト東京府下ノ窮民トハ差別アルヲ記シ同規則第九條ニモ今般ノ開墾ハ無籍ノ浮浪士ヲ始メ其外農工商トアルヲ以テ見ルヘシ故ニ東京上等裁判所ハ救助ノ首トスル所ヲ舉ケタル迄ニテ開墾地近傍窮民救助ノ道ハ立テ置カレサル朝旨ナリト判決セシニアラス而シテ原告狀第三條ハ申立付キ小作願書小作証書以テ果シテ官廳ニ對スルモ否ナルヤ否テ判決スルニ先ツ其小作願書ヲ受取リタル開墾會社ハ官立ナル乎民立タル乎小作証書ヲ受取リタル三井組開墾方ハ何等ノ性質ヨリ成リ立テタルモ開墾會社カ定メザルベカラズ而シテ原告カ會社ヲ官立ナリトシタル所以ハ控訴狀第一條ニ陳述セシ如ク申立タルニ依リ控訴狀第一條ヲ按テ是ニ其引証スル所三箇條ナリテ而シテ其第三箇條ハ開墾規則前文中ニ會社ヲ爲結トアル是

ナリ然ルニ會社ヲ爲結成スル前後ノ文ニ於テ許多ノ窮民授産成功迄
 中々不容易大事件ニ付政府ノ御世話而已ニテ御手ノ十分ニ難
 被爲届御場合モ可有之依テハ今般東京始メ其外開墾ニ加入致度志願
 ノ者ニ會社ヲ爲結自分金穀ヲ以テ開墾致度者ニ富民ノ部ニ入レ又
 志ハ有之候トモ自力無之者ハ力民ノ部ニ入レ富民力民相互ニ助
 ケ合云々トアリ此文意ヲ解釋スルハ窮民授産之事ニ當時政府ノ世
 話ニ於テ然行届キ難キ場合モアルニ依テ志願ニ富民力民ニ會社
 ヲ結ハセ開墾ヲ從事シ窮民授産ノ道ヲ立テシムルトナリ故ニ
 志願ノ者ト云ヒ會社ヲ爲結ト云ヒ自分金穀ヲ以テ開墾致度者ト云
 ヒ志ハ有之候トモ自力無之者ト云ヒ歴々皆會社ヲ民立タルヲ以テ言
 フニモシテ毫モ會社ノ官立ニ於テ然可テ言フ文意ニ於テ然テ則原
 告ノ所謂會社ヲ爲結ト云ハ却テ會社ヲ民立タルヲ証スルニ足ル

モノニシテ會社ノ官立タルノ証ト爲ヌテ得ヌ又第二箇條第三箇條
 ノ引証ハ開墾規則第八條ニ會社役人撰舉ノ事云々役義可申付等ニ
 付云々會社一般決議ノ上可申立事トアリ同規則第十條ニ開墾之御
 趣意ヲ拜承致シ願入或ハ有志ノ輩會社ヲ著望内談等有之節ハ其旨
 委細書取テ以當局ニ可届出等万ニ心得違致シ私ニ願書預リ又ハ如
 何敷税ト唱竊ニ金銀ヲ欺取云々トアリ是ナリ原告ハ會社ノ社員ガ
 右箇條ノ如ク開墾局ノ命令ヲ受ケルニ依リ會社ハ官立ニ証ナリ
 ト云レドモ抑開墾會社ノ成リ立ナルヤ政府ニ於テ先ツ開墾局ヲ
 置キ開墾規則ヲ設ケ其規則ニ據リテ富民力民ニ會社ヲ結ハセタル
 モノナリハ會社ガ此規則ニ頼ツテ就業スルニハ結社ノ初ヨリ定リ
 タルモノナリ是故ニ開墾局カ右三條ノ如ク會社ノ事務ニ干與スル
 所以ノ者ハ所謂許多ノ窮民ヲシテ授産セシムルハ容易ナラサル大

事件ナルヲ以テ之ニ從事スルモノヲ監護スルニ出ルモノタル可ハ
 明瞭ナリトス左スレハ會社カ開墾局ノ命令ヲ受ケルハ固ヨリ當然
 ノ事ニシテ其命令ヲ受ケタリトテ會社ハ官立ナリトシテ証ト爲スチ
 得ス又原告ニ於テタトモ會社ハ官立ニモモヨリ民立ニモモヨリ小作願
 書小作証書ハ官廳ニ對スルモノナリト申立レトモ會社ノ官立ニ
 乎民立タル乎未問ハスシテ獨リ小作願書小作証書ノ依リ官廳
 ニ對スルモノト爲スチ得サル者トズ原告ハ第一窮民授産ノ爲ニ開
 墾局ノ設立アリ第二窮民授産開墾規則ヲ施行セラルルニ付會社ヲ
 結ビセラルルノ方法アリト云フ雖モ開墾局ニテ規則ヲ立テ會社
 ナ爲結タルモノナレハ開墾局ト會社トハ判然ニ區別アリトス而
 シテ其會社ヲ爲結ビタルハ官ヨリ人民ニ指揮シテ會社ヲ結ビシメ
 シ可ニテ即チ會社ハ民立タルニ証シテ官立タルニ証ス爲ス可ク

得ス第三ハ小作願書ニ御局御支配小作人開墾會社御役人中様ト記
 シタルト云フ雖モ前ニ辨明セシ如ク民立ナル會社ハ差出シタル
 小作願書ハ之ヲ官廳ニ對スルモノト爲スチ得ス第四ハ小作証書ニ
 地稅御上納御役所ト記シタルト云フ雖モ其名宛然會社中ヲ一人
 ナルニ非紐開墾方ニテ其証書ノ首ニ貴所様御持畑ノ内小作下請仕
 云々ト記シ又末文ニ御會社ノ御規則屹度相守可申下アルニモレハ
 固ヨリ官廳ニ對セルモノトナスヘカラズ是ニ由テ之ヲ觀テハ原告
 カ所謂開墾規則ニ據ルモ窮民授産ノ趣旨ニ對スルモ會社ハ民立ニ
 シテ官立ニアラサル上ハ小作願書小作証書ハ官廳ニ對スルモノニ
 アラストス又往古ヨリ土地ヲ開墾スレハ其地ハ開墾者ノ所有ト爲
 承習慣ト申立レ右ハ他人ノ給與ニ依ラズ獨立シテ開墾セシ者ノ
 事ニシテ此案件ト其性質ヲ異ニセシ者ナリトス右ノ如クナルヲ以

東京上等裁判所ガ會社ノ民立タルヲ辨明シ小作願書及ヒ小作
 証書ニ會社役人等ノ稱小作上納等ノ辭ヲ用キタリトテ之ヲ官廳ニ
 對スルモノト爲スヘカラスト判決シタルハ不法ノ裁判ニアラストス
 第三條
 上告狀第三條ニ申立ニ依リ原告ハ東京上等裁判所ニ於テ自費開墾
 申立タルヲ大キヤ否ヲ審査スルニ明治九年六月九日同裁判所ニ
 於テ原告ノ口供第一項ニ下総國葛飾郡土餘三村石塚與兵衛并同郡
 豊四季村渡邊忠兵衛控訴ト都テ同様ニ判決シテ依テ明治九年五月
 廿四日忠兵衛ガ口供ヲ閱スルニ自分金穀及以テ開墾致シ候者ハ
 往々該地ノ所有主タルを得ヘキ旨承取云々自費ヲ以テ開墾致シ云
 ヲ自分ノ如キ自費開墾セシ者ハ云々トアレハ自費開墾者申立タ
 ルヲ明カナ小故東京上等裁判所ハ自費開墾者ト賃錢取小作人ト

ハ開墾規則上其差別アリ而シテ原告人於テ賃錢ヲ受取リタル以上
 ハ決シテ自費開墾者ノ部分ニテアラス判決セシモノナレハ不法ノ
 裁判ニアラスト云フ
 上告狀第三條但書ノ申立ヲ審理スルニ原告ハ開墾規則第二條ニ
 アル近傍窮民ノ部中タルト云異論ナキハ本條ニ申立ニ因テ明瞭
 ナリ既ニ近傍窮民ノ部中タルニ異論ナキ正當東京上等裁判所及
 入費ノ實際ヲ審理セシメテ法不條理ト爲ス旨得ヌ何トナレハ開
 墾地近傍窮民處置ノ事ハ開墾規則第二條ニ明文アレハ此條ニ依
 テ處置ヲ受クベキモノニテ固ヨリ入費ノ實際ヲ審理スルヲ要セ
 ザレハナリ故ニ東京上等裁判所ニ於テ已ニ近傍窮民ノ部分タル
 ナ知レル上ハ賃錢ノ少キト勞力ヲ用非シトハ素ヨリ得心ノ上取
 掛リシモノニテ夫ガ爲メ別段ノ權利ヲ生スル筋無之ト判決セシ

モツナレハ條理ニ適シタル裁判ナリトスルハ、
 第四條近傍窮民ノ部分ニ就テ論ズルモクナリトス
 上告狀第四條申立ニ東京上等裁判所ノ判文ヲ誤解セシメトス
 何トナシハ判文第二條中ニ原告人於テ賃錢ヲ受取タル以上ハ決シ
 テ自費開墾者ニテラス其自ラ言フ處ニ往々地主タルヲ得ルキ目的
 ナリシトハ規則第三條近傍窮民ノ部分ニ就テ論ズルモクナリトス
 ルハ原告ノ自費開墾者ナリト申立ニ對シ自費開墾者ナレバ賃錢
 ナ受取ルニキ理由ナシ既ニ賃錢ヲ受取タル上ハ自費開墾者ニアラ
 ス又自費開墾者ナレバ初ヨリ地主タルノ權ヲ有スルモ以テ往々
 々地主タルヲ得ルキ目的ナリシト言フヘキ理由ナシ既ニ往々地主
 タルヲ得ルキ目的ナリシト言フ上ハ是亦自費開墾者ナリト申立
 ニ適當ニ畢竟原告ニ於テ賃錢ヲ受取リタル事云モ又往々地主タ

ルヲ得ヘキ目的ナリシト云フハ規則第二條近傍窮民ノ部分ニ就テ
 論ズルモノナリトシテ原告ハ規則第三條ニ依ルヲ得ヘカラス
 ト判決セシニアラサルノ旨ヲラス即チ規則第三條ニ依ルヘキ申立ナ
 リト判決セシナリ故ニ自己ノ誤解ヲ以テ此裁判ヲ不法トスルヲ得ス
 第五條
 上告狀第五條ノ申立ニ付東京上等裁判所ノ判決第三條中ニ所有主
 ノ官私ニ拘ラス被告ニ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然云々ト
 アルヲ審接スルニ此判文ハ原告ニ於テ小作金ヲ納ルコトヲ拒メルハ
 元官有地ト心得小作セシメ圖ラズモ三井組ノ所有地トナリシ趣ニ
 付其原因ヲ知ラサレハ納メ難シトノ申立ニ對スルモノニテ小作金
 ヲ納メルノ義務ハ所有主ノ官私ニ因テ之ヲ納ムルト納メサルトノ
 區別ヲ生スルモノニアラス故ニ原告ニ於テ小作人タラシコト願出小

作証書ヲ差入タル上ハ該地ノ官有タルト私有タルトニ論ナシ其小
 作人タルコトハ明白ナリ已ニ小作人タルハ其小作証書以名宛人即チ
 被告人ニ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然ナリトノ意ナリトス
 然ルニ原告ニ於テハ官有私有ノ別ヲ明カニシテ而シテ後土地ヲ引
 渡スヘキ理由アラハ其時被告ニ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當
 然ナリト云フト雖モ該地ノ官有タル手私有タル手ハ原告ニ於テ論
 スヘキコトニアラス何トナルハ原告ハ初メヨリ小作証書ヲ被告ニ差
 入被告ノ支配ヲ受ケ來ルモノナレハ其小作人タルノ契約ヲ履行ス
 ヘキモノナレハナリ然ルニ其契約ニ背キテ小作金ヲ差出ストテ拒
 ムニ依リ小作地引揚ヲ訴ヘラレタルモノナレハ原告カ所謂地所ヲ
 引渡スヘキ理由ハ判然著明ナリト以故ニ東京上等裁判所ニ於テ其
 所有主ノ官私ニ拘ラズ被告ニ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然

ナルニ之ヲ差拒ムルヨリシテ地所ヲ引揚ントスルハ証書上ニ對シ
 不當トスヘカラス其判決シタルハ適當ノ裁判ナリトス

第六條

上告狀第六條ノ申立ヲ審理スルニ被告ニ於テ地所ヲ引揚ントスル
 ハ原告カ小作証書ヲ差入ナカラ小作人タルノ義務ヲ盡サ、ルニ出
 テ其事理ノ明瞭ニシテ東京上等裁判所ノ判決ノ不法ニアラサルコ
 トハ已ニ第五條ニ辨明セシ如シ然ルニ原告ハ控訴狀第十三條及ヒ第
 十五條ノ末文ニ於テ却テ被告カ地所ヲ得タル確証ヲ知り得ントチ
 求ムタルノミナラス控訴狀第一條同第三條同第十五條同第十六條
 ニ於テハ該地處分上ノ事ニ論及セリ抑原告ハ初メヨリ被告ニ小作証
 書ヲ差入小作人トナリタルモノナレハ小作人ニシテ地主カ地所ヲ
 得タル理由ヲ知り得ント求ムヘキ權利アルコトナシ且該地ヲ會社ヘ

附與セラレタルハ官廳ノ處分ニ係ルモノナレハ民立會社ノ社員ナル被告ニ於テハ官廳ノ處分ニ付其處分ノ理由ヲ説明スルノ責任ナキモノトス故ニ東京上等裁判所ハ判文第三條ノ結尾ニ於テ該地ヲ會社ヘ附與セラレシトハ固ヨリ官廳ノ處分ニ關スルトニテ其當否ヲ被告ヘ對シ申立ヘキ筋ニアラスト判決セシモノニシテ不法ノ裁判ニアラスト

第七條

上告狀第七條第八條ハ東京上等裁判所ノ裁判ニ對スル申立ニアラサルヲ以テ大審院ニ於テ辨明ヲ與フルノ限ニ在ラス

判決

前條々ノ如クナルヲ以テ大審院ニ於テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也

第七拾四號

○窮民授産開墾地爭論一件上告ノ判文 明治九年八月二十八日
上告明治十一年五月二十七日
申渡

原告

千葉縣下下総國葛飾郡
松ヶ崎村平民根本利七
外五十一人代人
東京府下第一大區九小
區出雲町三番地平民
松本善五郎

被告

京都府下上京第二十七
區油小路通二條下ル二
條油小路町三百四番地

平民三井八郎右衛門代
人

千葉縣下下總國葛飾郡

十餘二村平民

市岡晋一郎

○千葉裁判所ノ審判

三井組代理市岡晋一郎ヨリ根本利七外五十二人へ係ル小作金催促地所引上ケノ訴訟吟味味處原告人於テ元來開墾地ノ儀ハ去ル明治二巳年六月中當時東京府下ニ流落セル無籍無産ノ窮民ヲ移シ専ラ就産ノ途ヲ得セシメシカ爲メ會社設立相成ル御旨趣ニ從ヒ富民ノ者篤キ朝旨ヲ奉シ同志協力結社セシモノニテ被告ノ如キ有籍有産者ノ救助ヲ專ラニス可キ儀ニ非ス然ルニ土地ニ至ツテハ初ヨリ會

社へ附與セラレシ事開墾規則上自ラ其趣意含蓄セリ殊ニ同三年十月申中窮民引受數ニ應シ社中各持地ヲ定メ更ニ區分相立候ニ付即今被告へ小作セシメ置ク地ハ三井組所有ト相成リ已ニ同四年申中
小作人取扱規則ニ從ヒ小作証書ヲ取置タル處約ニ違ヒ小作金淹滯ノミナラス開墾規則第二條ニ依リ土地買取ル可キ權利アル旨ヲ以テ同六年十二月中訴訟ヲ起シ其後願意不相立ヲ悟リ一旦解訟ニ及ナカラ尙依然トシテ小作人ノ義務ヲ盡サ、ルニ付証書約定ニ基キ小作金ハ勿論地所ヲモ引上度旨申立タリ
被告於テハ明治二巳年六月頒布相成ル開墾規則第一卷第二條ニ基キ明治三年正月申會社へ願出許可ヲ得テ拾五町壹反歩ノ地ヲ開墾シ同四年十二月ニ至リ小作証書差入已來該地ハ官有ニシテ會社ハ則チ官設ト心得約定通小作稅上納シ來レル處其後原告擅ニ私

有地ノ趣申開ルニ付爾後納稅差拒ミタリ抑該地開墾ノ旨趣タルヤ
 專ラ窮民授産ノ恩典ニ出テタルモナシ富民ノ者ニ土地可賜謂
 レ無之故ニ開墾局ニ差出シタル願書中或ハ小作証書等ニ私有地ノ
 文体ハ有之ニモ曾テ社員夫地主ト看認メタルニ非ス全ク一時ノ誤
 謬ニ付明治六年十二月中當裁判所ニ右地所買取増賃銀請取ノ儀出
 訴致シ候處願意不條理ト相心得一旦訴狀願下ケ候得共尙熟ラ勘考
 スレバ右願下ケ致シ候モ矢張誤解ヨリ生シタル義ニテ固ヨリ社員
 ハ該局ノ吏員ニシテ地所ハ官有地下心得ルニ付小作金ハ直ニ官ニ
 上稅可致筋付ルカ故ニ原告ハ對シ納稅ハ勿論地所引渡シ候義難相
 成旨申立タリ

因テ左ノ通判決ス
 第一條

被告ニ於テ最初開墾局ニ差出シタル願書及ヒ小作証書ハ私有地ノ
 文体ニ認メタル所アルモ右當時ノ誤寫ニシテ元來官有地下心得
 シヲ以テ明治六年十二月地所買取云々ノ儀當裁判所ニ出訴致シ其
 節一旦非理ナルヲ自認シ訴狀願下ケ致シ處猶之ヲ願シ右願下
 ケセシモ亦誤謬ニ出タル旨今更申立ルト雖モ開墾規則及ヒ小作人
 取扱規則ヲ參照シ又其土地ヲ管轄スル千葉縣廳ノ証明ニ據レ
 ハ該地ハ會社ニ附與セラレシモノニテ全原告ノ私有地ト可相心得事

第二條
 小作人取扱規則ニ據レハ被告ハ會社ニ加入致シタル筋ニ無之固
 リ社外ノ小作人ニシテ其義務ヲ盡ス迄ノモノタレハ窮民授産處分
 事ニ付可否ノ論議ニハ關係無之事

第三條

前二條ノ通ニ付被告於テ証書面約定ノ義務ヲ闕キタル上ハ原告ノ督促ヲ抗拒ス可キ權利無之間小作金ハ勿論地所速ニ原告へ可引渡事
 明治八年十二月二十四日
 東京上等裁判所ニ審判

原告ニ根本利七外五十一人代言人松本善五郎控訴ノ要領
 明治九年三月二十三日

明治三年六月中窮民授産ノ爲メ下總國小金佐倉牧々開墾被仰出タリ自分共々右開墾地近傍窮民ナルヲ以テ窮民授産開墾規則第一卷第二條ニ依リ開墾志願ノ旨明治三年正月舊開墾會社ニ願出タリ小金原宇高田臺牧上稱スル荒野拾五町壹反歩ヲ引受自費ヲ以テ開墾シ明治四年十二月ニ至リ開墾規則第二條ニ基キ壹反ニ付金壹圓五拾錢ノ割キ以テ貨銀下渡相成タリ其後明治四年十二月明治五年十一月

月中小作証文差入耕地壹反ニ付貳拾五錢ノ上税可致旨開墾會社ヨリ申渡サル其際舊葛飾縣勸農掛錦木平馬ヨリ右小作証文名當ハ三井組開墾掛中ニ可相認旨廻狀ヲ以テ順達セシメ付乃チ承諾シ小作証文差入納税致シ來リタル處三井八郎右衛門ヨリ右地所ノ地券御下ケ願ヲナシタル趣ヲ聞キ大ニ驚キ掛合中三井組ニ於テハ小作証文ヲ以テ私有地ノ証憑トシ加村區裁判所へ出訴シ未千葉裁判所へ差廻サレ同所ニ於テ三井組私有地ニ付小作金ヲ償却シ地所引渡スヘシトノ裁判ヲ受ケタリ右裁判ハ不服ニ付別紙第一號ヨリ五號迄ノ書類ヲ證據トシ控訴スルト左ノ如シ

證據書類目錄

- 第一號 窮民授産開墾御規則
- 第二號 葛飾縣勸農方廻狀

第三號

小作稅納ノ通

第四號

加村區裁判所へ具上セシ答書

第五號

千葉御裁判所裁判狀

第一條

開墾會社ハ官立ニシテ其社員ハ開墾ノ事務ヲ擔任シタル所以ハ窮民授産開墾規則前文ニ會社ヲ爲結トアリ又同規則第十條ニ開墾ノ御趣意ヲ拜承致シ願人或ハ有志ノ輩會社ノ者へ内談等有之候節ハ其旨委細書取ヲ以當局へ可届出筈万ニ心得違致シ私ニ願書預リ又ハ如何敷稅ト唱竊ニ金銀ヲ欺取云々同第八條ニ會社役人撰舉ノ事云々役儀可申付筈ニ付云々會社一般決議ノ上可申立事トアリ此數條ニ據レハ會社ノ官立ニシテ勿論其社員ハ開墾局ノ命令ヲ受ケ窮民授産上ノ職務ニ從事スル迄ハ者一人一己ノ私意ヲ行フヘキ

者ニアラサレハ其社員タル被告三井八郎右衛門ニ於テ其地ヲ私有スルノ權利ナカレハシニ由ルニ其地ノ所有權ハ開墾規則第三條ニ據ルニ依リ會社ニ歸スル事云々三町歩ノ地ハ窮民一人引受云々上ヨリ拜借金ノ内ヲ以一人分ノ入費ヲ下遣シ云々會社へ示談可致云々トアリ此條ニ依リ自費開墾願出タル者ト被告八郎右衛門ノ如キ開墾規則ノ前文ニ依リ會社ヲ結ビタル社員ト別異ナルトハ第三條中ニ會社へ示談可致トアルヲ以テ判然タリ故ニ八郎右衛門カ窮民ヲ引受タレハトテ開墾規則第三條ニ據ルヘキモノニアラズ其ルヘシ然レトモ窮民ヲ引受ケタルヲ以テ規則第三條ニ照シ三町歩ノ地ヲ所有スルモノトセハ自分共ノ如キ規則第二條ニ依リタル者ヲ除キソノ他ニ於テ所有スルハ格別規則

第二條ノ趣旨若妨クキ條理ナカルハ...

第三條...

開墾規則第六條中ニ成功ノ入費中々牧々開墾ノ利ヲ以補フニ足ラズトアリ又同規則第四條ニ縱令ハ地主トナリ拾坪ヲ開墾候者ハ外ニ壹坪半ノ地ヲ開キ會社ヘ差出スベシ云々窮民授産ニ世話而已致候者ハ寸地モ無之儀ニ付右地所相當ノ割ヲ以相渡往來其身上着メ法相立可申事トアリ此二條ヲ照合スルニ開墾ノ利ヲ以テ入費ヲ補フニ足ラサルニ依リ拾坪ヲ開ク者ハ壹坪半ヲ會社ニ差出スベシトアルナリ凡利ヲ得ル者ハ元ナキコト能ハス即チ拾坪ハ元ニシテ壹坪半ハ利ナリ然ルニ元利ヲ併セテ會社ノ所有ナリトスルハ開墾規則前文ニ銘々一己ノ利欲ニ走リ云々窮民授産ノ御成業ヲ害フ間敷トアル趣旨ニ抵觸スルヲ以テ被告八郎右衛門ニ於テ擅ニ開墾地ヲ引

揚ントスルハ私欲ノ所業ナリ...

第四條...

千葉裁判所ノ判決第二條中ニ小作人取扱規則ニ據レバトアリ之ヲ政府及小作人取扱規則ニ據レバ其地モ亦政府ノ地ナリ之ヲ平民八郎右衛門ノ小作人取扱規則トスレバ同裁判所ノ判決第一條中ニ開墾規則ニ參照シテ政府ノ小作人取扱規則トスルハ八郎右衛門ノ小作人取扱規則トシテ地所以上ニ並行ハルニ參理ナシ右八郎右衛門ノ地ニ政府ノ規則ヲ施行セラレタル歟又ハ八郎右衛門ノ規則トシテ政府ノ規則ニ參互シテ其地ハ八郎右衛門ノ地下見認メラントル歟官民混淆事理明了ナラス因テ小作人取扱規則ニ成リ立チ及ビ開墾地ニ付テノ權限ヲ審理スル事ナク...

第五條...

千葉裁判所判決第一條中ニ開墾規則及ヒ小作人取扱規則ヲ参照シ
 去々原告ノ私有地主可相心得事トアレトモ開墾規則第何條ニ據ル
 以記載カ又小作人取扱規則トハ政府ヨリ施行セラルル規則ナ
 ルヤ八郎右衛門ヲ設立シタル規則カ其判決明カナラスト雖モ
 抑此開墾ハ窮民授産ヲ爲メ政府特別ノ恩典ニ出テタルコトニテ開墾
 規則第三條ニ依リ貸銀飯米家作ノ御手當ヲ蒙リ受作人トナリ自力
 出來次第右地所買取地主トナルヘキ方法ナリ此ノ如ク政府ノ開墾
 局ヨリ政府ノ規則ニ以テ政府ヨリ御手當ヲ被下受作人トナリ又其
 地ヲ買取ルコトを得ル旨政府ヨリ普及人民ヘ示サレタル上ハ斷然政
 府ノ地所ヲ謂フ其地ヲ得ル假ルニ之カ八郎右衛門ノ私有地ト看做
 スモ八郎右衛門ノ私有地ヘ政府ヨリ開墾局并ニ規則ヲ立テテ其
 規則ヲ普ク人民ニ示シ示シテ示シテ示シテ示シテ示シテ示シテ示シ
 示シテ示シテ示シテ示シテ示シテ示シテ示シテ示シテ示シテ示シ

務ヲ行ハルヘキ理ナシ然ルニ詞訟ノ末忽然顯ハレタル小作人取扱
 規則ヲ以テ窮民授産ノ方法ヲ害スルニ付テ公當初施行セラレタル
 窮民授産ノ廉ハ取消ニ相成タル歟小作人取扱規則ヲ以テ窮民ノ無
 住無産トナルヘキヲ執行セラルルコトモ以テ歟前後ノ規則區別相立ッ
 様審判アリシコトヲ念及シテ其旨ハ窮民ノ利益ニ在リトモ其旨ハ
 第六條ニ於テ窮民ノ利益ニ在リトモ其旨ハ窮民ノ利益ニ在リトモ
 小作証文中ニ貴所様御持主記シタルハ八郎右衛門ヘ對スル語ニ似
 タレトモ御持主ハ御持場御持主以二様ニ涉ル字ニテ御持主ナレハ
 八郎右衛門ヲ指シタルニ相當シ御持場ナレハ其職務ヲ指シタルニ
 相當リ判然ナラス又同証文中ニ三井組開墾掛中ト記シタルハ政府
 ノ開墾會社ノ事務ヲ預リタル社員ヲ指シタルニ當レトモ若シ是チ
 八郎右衛門ノ開墾掛中トナルコトキハ開墾ノ事業ハ政府ヨリ窮民授

産ノ爲メニセラル、開墾ナル歟三井組ノ開墾ナル歟其原由ヲ審理
アラシムコトヲ乞フ

第七條

小作証文中ニ地稅ト記シ御上納ト記シ御役所ト記シタルハ則官ニ
對スル語ナリ左スレハ此三語ヲ以テ小作証文ハ其職務ニ對シ差入
レタルコト判然タリ既ニ八郎右衛門ハ會社ノ役員ナルヲ以テ上稅ハ
勿論都テ違背者仕間敷ト記シタルナリ然ルニ八郎右衛門ハ其職務
上ニテ受ケタル小作証文ヲ以テ私有ノ証トスルハ平民ノ内八郎右
衛門ニ限リ地稅御上納御役所ノ名稱ヲ許サレタル者歟若シ許サレ
タルモノトセハ其許サレタルコトヲ承知セシメテ差出シタル小作証
文ハ其承知セサル廉ヲ以テ取消サレシムコトヲ乞フ

第八條

小作証文中ニ御會社ノ御規則ト記シタルハ政府ノ恩典ニ出テタル
窮民授産開墾規則前文ニ志願ノ者ニ會社ヲ爲結云々トアルヲ指シ
タルモノナリ若シ茲ニ八郎右衛門ノ開墾地アリ八郎右衛門ノ規則
アリトスレハ政府ノ開墾地ノ幾部分ヲ何年月日ニ八郎右衛門ニ分
割セラレタル歟若又開墾ノ事業ハ最初ヨリ八郎右衛門ノ如キ開墾
會社々員ノ事業アリトセン歟然ルトヤハ平民ノ開墾地ニ政府ヨリ
局ヲ設ケ政府ノ窮民ヲ平民ノ開墾地ニ於テ授産スル規則ヲ施行セ
ラレタルモノ歟其開墾ト其規則トノ根源ヲ審理アラシムコトヲ乞フ

第九條

千葉裁判所ニ於テ三井八郎右衛門ノ口供ニ開墾規則第五條ニ依リ
金札貳拾萬圓會社一同ヘ基金トシテ貸下ケ相成候分明治五年五月
中廢局廢社ノ砌右拜借金貳拾萬圓ハ其儘會社并ニ窮民ヘ下賜候旨

被仰渡候ニ付窮民共ニ貸渡候金穀ハ勿論其他悉皆渡切ニ相成爾後
 獨立ノ農夫ト相成候テアレトモ東京ノ窮民ハ開墾規則第二條ニ依
 リ三ヶ年ノ間衣食住ハ勿論万事御世話ヲ蒙リ受作人トナリタルモ
 ノナリ近在ノ窮民ハ開墾規則第二條ニ依リ賃銀飯米家作ノ御手當
 ヲ蒙リ受作人トナリタルモノヨテ窮民ノ差等ニ隨ヒ御救助ノ厚薄
 アリト雖モ拜借金ヲ會社并ニ窮民ヘ下賜ル旨仰渡サレタル上ハ東
 京ノ窮民モ近在ノ窮民モ窮民タルノ別ナカルヘシ然ルニ東京ノ窮
 民ノ金穀其他ノ御貸渡ヲ被下切ニ相成近在ノ窮民ハ御下渡ノ賃
 銀被下切ニ相成ラス均シク政府ノ恩典ニシテニ途ニ處分セラレ
 べき筈ナキハ勿論テシハ八郎右衛門其他ノ社員カ方法ヲ此ケ事務ヲ
 取扱ヒタルト判然然其不當ヲ審理セラレテ乞フ

第十條

前條ノ目供ニ依レハ八郎右衛門ニ於テハ東京窮民ノ外開墾ニ着手
 セシ窮民ハ開墾規則第三條ノ部内ニ非サル者トナル歟若シ然ルト
 スハ開墾規則第三條ハ有名無實ト看做シタル歟已ニ窮民授産ノ規
 則アリ其規則ニ適當ナル窮民ニ其規則ノ事業ヲ踐行シ
 タルニ却テ規則ニ適當セサルモノトスルハ不當ナルヲ以テ其不當
 ノ廉ヲ審理アラジテ乞フ

第十一條

近在窮民ハ開墾規則第二條ノ通賃銀飯米家作ノ御手當ヲ蒙リ一旦
 受作人トナリ自力出來次第御拂下願ヲ經テ地主トナリタキ志願ニ
 テ開墾ニ着手セシ處御手當等ハ下渡ナキヲ以テ據ナシ本村ノ財産
 ヲ賣却シ又ハ他借ヲ大シ壹反ニ付金七圓五拾錢位モ相掛ケ又ハ其
 金額ニ應テ筋力ヲ盡シ開墾セシニ成功ノ後ニ至リ壹反ニ付賃

銀金壹圓五拾錢宛下渡相成列トモ未タ飯米家作ノ御手當ヲ受分
 サルノミナラズ開墾入費モ十分ノ二ニ當ル金額壹反付壹ヲ下渡
 アリタレト十分ノ八ハ窮民ノ出セシ資本ナルヲ以テ其實況ヲ審理
 アラントチ乞フ

第十三條

千葉裁判所ニ於テ被告ノ申立ニハ東京ノ窮民二千五百戸九千餘人
 ニテ開墾其他ノ失費高凡七拾万圓餘ニ至レリト因テ葛飾郡豊四季
 村宇南組ト稱フル四拾戸ノ者ノ救助ヲ蒙リタル金額ヲ計算スルニ
 平均壹戸ニ付金三拾圓未滿ナリ試ニ此割合ヲ以テ東京ノ窮民二千
 五百戸ニ算當スルニ七万五千圓ニ上ラヌトモ其他ノ入費ヲ格別
 ニ見込タリトモ御貸下金貳拾万圓ノ高ヲ越ユヘキ筈ナシ然ルニ七
 拾万圓餘ノ申立ハ不相當ニシテ信シ難シ況ヤ御貸下金ト通算スレ

ハ百万圓餘ナルヲヤ果シテ實ナルモ冗費此ノ如クナルハ開墾規則
 前文中銘々一己ノ利欲ニ走ラズ窮民授産ノ道相立候様注意可仕ト
 アル旨ニ對シ不條理ナルニ依リ實地精算ノ審理アラソト乞フ

第十三條

千葉裁判所ノ判決第一條中ニ其土地ヲ管轄スル千葉縣廳ニ證明ス
 ル所ニ據レハ該地ハ會社ヘ附與セラレタルモノニテ全ク八郎右衛
 門ノ私有地ト可相心得トアレトモ千葉縣廳ノ證明スルトノミニテ
 何年何月何ノ御役所ヨリ何等ノ達書アリ何等ノ証ニ據リ八郎右衛
 門ノ私有地トナリタルトノ證據ヲ示シ窮民ノ承知ヲ經タルコトヲ
 サレハ千葉縣廳ノ證明ハ無証ノ口實ナシトセラレシモゾナルヤチ
 保シ難キニ依リ不明ノ判決ナリト思考ス

第十四條

千葉裁判所ノ判決第二條中ニ被告ハ會社へ加入致シタル筋ニ無之
 同ヨリ社外ノ小作人ニシテ其義務ヲ盡ス迄ノモノトアリ其社外タ
 ルハ勿論ナレトモ開墾規則第二條ニ開墾加入願出候者所置ノ事ト
 アル廉ニ依リ開墾ニ加入セシモノナレハ其義務ヲ盡スニ至テハ政
 府へ對シテハ盡スヘキノ義務アリモ八郎右衛門へ盡スヘクノ義
 務ナシ故ニ權限上ニ不備シ判決ナリト思考ス

第十五條ニ依リ開墾加入願出候者ハ其義務ヲ盡スニ至テハ政
 府へ對シテハ盡スヘキノ義務アリモ八郎右衛門へ盡スヘクノ義
 務ナシ故ニ權限上ニ不備シ判決ナリト思考ス

千葉裁判所ノ判決第二條中ニ窮民授産處分上ノ事ニ付可否ヲ論議
 ニハ關係無之トアレトモ窮民授産開墾規則ノ趣旨ヲ體認シ耕耘勞
 苦七八年以久シキハ經開墾地ノ人民トナリタル者ニ於テ窮民授産
 處分上ニ可否ヲ論議セシテ誰カ之ヲ論議スルコトヲ得シヤ然レト
 モ始ヨリ處分上ノ可否ヲ論議セシニアラス八郎右衛門ニ於テ小作地

引揚云々ト非理ノ訴ヲ爲スニ依リ止ムヲ得ス開墾規則ヲ援引シテ
 論争スルニ至リシヲ然ルニ八郎右衛門ノ主張スル所ハ開墾規則
 ニ抵触スルノミナラス何年何月ヨリ八郎右衛門ノ私有地ト成リタ
 ルトノ證據トスベキ文書モナシ又曾テ通知シタルトモナシ讀聞カ
 セタルトモナシ小作人取扱規則ヲ証憑トセリ因テ姑ク可否ヲ議論
 スル權利上一步ヲ讓リ專ラ審問ニ對シ八郎右衛門ノ私有地トナリ
 タル確証ヲ求メタルニ却テ此ヲ舍テ處分上可否ヲ論議ニ關係無之
 ト判決セラレタルハ不明ノ判決ナリト思考ス

第十六條ニ依リ開墾加入願出候者ハ其義務ヲ盡スニ至テハ政
 府へ對シテハ盡スヘキノ義務アリモ八郎右衛門へ盡スヘクノ義
 務ナシ故ニ權限上ニ不備シ判決ナリト思考ス

千葉裁判所ノ判決第二條全文ノ意ハ三井八郎右衛門ノ被告タル窮
 民ハ開墾規則ニ依ラサルトノ判決ナル歟若シ然ルトキハ第十條ニ
 論シタル如ク開墾規則第三條ニ有名無實ナル者歟又ハ取消サレタ

ルモノ歟然ラズンガ開墾規則第三條ニ依リタル窮民ハ處分上ノ可
 否ヲ論議スルノ權ヲ有スルハ至當ノ條理アリト思考スル中
 第十七條ニ於テ「開墾地ハ舊來御用地ト唱ヘ野付村々地先進退ノ牧馬
 場トシテ窮民授産ノ爲メ壹万三千町歩ヲ八年内ノ開墾ニシ
 テ既ニ千葉縣管内ニ覽表ニモ開墾地反別上別段記載スル地種ニ
 シテ地所ノ名稱ニ依レバ野方無税ノ公有地ニ適當セリ又太藏省布
 達地租改正施行規則第五三則新開墾地下年季中ノ分ハ其年季中無
 税ノ積置相心得新開試作地反別何程ト相記無代價ノ券狀可相渡事
 トアル廉ト開墾規則第三條中御下金夫以開墾仕一旦受作人ト相成
 其夫費夫十年内ニ返濟スルト云フ獨立農夫ニシテ亦開墾ノ廉ト
 ナ参照スレバ普通ノ新開墾モ窮民授産ノ爲メノ開墾ニ道理上於テ

異ナルトナシ即チ御下年季中ノ新開墾地二十个年限ノ拜借金ヲ負ヒ
 タル筋ニ相當シテ又証跡ニ就テ論ズルトキハ第一條第三條第三條
 ニ記載セシ如ク開墾規則御主意ノ通りナリ然ルニ千葉裁判所ニ於
 テ官立會社ト社員タル八郎右衛門關係ノ地ハ八郎右衛門ト私有地
 ト裁判ソ中村初太郎吉田耕太郎關係ノ地ハ公有地ト裁判アリ而
 シテ千葉縣廳ニ於テハ開墾地ハ會社ニ附與セラルモノナリト
 無證據ノ事ヲ申立ラレタリ又明治五年廢局廢社ノ節許多窮民ノ内
 東京ノ窮民ノ一ハ開墾地五反五畝ヲ宛下サレタルハ官有地ノ處分
 ナリ元來一種ノ開墾地ニシテ其處分此ノ如ク異同アルハ了解シ難
 シ依テ官公私有地ノ區別ヲ審理セラレ開墾規則第三條ノ趣意判然
 相立ツ様審理セラレ得ナクテ

第一條

開墾會社ハ當時府下無籍無産ノ窮民救助ノ爲メ府下有志ノ者共朝旨ヲ奉シ結社セシモノニテ全ツ民立會社ナリ故ニ小作願書及ヒ小作證書ニ會社役人等ノ稱又小作上納等ノ辭ヲ用ヒタリトテ之ヲ官廳ニ對スルモノトナス可カラサル事

第二條

訴願ノ旨趣往々地主タルヲ得ヘキ目的ニテ自費ヲ以テ開墾セシニ三井組ノ所有地トナリテハ初メノ目的ヲ失セシト云ト雖モ自費開墾者ト賃錢取リ小作人トハ開墾規則上其差別アリ而シテ原告人ニ於テ賃錢ヲ受取リタル以上ハ決シテ自費開墾者ノ部分ニアラス其自ラ云フ處ノ往々地主タルヲ得ヘキ目的ナリシトハ規則第三條近傍窮民ノ部分ニ就テ論スルモノナリ已ニ近傍窮民ノ部分タルヲ知

レル上ハ賃錢ノ少キト努力ヲ用ヒシトハ素ヨリ得心ノ上取掛リシモノニテ夫カ爲メ別段ノ權利ヲ生スルノ筋無之事
第三條
規則第二條ノ旨趣ハ窮民ノ内他年資力ヲ有スル時ハ相當ノ代價ヲ以テ小作地ヲ買ヒ得ヘシトノ事ナリ然ルニ原告ニ於テ已テニ資力ヲ有シ買ヒ受ケンコトヲ望ミシニ被告之ヲ許サスト云ハル苦情ニアラスシテ只將來若シ資力ヲ有セシ時ノ場合ヲ豫メ憂フルモノナリ又其小作金ヲ納ル事ヲ拒メルハ元官有地ト心得小作セシニ圖ラスモ三井組ノ所有地トナリシ趣ニ付其原因ヲ知ラサレハ納メ難シト云ト雖モ原告初メ小作人タルコトヲ願出シヨリ以來諸事被告ノ支配ヲ受ケ來リ今モ仍ホ異ナルコトナシ然レハ其所有主ノ官私ニ拘ラズ被告ニ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然ナルコト之ヲ差拒メル

ヨリテ地所引進シト被仰出候處就中云々右等ノ者共テ始
 地ハ元官有タル元開墾ノ場所最初ノ目的ヨリ狹少ニ付會社ニ附
 與セラレシ付以テ官廳ノ處分ニ關スルコトニ就其當否被被告
 對シ申立ヘキ筋ニアラヌ依之千葉裁判所ヲ裁判シ至當様ニ訴狀下
 付戻シ候事 明治九年七月三日
 大審院ニ於テ原告根木利七外五十一人代人松本善五郎正告シ要領
 明治九年八月二十日
 東京上等裁判所ノ判決第一條中ニ開墾規則ニ因ル時ハ該會社ハ當
 時府下無籍無産ノ窮民救助以爲テ府下有誌者共朝旨ヲ奉シ結社
 セシキコトニ於テトモ開墾規則第一卷前文ニ無籍無産ノ窮民ニ

永ク産業ヲ被爲授度思召ヨリ被仰出候處就中云々右等ノ者共テ始
 者其外窮民ニ至ル迄御世話被爲在度云々右窮民授産成功者計ハ
 必云々ト云々又同規則第二條ニ牧々近在ノ窮民ヨリ開墾加入願出
 候者所置ノ事云々在籍有産ノ貧民ニ云々幾坪ノ地ヲ開候得
 何百文ノ貨銀幾坪ノ草敷去テ取候得ハ何程ノ賃錢ト定メ或ハ飯米
 俵ノ手當去以地所預或ハ家作迄貸渡何レモ開墾成就以上受作人
 タル貧乏云々生産ニ就候様可致云々ト云々又同規則第九條ニ今般
 之開墾ニ無籍ノ浮浪士始メ其外農工商ニ至ル迄差加候儀ニ付云々
 朝旨被仰明瞭ナリ然ルモ只開墾規則ニ因ル時府下窮民救助
 爲メトノ旨アリテ近在窮民救助ノ事ニ付テノ判決ナシ故ニ府下窮
 民救助ノ道相分ルモ近在窮民救助ノ道相分リ難キ判決ナ

以テ不法ヲ思考スルニ至ラズ。又、同裁判所判決第一條中ニ全民立會社出リ故ニ小作願書及以小作証書及ヒ小作証書ニ會社役員等ヲ稱小作主納等ニ辭テ用非々下テ之ヲ官廳ニ對スルモノトシテ可ク事トスレバ會社ノ官立ニシテ民立ニアラサル所以ニ控訴狀第一條ニ陳述セシ如ク又タ下位會社ハ官立ニ民立ニ定セシ窮民授産ノ爲メ開墾局ノ設立方第二窮民授産開墾規則ヲ施行セラル、其付會社ヲ結ハセテ開墾方法ヲ第三小金原開墾被仰出候御規則面ニ通リ御局御支配小作人ニ被成下度云々開墾會社御役人中様記シタル小作願書并差出シタル第四地稅御上納文並御役所ト記シタル小作証書并差出シタル抑開墾ノ事業ニ政府特別恩典ニ出テ其開墾地ハ往時御用

地ニ唱ヘタル牧馬場ナリシヲ自分共勞力ヲ以テ漸次良田ト爲シ七今年間現ニ其地ニ住居セリ左スレハ開墾規則ニ據ルモ窮民授産ノ趣旨ニ對スルモ又往古ヨリ土地ヲ開墾スレハ其地ハ開墾者ノ所有トナル習慣ニ據ルモ小作願書小作証書ハ官廳ニ對シタルモノナルニ官廳ニ對セサルトノ判決ハ不法ナリト思考スルニ至ラズ。

第三條

同裁判所ノ判決第二條中ニ自費開墾者ト賃錢取リ小作人トハ開墾規則上其差別アリトアレトモ元來自分共ニ於テ自費開墾者ト申立タルトナク開墾規則第二條近傍窮民ノ部分ト申立タルナリ然ルニ自費開墾者ト申立タル如ク判決アリシハ不法ナリ。

但開墾成功迄ノ入費ハ壹反ニ付金七圓五拾錢程モ相掛リタルニ其賃錢トシテ下渡サレタルハ壹反ニ付金壹圓五拾錢トリ左スレ

ハ入費十分ノ三ハ下金アリタレトモ十分ノ八ハ自分ノ資金ト勞力トニ出タルモノナルニ東京上等裁判所ニ於テ其實際ヲ審理セラレサリシハ人民ノ損害ヲ保護セラレサル裁判ナルヲ以テ不條理ナリト思考ス

第四條

同裁判所ノ判決第二條中ニ原告人於テ賃錢ヲ受取リタル以上ハ決シテ自費開墾者ニアラス其自ラ云フ所ノ往々地主タルヲ得ヘキ目的ナリシトハ規則第二條近傍窮民ノ部分ニ就テ論スルモノナリトアリ其文意ヲ推スニ自分共ハ開墾規則第二條ニ依ルヲ得ヘカラサルトノ判決ナリ賃錢ヲ取ルト取ラサルトニ差別アルハ勿論ナレトモ然レトモ開墾規則第二條ニ賃銀飯米家作ノ手當ヲ以テ地所預リ受作人タルヘキトアルニ據レハ賃銀ヲ受取リタルトテ規則第二條

ニ依ルヘキモノナルニ規則第二條ニ依ルヲ得ヘカラサルトノ意ヲ以テ判決セラレタルハ不法ナリ

第五條

同裁判所ノ判決第三條中其小作金ヲ納ルコトヲ拒メルハ元ト官有地ト心得小作セシニ圖ラスモ三井組ノ所有地トナリシ趣ニ付其原因ヲ知ラサレハ納メ難シト謂ト雖モ原告ニ於テ初メ小作人タラシトナ願出シヨリ以來云々其所有主ノ官私ニ拘ラス被告ヘ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然ナリトアレトモ所有主ノ官私ニ拘ラス被告ヘ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然ナリトハ驚愕ニ堪ヘサルナリ何トナレハ官有私有ノ別ヲ明カニシ而シテ後土地ヲ引渡スヘキ理由アラハ其時被告人ヘ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然ナルニ只官私ニ拘ラス小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然ナリトノ判決

ハ不法ナリト思考ス

第六條

同裁判所ノ判決第三條中ニ諸事被告ノ支配ヲ受來リ今モ仍ホ異ナルヲナシ云々且該地ヲ會社ヘ附與セラレシトハ固ヨリ官廳ノ處分ニ關スルコトニテ其當否ヲ被告ヘ對シ申立ヘキ筋ニ非ストアレトモ官廳ノ處分ニテ該地ヲ會社ヘ附與セラレタルモノナラハ其處分ノ理由ヲ該地ニ住スル窮民ヘ公示スヘキハ今モ仍ホ諸事ヲ支配スル八郎右衛門ノ責任ナリ然ルニ其事理曖昧ニシテ土地ヲ引揚ント欲スルニ依リ控訴狀第十五條ノ末文ニ其當否ヲ辨シ事理ヲ明了セシコトヲ求メタルニ却テ其當否ヲ被告ヘ對シ申立ヘキ筋ニアラストノ判決ハ不法ナリト思考ス

第七條

本訴ノ始末ハ明治二年六月開墾局ヨリ施行セラレタル窮民授産開墾規則ニ基キ結社セシ開墾會社ノ社員三十餘人ノ内三井八郎右衛門ノ代理人市岡晋一郎同社員中村初太郎吉田耕太郎三人ヨリ窮民ノ内自分共ノ部類七ヶ村二百二十三人ヘ對シ開墾地ハ八郎右衛門外二人ノ私有地ナル旨ヲ以テ小作地引揚ノ訴狀二十三件ヲ加村區裁判所ヘ差出タリ因テ自分共ニ於テハ官有地受作人タル旨各自答辨セシ處其内八郎右衛門ヨリ石塚興兵衛ヘ對スル一件ノミ裁判アリ其他ハ千葉裁判所ヘ差廻サレ同所ニ於テ審理中中村初太郎吉田耕太郎ヨリ立澤甚五郎外三十一人ヘ對スル件々ハ原告ハ官有地進退人被告ハ官有地受作人タル旨ノ証書爲取換解訟セリ八郎右衛門ノ被告タル百九十一人ノ件々ハ明治八年十二月明治九年二月兩度ニ裁判申渡サレタリ依テ被告ノ内石塚興兵衛ハ明治八年九月東京

上等裁判所へ控訴シ其他ハ明治九年三月二十三日同裁判所へ控訴シ同所ノ裁判ヲ受ケ耕地ヲ引渡シ地稅及ヒ訴訟入費ノ爲ニ身代限ヲ差出シタリ政府特別ノ恩典ニ出タル同種ノ窮民ニシテ其德澤ヲ蒙ルコトナラサルハ不公平ト思考ス

第八條

被告八郎右衛門ニ於テ開墾地引揚請求ノ證據トスル小作証文ハ平民八郎右衛門へ差入タルニアラスシテ政府ノ開墾事務ヲ擔當スル八郎右衛門へ差入レタルナリ其事理ハ控訴狀第六條ヨリ第八條迄ニ具陳セシ如クナリ然ルニ八郎右衛門ニ於テハ自己へ差入レタル証文ナリト其權限ヲ取り違へ地所引揚ヲ訴出ルト雖モ抑窮民授産ノ開墾ハ八郎右衛門ノ開墾ナル歟政府特別ノ恩典ニ出タル開墾ナル乎政府特別ノ恩典ニ出タル開墾ナレハコソ開墾局ヨリ窮民授産

開墾規則ヲ施行セラレ其規則ノ前文ニモ許多ノ窮民授産成功迄ハ中々不容易大事件トアリ左スレハ右小作証文ハ職務上ニテ八郎右衛門へ受取タルモノナルニ其小作証文ヲ以テ小作地ヲ引揚ントスルハ權限外ノ請求ト思考ス

前條々御審理ノ上原裁判ヲ破毀セラレシトテ乞フ

被告 三井八郎右衛門代人市岡晉一郎答辨ノ要領

答辨書ヲ分テ二章トシ第一章ハ争訟ノ大体ニ就テ上告ノ不當ヲ辨解シ第二章ハ上告狀ニ就テ逐條答辨ス其答辨ニ付憑証トスル所ノ書類ハ今般答辨スル十二件トモ同一ニ付渡邊忠兵衛カ上告ニ對スル答辨書ニ添へ差出シタリ其書目左ノ如シ

證據書類目錄

第一號

一 千葉縣下ニアル三井八郎右衛門私有開墾地處分ニ付市岡晉一郎へノ委任狀

第三號甲印

一 窮民授産開墾規則第一卷

第三號乙印

一 窮民授産開墾規則第二卷

第三號

一 小作人取扱方規則

第四號甲印

一 下総國開墾地ノ事ニ付東京府ヨリ千葉縣ニ回答書ノ寫

第四號乙印

一 東京府ヨリ下総國牧々開墾一件ニ付舊印幡縣へ演說書中抜書

ノ寫

第四號丙印

一 民部官ヨリ屋作料下渡書及ヒ東京窮民無産ノ者御處置大意

第四號丁印

一 東京窮民授産仕法畧卷ノ一寫

第四號戊印

一 窮民授産取扱方内則寫

第四號己印

一 開墾事業顛末大意

第四號庚印

一 下総國開墾地ノ事ニ付千葉縣ヨリ加村區裁判所へノ回答書ノ寫

尙原告人根本利七外五十一人ニ對スル証據目錄左ノ如シ

第一號

一 小作証文寫并千葉裁判所ノ裁判執行濟届書寫へ調印ノ分一通

第二號

一 三井組開墾方へ宛タル小作証文一通

第三號

一 三井組開墾方へ宛タル貸銀受取書數名ノ分一通

第四號

一 解訟後入費貰受ノ証書一通

第五號

一 小作金日延書一通

第一章

第一條

原告人共訴ラる處ノ要旨タルヤ下総國牧々開墾仰出サレシヨリ原告人共ハ開墾ニ從事シ往々地主タルヘキ目的ナリシニ後ニ該地ハ三井八郎右衛門ノ私有地タリトノ事ヲ聞キ目的相違スルノミナラズ根元該地ハ原告人共ニ於テ地主トナルヲ得ヘキ權利アリテ三井八郎右衛門ハ之ヲ私有スヘキ理由ナシト思ヘルモノ、如シ是レ原告人共ハ開墾着手ノ原因ヲ知ラサルニヨリ此ノ妄想ヲ起セシナラシ抑開墾ノ舉々必其原因ハ專ラ東京ニアル無籍無産ノ窮民ヲシテ永シ産業ニ就カシムルノ恩典ニ出シモノナリ原告人等ノ如キハ開墾ノ舉之レナキ前ニ該地ニ鄰接シタル松ヶ崎村ニ住居シ孰レモ在籍有産ノ一農夫ニシテ就中原告ノ内椎名啓助ノ父又兵衛ハ其頃戸長ヲ勤メ長妻多右衛門ハ副戸長ヲ勤メシ程ノ者ニシテ決シテ窮

民ニアラス故ニ其初發開墾着手ノ際ニ於テ目的トセシ所ノ窮民部
分トハ其性質ヲ異ニスルモノニテ他ノ窮民ト一般ニ思典ヲ蒙ルヘ
キ理ナシ

第三條

原告人共ハ素ト窮民ニアラス又開墾規則中ニ所謂力民ナルモノ、
部分ニモアラス所謂力民ハ其力ヲ勞セシカ爲メニ別ニ金穀ノ酬ヲ
得サルニヨリ即チ其力ヲ勞セシ地面ヲ有スルノ酬ヲ得ヘキ理アル
ヘシ原告人共ハ各開墾賃料ヲ受取タリ已ニ賃料ヲ得又累ヌルニ其
地ヲ得ルノ理ナシ然ラハ則之レヲ開墾規則中ニ所謂牧々近在窮民
ノ部分ト看做サレテ得ス而シテ近在窮民ナルモノハ幾坪ノ地ヲ
開ケハ何百文ノ賃錢ト定メ開墾成就ノ上ハ受作人タルヘキ條約ヲ
以テ生産ヲ立ヘシトノ明文アリ故ニ原告人共ノ如キハ之レヲ規則

上ヨリ論スルモ條理上ヨリ論スルモ共ニ受作人タルヘキヲ判然タ
ルモノニシテ到底地主トナルヲ得ヘカラサルナリ

第三條

原告人共ハ始メテ該地開墾ニ着手セシトキハ官有地ニシテ開墾會
社ハ官立ノモノト思ヘリト申立タリ然ルニ其小作証書宛名ハ三井
組開墾方御掛衆中ト書シ且其冒頭ニ貴所様御持畑ノ内小作下受仕
候ト掲載セリ又去ル明治六年早損ニ付小作税減額ノ義ヲ小作村々
十五ヶ村ヨリ願出則金拾貳錢五厘ヲ収ムヘキヲ金三錢ニ減少セシ
トキ原告ノ中副戸長長妻多右衛門總代トナリ三井八郎右衛門代市
岡晋一郎ヘ宛テクル一札ヲ差出シタリ加之其後原告人等ハ高田村
秋山彌平次等ニ同意シ地所買取并賃銀受取方ノ義ヲ千葉裁判所ヘ
出訴シ其末願下ケテナセシトキ貴殿御持地ノ内へ出小作罷在候ニ

付テハ約定ノ都度々々書面差入確定致シ居候ハ心得違致シ云々ノ
一札ヲ差出タリ是シ原告人共ハ固ヨリ三井八郎右衛門ノ私有地々
ルヲ信認シ又小作人タルヲモ甘心セシ明証ニシテ官有地下認メ
タルニ非ルヲ瞭然ナリ

第四條

前條々々陳述スルカ如クナルヲ以テ原告人共ハ地主タルヲ得ヘキ
理ナキヲ分明ナリ而シテ該地ハ三井八郎右衛門ノ私有地タルノ証
ハ第一舊印幡縣廳ニ下附セラレタル地券証アリ其他私有スヘキ
理由アル所以ハ豊四季村渡邊忠兵衛ノ上告狀對テ答辨セシ通リ
ナリ

第三章

第一條

上告狀第一條ニ對スル答辨ノ旨意ハ前文第一章第一條中ニ陳述ス
ル如シ故ニ東京上等裁判所ノ判決ハ不法ニアラスト思考ス

上告狀第一條ニ對スル答辨ノ旨意ハ前文第一章第一條中ニ陳述ス
ル如シ故ニ東京上等裁判所ノ判決ハ不法ニアラスト思考ス

第二條

上告狀第二條ノ申立ハ原告人共ヨリ差出シタル小作証文ノ體面ヲ
見レハ其官廳ニ對スルモノニアラサルヲハ判然タリ故ニ東京上等
裁判所ノ判決ハ不法ニアラスト思考ス

第三條

上告狀第三條ノ申立ハ原告人共カ東京上等裁判所ニ差出シタル控
訴狀ヲ閱讀セシメナケレハ果シテ自費開墾者ト申立タルヲナカリ
シヤ否ヲ識別セス故ニ之レカ答辨ヲナスヲ能ハサルナリ然レモ原
告人共カ今日申立ル所ノ要點ハ開墾規則第二條近傍窮民ノ部分ヲ
指シ云フニ在リ而シテ東京上等裁判所ノ判決第三條中ニ規則第二

條近傍窮民ノ部分ニ就テ論スルモノナリトアレハ原告人共カ今日申立ル如ク判決アリシモノニシテ此判決ヲ不法トスル理由ヲ發見シ得サルカリ

上告狀第三條但書ニ開墾成功マテノ入費云々ト申立レトモ實際夫レ程ノ入費ヲ掛ケタルトハ之レナシト思量セリ今姑ク原告人共ノ言フ所ニ從フモ東京上等裁判所ノ判決第二條中ニ已ニ近傍窮民ノ部分タルヲ知ル上ハ賃錢ノ少キト勞力ヲ用ヰシトハ素ヨリ得心ノ上取掛リシモノニテ夫カ爲メ別段ノ權利ヲ生スル筋無之トアリ此判決ヲ見レハ東京上等裁判所ニ於テ入費ノ實際ヲ審理セラルヘキ道理ナキトテ會得スルニ足ルヘシ

第四條

上告狀第四條ノ申立ハ東京上等裁判所ノ判決第二條中ニ規則第二

條近傍窮民ノ部分ニ就テ論スルモノナリトアリ此ノ如キ明文アル上ハ東京上等裁判所ニ於テ原告人共ハ開墾規則第二條ニ依ルヲ得ヘカラスト判決セラレタルニアラサルコト明瞭ナリ

第五條

上告狀第五條ノ申立ハ假令其地ハ官有ナルモ私有ナルモ小作人タルノ分限ヲ以テ小作金ヲ差拒ム理アルコトナシ況ヤ原告人共ハ初メヨリ三井八郎右衛門ノ私有地タルヲ識認セシモノナルコトハ小作証書ニ於テ明瞭ナリ

第六條

上告狀第六條ノ申立ハ固ヨリ三井八郎右衛門ハ官吏ニアラザレハ該地ヲ會社ヘ附與セラレタルノ當否ヲ論スルノ權モナク又原告人共ニ向テ之ヲ説明スルノ責任モナシ故ニ右判決ハ不法ニアラスト

思考ス

第七條

上告狀第七條ノ申立ハ八郎右衛門ノ關係セシコトニテ原告人共ニ於テモ他人ノコトヲ援引シ以テ不公平ト云フヘキ理之レナシ

第八條

上告狀第八條ノ申立ハ前文第一章第三條ノ辨解ニテ明瞭ナリ

辨明

第一條

上告狀第一條ノ申立ハ東京上等裁判所ノ判決ヲ了解シ得サルニ出テタルモノトス何トナレハ東京上等裁判所ノ判決第一條中ニ開墾規則ニ因ル時ハ該會社ハ當時府下無籍無産ノ窮民救助ノ爲メトアリテ開墾地近傍窮民救助ノ事ヲ舉ケザリシハ開墾會社ノ民立タルヲ

辨明ナル爲メ該會社ハ開墾規則ニ因リテ成リ立チタルモノニテ其成リ立チタル原因ハ首トシテ東京府下ノ窮民ヲ救助スルニ出テタルコトヲ辨スルニ在レハナリ而シテ其首トスル所ノ東京府下ノ窮民ヲ救助スルニ出テタル証ハ原告引証スル所ノ開墾規則前文中ニ就中東京ノ儀ハ非常ノ御變革被爲在候ヨリ俄ニ無籍ト相成候者不少云々右等ノ者共ヲ始メ其外窮民ニ至ル迄トアリ又原告引証スル所ノ開墾規則第二條ニ開墾地近傍在籍有産ノ窮民ト東京府下ノ無籍無産ノ窮民トハ差別アルコトヲ記シ同規則第九條ニモ今般ノ開墾ハ無籍ノ浮浪士ヲ始メ其外農工商トアルヲ以テ見ルヘシ故ニ東京上等裁判所ハ救助ノ首トスル所ヲ舉ケタル迄ニテ開墾地近傍窮民救助ノ道ハ立テ置カレサル朝旨ナリト判決セシニアラス而シテ原告ニ於テ相分リ難シト申立ル近傍窮民救助ノ事ハ開墾規則第二條ニ

明記シアル上ハ東京上等裁判所カ此判文ニ於テ開墾地近傍窮民ノ
コチ擧ケサリシトテ少シモ上告人ノ權利ニ妨害ナキニ因リ其擧ケ
サリシチ以テ不法ノ裁判トスルヲ得ス

第二條

上告狀第二條ノ申立ニ付キ小作願書小作証書ノ果シテ官廳ニ對ス
ルモノナルヤ否ヲ判決スルニハ先ツ其小作願書ヲ受取リタル開墾
會社ハ官立ナル乎民立ナル乎小作証書ヲ受取リタル三井組開墾方
ハ何等ノ性質ヨリ成リ立チタルモノナルカヲ定メサルヘカラス而
シテ原告カ會社ヲ官立ナリトスル所以ハ控訴狀第一條ニ陳述セシ
如シト申立ルニ依リ控訴狀第一條ヲ接スルニ其引証スル所三箇條
ヲ引トス而シテ其第一箇條ハ開墾規則前文ニ會社ヲ爲結トアリ是
ナリ然ルニ會社ヲ爲結トアル前後ノ文ニハ許多ノ窮民授産成功迄

ハ中々不容易大事件ニ付政府ノ御世話而已ニテハ御手ノ十分ニ難
被爲届御場合モ可有之依テハ今般東京始メ其外開墾ニ加入致度志
願ノ者ニ會社ヲ爲結自分金穀ヲ以テ開墾致度者ハ富民ノ部ニ入レ
又ハ志ハ有之候トモ自力無之者ハ力民ノ部ニ入レ富民力民相互ニ
助合云々トアリ此文意ヲ解釋スレハ窮民授産ノ事ハ當時政府ノ世
話ノミニテハ行届キ難キ場合モアルニ依リ志願ノ富民力民ニ會社
ヲ結ハセ開墾ニ從事シ窮民授産ノ道ヲ立テシムルトノコナリ故ニ
志願ノ者ト云ヒ會社ヲ爲結ト云ヒ自分金穀ヲ以テ開墾致度者ト云
ヒ志ハ有之候トモ自力無之者ト云ヒ歷々皆會社ノ民立タルコトヲ言
フモノニシテ毫モ會社ノ官立タルコトヲ言フノ文意ナシ然ラハ則原
告ノ所謂會社ヲ爲結トアルハ却テ會社ノ民立タルヲ証スルニ足ル
モノニシテ會社ノ官立タルノ証ト爲スヲ得ス又第二箇條第三箇條

ノ引証ハ開墾規則第八條ニ會社役人撰擧ノ事云々役義可申付管ニ付云々會社一般決議ノ上可申立事トアリ同規則第十條ニ開墾ノ御趣意ヲ拜承致シ願人或ハ有志ノ輩會社ノ者エ内談等有之節ハ其旨委細書取ヲ以當局へ可届出管万一心得違致シ私ニ願書預リ又ハ如何敷稅ト唱竊ニ金銀ヲ欺取云々トアル是ナリ原告ハ會社ノ社員カ右兩箇條ノ如ク開墾局ノ命令ヲ受クルニ依リ會社ハ官立ノ証ナリトスレトモ抑開墾會社ノ成リ立テタルヤ政府ニ於テ先ツ開墾局ヲ置キ開墾規則ヲ設ケ其規則ニ據リテ富兵力民ニ會社ヲ結ハセタルモノナレハ會社カ此規則ニ賴ツテ就業スヘキハ結社ノ初ヨリ定リタルモノナリ是故ニ開墾局カ右二條ノ如ク會社ノ事務ニ干與スル所以ノ者ハ所謂許多ノ窮民ヲシテ授産セシムルハ容易ナラサル大事件ナルヲ以テ之ニ從事スルモノヲ監護スルニ出ルモノナルトハ

明瞭ナリトス左スレハ會社カ開墾局ノ命令ヲ受タルハ固ヨリ當然ノ事ニシテ其命令ヲ受ケタリトテ會社ハ官立ナリトノ証ト爲スチ得ス又原告ニ於テタトヒ會社ハ官立ニモセヨ民立ニモセヨ小作願書小作証書ハ官廳ニ對スルモノナリト申立レトモ會社ノ官立タル手民立タル乎ヲ問ハスシテ獨リ小作願書小作証書ノミニ依リ官廳ニ對スルモノト爲スヲ得サル者トス原告ハ第一窮民授産ノ爲メ開墾局ノ設立アリ第三窮民授産開墾規則ヲ施行セラル、ニ付會社ヲ結ハセラル、ノ方法アリト云フト雖モ開墾局ニテ規則ヲ立テ會社ヲ爲結タルモノナレハ開墾局ト會社トハ判然タル區別アリト而シテ其會社ヲ爲結トアルハ官ヨリ人民ニ指揮シテ會社ヲ結ハシメシトニテ即チ會社ノ民立タルノ証ニシテ官立タルノ証ト爲スヲ得ス第三ハ小作願書ニ御局御支配小作人開墾會社御役人中様ト記シ

タリト云フト雖モ前ニ辨明セシ如ク民立ナル會社ハ差出シタル小作願書ハ之ヲ官廳ニ對スルモノト爲スヲ得ス第四ハ小作証書ニ地稅御上納御役所ト記シタリト云フト雖モ其名宛ハ會社中ノ一人ナル三井組開墾方ニテ其証書ノ首ニ貴所様御持ノ内小作下受仕云々ト記シ又末文ニ御會社ノ御規則屹度相守可申トアルニヨレハ固ヨリ官廳ニ對セルモノトナスヘカラス是ニ由テ之ヲ觀レハ原告カ所謂開墾規則ニ據ルモ窮民授産ノ趣旨ニ對スルモ會社ハ民立ニシテ官立ニアラサル上ハ小作願書小作証書ハ官廳ニ對スルモノニアラズトス又往古ヨリ土地ヲ開墾スレハ其地ハ開墾者ノ所有ト爲ル習慣ト申立レ厄右ハ他人ノ給與ニ依ラス獨立シテ開墾セシ者ノ事ニシテ此案件ト其性質ヲ異ニセシ者ナリトス右ノ如クナルヲ以テ東京上等裁判所カ會社ノ民立タルヲ辨明シ小作願書及ヒ小作証書

ニ會社役人等ニ稱小作上納等ノ辭ヲ用ヰタリトテ之ヲ官廳ニ對スルモノト爲スハ利益之盜ト判決ニ依ルハ不法ノ裁判ニアラズトス
 第三條ニ夫々欲入取與ノ辭解セテハハ無業ニト辨明シ上告狀第三條ノ申立ニ依リ原告ハ東京上等裁判所ニ於テ自費開墾者ト申立タルヲ以テ否テ審査スルニ明治九年六月二十七日東京上等裁判所ニ於テ原告ノ口供ヨリ自費金穀ヲ以テ開墾致候者ハ往々其地以テ所有主ト相成ラズヘシ旨傳弗致シ云々出願人上字高田臺牧ニテ荒野六拾六町步ヲ一纏メモ引受内本五町壹反步銘々自費開墾以テ開墾シ云々自費共ニ如キ自費以テ開墾致候者ハ云々判示ハ自費開墾者ト申立タルヲ明白ニ故ニ東京上等裁判所ハ自費開墾者者賃錢取小作人トハ開墾規則上其差別アリ而シテ原告人於テ賃錢ヲ受取リタル以上決シテ自費開墾者ノ部分ニアラズト判決

被告モ之流レハ不法ノ裁判ニテ其ノ開墾者ノ請求ニ依リテ其ノ開墾者
 原告被告第三條但書ノ申立ニ審理ニ付テ原告ノ開墾規則第三條ニ
 依リテ近傍窮民ノ部中ナル印自異論ヲキ東本條ノ申立因不明瞭
 以テ開墾ニ近傍窮民ノ部中ナル印自異論ヲキ東本條ノ申立因不明瞭
 入該實際ニ審理セザリシヲ不條理ト爲ス判得又何論ヲ以テ開
 其墾地近傍窮民處置ノ事ハ開墾規則第三條ニ明定アリ此條ニ依
 上條處置ヲ受クニモ其ノ固ヨク其ノ實際因審理ニ付テ要セ
 其ノ中ナル故ニ東京正等裁判所ニ於テ是ハ近傍窮民ノ部分ニ依
 上條ニ依リテ其ノ賃金ノ少キ勞力費用並ニ其ノ素ヨリ得心費取
 掛リシ賃金ノ少キ夫カ爲メ別段ノ權利ヲ生スル筋無之ト判決セシ
 之モソナ容ハ條理ニ適シ以テ裁判ナリ不該ノ裁判ニテモ其ノ
 被告第四條第一項上條ノ規定ニ依リテ其ノ賃金ノ少キ勞力費用並

被告第四條ノ申立ハ東京正等裁判所ノ判文ヲ誤解者シモ其ノ上ハ
 何事モ其ノ判文第三條中其原告ハ於テ賃金ヲ受取タル以上ハ決シ
 テ自費開墾者ニテラ其自費ノ往々地主タル得ヘキ目的
 ナリシトハ規則第三條近傍窮民ノ部分ニ就テ論スル所ナリトス
 ル其原告カ自費開墾者ナリト申立申對シ自費開墾者ナレハ賃金
 受取ルヘキ理由ナシ既ニ賃金ヲ受取ル上ハ自費開墾者ニテシ
 又自費開墾者ナレハ初ヨリ地主タルハ權有添ルモノ流レハ往
 々地主タルヲ得ル目的ナリシト言テ其理由ナシ既言往々地主
 者ヲ得ル目的ナリト東京正等裁判所ニ於テ原告ノ申立ハ自費開墾
 二適當ニ終畢原告ニ於テ賃金ヲ受取リタリト云ヒ又往々地主タ
 ルヲ得ル目的ナリト云フ規則第三條近傍窮民ノ部分ニ就テ
 論不此モナリト原告ノ意ニテ原告規則第三條ニ依テ其得ヘカラス

判決セシニアラサルヲミナラズ即ち規則第三條ニ依ルニ申立ナ
リト判決セシナリ故ニ自己ノ誤解ヲ以テ此裁判ヲ不法トスルヲ得ス
第五條

上告狀第五條ヲ申立ニ付東京上等裁判所ニ判決第三條中ニ所有主
ノ官私ニ拘ラス被告ヘ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然云々ト
アルヲ審按スルニ此判文ハ原告ニ於テ小作金ヲ納ル可キ拒メルハ
元官有地ト心得小作セシニ圖ラヌモ三井組ノ所有地トナリシ趣ニ
付其原因ヲ知ラザレバ納メ難シト申立ニ對スルモノニテ小作金
ヲ納メルヲ義務ハ所有主ノ官私ニ因テ之ヲ納ムルト納メサルトノ
區別ヲ生スルモノニアラズ故ニ原告ニ於テ小作人タラシキ願出
小作證書ヲ差入該ル上該地ト官有ト認テ私有タルト論テ其
小作人該地ト明白ナリ已ニ小作人タルニ其小作證書ノ名宛人即

チ被告人ニ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然ナリトノ意ナリト
ス然ルニ原告ニ於テ官有私有ニ別チ明カニシテ而シテ後土地ヲ
引渡スヘキ理由アラハ其時被告ヘ對シ小作人ノ義務ヲ盡スルハ
當然ナリト云フト雖モ該地ト官有タル乎私有タル乎原告於テ
論スヘキコトニアラス何事ナレバ原告初段自ラ小作證書ヲ被告
差入被告ノ支配ヲ受テ來ルモノナレバ其小作人タルハ契約ヲ履行
スヘキモラナレバ然ルニ其契約ニ書キテ小作金ヲ差出スルヲ
拒ムニ依リ小作地引揚ヲ訴ヘラレタリ故ニ原告カ所謂地所
チ引渡スヘキ理由ハ判然著明ナリト故ニ東京上等裁判所ニ於テ
其所有主ノ官私ニ拘ラス被告ヘ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ
當然ナルコトヲ差拒メ拒リシテ地所ヲ引揚シタルハ適當ノ裁判ナリトス
對シ不當トスヘカラスト判決シタルハ適當ノ裁判ナリトス

第六條 原告第六條ノ申立ヲ審理スルニ被告ニ於テ地所ヲ引揚シ書シタル
 原告第六條ノ小作証書ニ差入ナカシ小作人タルノ義務ヲ盡シタルニ出
 テ其事理ノ明瞭ナル時東京上等裁判所ノ判決ヲ不法ニアラサレヨ
 第五條ノ第五條ヲ辨明セシ如シ然ルニ原告ハ控訴狀第十三條及第十四
 第十五條ノ末文ニ於テ却テ被告カ地所ヲ得タル確証ヲ知リ得ンヨ
 求及將カノ是時ニ控訴狀第一條同第三條同第十五條同第十六條
 條於テハ該地處分止ノ事ニ論及セリ抑原告ハ初ヨリ被告ニ小作証
 書ヲ差入小作人トナシタルモノナレハ小作人ニシテ地主カ地所ヲ
 得タル理由ヲ知リ得ン其求及キ權利アルヨナシ且該地ヲ會社ニ
 附與セラザルニ官廳ノ處分係モ以テナレハ民立會社ノ社員ナ
 ル被告ニ於テハ官廳ノ處分ヲ付其處分ノ理由ヲ説明スルノ責任ナ

キモノトス故ニ東京上等裁判所ハ判文第三條ノ結尾ニ於テ該地ヲ
 會社ニ附與セラレシコトハ固ヨリ官廳ノ處分ニ關スルコトニテ其當否
 ナ被告ニ對シ申立ヘキ筋ニ及ズ該裁判決セシモノニシテ不法ノ裁
 判ニアラストス

第七條

上告狀第七條第八條ハ東京上等裁判所ニ對テ申立ニアラ
 サルヲ以テ大審院ニ於テ辨明ヲ與ラルノ限ニ在ラズ

判決

前條々ノ如クナルヲ以テ大審院ニ於テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀
 スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也

第七十五號

○窮民授産關墾地爭論ニ係ル被告ヲ判明
 明治九年八月廿八日上告
 明治十一年五月廿七日申渡

○東京府下總國葛飾郡下流落者無籍無產者窮民之助外
餘二村平民墾庭空之助外
前編
出雲町三番地平民
松本善五郎

○東京府下總國葛飾郡下流落者無籍無產者窮民之助外
餘二村平民墾庭空之助外
前編
出雲町三番地平民
松本善五郎

○東京府下總國葛飾郡下流落者無籍無產者窮民之助外
餘二村平民墾庭空之助外
前編
出雲町三番地平民
松本善五郎

○東京府下總國葛飾郡下流落者無籍無產者窮民之助外
餘二村平民墾庭空之助外
前編
出雲町三番地平民
松本善五郎

市岡普一郎

千葉裁判所 審判 三井組代理市岡普一郎

三井組代理市岡普一郎
所引上流訴訟遂除味處原告人於元來開墾地
已年六月中當時東京府下三流落者無籍無產者窮民之助外
產之途を得也
救助者專之
附與之
中窮民引受數
告之小作也
人取扱規則

本開墾規則第三條ニ依リ土地買取並ニ權利ハ其旨ヲ以テ同
 六年十一月申訴訟ヲ起シ其後願意不相立以悟一但解訟ニ及テ亦
 之尙依然申訴テ亦作人少義務以盡守、死ニ付証書約定ニ基キ亦作
 金ハ勿論地所引上度旨申立被認意ハ其旨ニ同三年十月十八日
 被告於明治三己年六月頒布相成此開墾規則第一卷第三條ニ基
 キ明治三年閏十月三日迄ニ會社願出許可を得テ
 八町並反歩ノ地ヲ開墾同四年十二月ニ至リ亦作証書差入已來
 該地ハ官有ニシテ會社規則ニ官設ト心得約定通亦作稅差納シ來
 以處其後原告擅ニ私有地ニ越申聞ルニ付爾後納稅差拒ニテ抑該
 地開墾ノ旨趣ハ其專ラ窮民授産ノ恩典出テタルモ亦其以ハ富
 民ノ者ニ土地可賜謂レ無之故ニ開墾局へ差出シタル願書中或ハ小
 作証書等ニ私有地ノ文休ハ有之トモ曾テ社員ヲ地主ト看認タル

二非ス全ク一時ノ誤謬ニ付明治六年十二月中當裁判所へ右地所買
 取増賃銀請取之儀出訴致候處願意不條理由相心得一旦訴狀願書
 之候得共尙熟ラ勘考スレハ右願書之致候送矢張誤解ヨリ生ズル
 儀ニテ固ヨリ社員ハ該局ノ吏員ニシテ地所ハ官有地ト心得ルニ付
 小作金ハ直ニ官へ上稅可致筋然カ故ニ原告へ對シ納稅ハ勿論地
 所引渡シ候儀難相成旨申立テ其旨ニ同
 因テ左ノ通判決ス

第一條

被告ニ於テ最初開墾局へ差出シタル願書及ヒ小作証書ハ私有地ノ
 文休ニ認メタル所然ルモ右ハ當時ノ誤寫ニシテ元來官有地ト心得
 以テ明治六年十二月地所買取云々ノ儀當裁判所へ出訴致シ其
 節一旦非理ナルヲ自認シ訴狀願書致セシ處猶之其願書ハ右願下

考セシモ亦誤認ニ出タル旨今更申立テト雖モ開墾規則及ヒ小作人
取扱規則ヲ参照シ又其土地ヲ管轄スル千葉縣廳ノ証明以テ所ニ據
シハ該地ハ會社ニ附與セラレシモノニテ全原告ノ私有地ニ可相心
得事

第三條

小作人取扱規則ニ據レハ被告ハ會社ニ加入致シタル筋ニ無之固ヨ
シ社外ノ小作人ニシテ其義務ヲ盡ス迄ノモノタレハ窮民授産處分
上ノ事ニ付可否ノ論議ニハ關係無之事
第三條
前二條之通ニ付被告於テ証書面約定之義務ヲ欠キタル上原告ノ
督促抗拒ス可キ權利無之間小作金ハ勿論地所速ニ原告ニ可引渡事
明治八年十一月廿四日

東京上等裁判所ノ審判

原告 饗庭空之助外四人代理人松本善五郎控訴ノ要領 明治九年

三月二十三日

明治二年六月中窮民授産ノ爲メ下總國小金佐倉牧々開墾被仰出タ
リ自分共ハ右開墾地近傍窮民タルヲ以テ窮民授産開墾規則第一卷
第二條ニ依リ開墾志願ノ旨明治三年十月中舊開墾會社ニ出願シ小
金原字高田臺牧ト稱スル荒野八町五反歩ヲ引受開墾シ明治五年三
月ニ至リ開墾規則第二條ニ基キ壹反ニ付金壹圓五拾錢ヲ割テ以テ
貨銀下渡相成タリ小作証文ハ明治四年十二月中差入耕地壹反ニ付
貳拾五錢ノ上税可致旨開墾會社ヨリ申渡サレ其際舊葛飾縣勸農掛
鍋本平馬ヨリ右小作証文名宛ハ三井組開墾掛中下記スヘキ旨廻狀
共以順達セシメ付乃チ承諾シ小作証文差入納稅致シ來リタル處ニ

井八郎右衛門ヨリ右地所ノ地券狀御下差願ハテ近々取越去聞悉大
 二驚キ掛合中三井組ニ於テ小作証文ヲ以テ私有地ノ証憑ヲ加
 村區裁判所ニ出訴ス末千葉裁判所ニ差廻サレ同所ニ於テ三井組私
 有地ニ付小作金ヲ償却シ地所引渡スベシトシ裁判夫受取有裁判
 不服ニ付別紙第拾号ヨリ第五号迄ノ書類ヲ證據ニシテ控訴スルコ
 左ノ如シ
 第一号 官立ニシテ其社員ハ開墾ノ事務ヲ擔任シタル所以ハ窮
 民授産開墾規則前文ニ會社ヲ爲結トアリ又同規則第十條ニ開墾之
 御趣意ヲ拜承致シ願人或ハ有志ノ輩會社ニ入内談等有之候節該
 其旨委細書取テ以當局ニ可届出等方ニ心得違致シ私ニ願書預取又
 ハ如何敷税ト唱筋ニ金銀ヲ取取云々同第八條ニ會社役人撰舉以事
 云々役儀可申付等ニ付云々會社ニ般決議ノ上可申立事取此敷
 條ニ據ルハ會社ニ官立ナルハ勿論其社員ハ開墾局ニ命令ヲ受取窮
 民授産上ノ職務ヲ從事スル迄テ者ニ於テ一人一己ノ私意ヲ行フコ
 者ニアラザルニ其社員タル被告三井八郎右衛門ニ於テ其地所私有
 地ノ權利ヲ以テ其社員タル被告三井八郎右衛門ニ於テ其地所私有
 地ノ權利ヲ以テ其社員タル被告三井八郎右衛門ニ於テ其地所私有

第一條

開墾會社ハ官立ニシテ其社員ハ開墾ノ事務ヲ擔任シタル所以ハ窮
 民授産開墾規則前文ニ會社ヲ爲結トアリ又同規則第十條ニ開墾之
 御趣意ヲ拜承致シ願人或ハ有志ノ輩會社ニ入内談等有之候節該
 其旨委細書取テ以當局ニ可届出等方ニ心得違致シ私ニ願書預取又
 ハ如何敷税ト唱筋ニ金銀ヲ取取云々同第八條ニ會社役人撰舉以事
 云々役儀可申付等ニ付云々會社ニ般決議ノ上可申立事取此敷
 條ニ據ルハ會社ニ官立ナルハ勿論其社員ハ開墾局ニ命令ヲ受取窮
 民授産上ノ職務ヲ從事スル迄テ者ニ於テ一人一己ノ私意ヲ行フコ
 者ニアラザルニ其社員タル被告三井八郎右衛門ニ於テ其地所私有
 地ノ權利ヲ以テ其社員タル被告三井八郎右衛門ニ於テ其地所私有

第五号 千葉御裁判所裁判狀

千葉御裁判所裁判狀

開墾會社ハ官立ニシテ其社員ハ開墾ノ事務ヲ擔任シタル所以ハ窮
 民授産開墾規則前文ニ會社ヲ爲結トアリ又同規則第十條ニ開墾之
 御趣意ヲ拜承致シ願人或ハ有志ノ輩會社ニ入内談等有之候節該
 其旨委細書取テ以當局ニ可届出等方ニ心得違致シ私ニ願書預取又
 ハ如何敷税ト唱筋ニ金銀ヲ取取云々同第八條ニ會社役人撰舉以事
 云々役儀可申付等ニ付云々會社ニ般決議ノ上可申立事取此敷
 條ニ據ルハ會社ニ官立ナルハ勿論其社員ハ開墾局ニ命令ヲ受取窮
 民授産上ノ職務ヲ從事スル迄テ者ニ於テ一人一己ノ私意ヲ行フコ
 者ニアラザルニ其社員タル被告三井八郎右衛門ニ於テ其地所私有
 地ノ權利ヲ以テ其社員タル被告三井八郎右衛門ニ於テ其地所私有
 地ノ權利ヲ以テ其社員タル被告三井八郎右衛門ニ於テ其地所私有

第一條

開墾會社ハ官立ニシテ其社員ハ開墾ノ事務ヲ擔任シタル所以ハ窮
 民授産開墾規則前文ニ會社ヲ爲結トアリ又同規則第十條ニ開墾之
 御趣意ヲ拜承致シ願人或ハ有志ノ輩會社ニ入内談等有之候節該
 其旨委細書取テ以當局ニ可届出等方ニ心得違致シ私ニ願書預取又
 ハ如何敷税ト唱筋ニ金銀ヲ取取云々同第八條ニ會社役人撰舉以事
 云々役儀可申付等ニ付云々會社ニ般決議ノ上可申立事取此敷
 條ニ據ルハ會社ニ官立ナルハ勿論其社員ハ開墾局ニ命令ヲ受取窮
 民授産上ノ職務ヲ從事スル迄テ者ニ於テ一人一己ノ私意ヲ行フコ
 者ニアラザルニ其社員タル被告三井八郎右衛門ニ於テ其地所私有
 地ノ權利ヲ以テ其社員タル被告三井八郎右衛門ニ於テ其地所私有

開墾規則第三條ニ自分金穀ヲ以開墾加入願出候者所置之事云々三町歩ノ地へ窮民壹人引受云々上ヨリ拜借金ノ内ヲ以一人分ノ入費夫下遣云々會社へ示談可致云々下ア此條依テ自費開墾願出タル者ト被告八郎右衛門ノ娘キ開墾規則入前文ニ依テ會社ヲ結ビタル社員ト別異ナルコトハ第三條中ニ會社へ示談可致トナルヲ以テ判然タリ故ニ八郎右衛門カ窮民ヲ引受テレハ此開墾規則第三條ニ據ルヘキモノニテアテザル然レドモ窮民ヲ引受テテ以テ規則第三條ニ照シテ三町歩ノ地ヲ所有スルモノニテモ自分共以如キ規則第二條ニ依リタル者ヲ除キテ他ニ於テ所有スルモノニ格別規則第三條ノ趣旨ヲ妨クヘキ條理ナカルヘシトテ開墾規則第三條ニ據ル第三條ニ依リテ其地ノ所有權ヲ得ル者ハ開墾規則第六條中ニ成功ノ入費中々牧々開墾ノ利ヲ以補フニ足ラ

ストアリ又同規則第四條ニ縱令ハ地主トナリ拾坪ヲ開候者ハ外ニ壹坪半ノ地ヲ開キ會社ニ差出スヘシ云々窮民授産ノ世話而已致候者ハ寸地モ無之儀ニ付右地所相當ノ割ヲ以相渡往々其身土著以法相立可申事トアリ此二條ヲ照合スルニ開墾ノ利ヲ以テ入費ヲ補フニ足ラサルニ依リ拾坪ヲ開ク者ハ壹坪半ヲ會社へ差出スヘシトアリ此並凡利ヲ得ル者ハ元ヲキユテ能ク即拾坪ハ元ニシテ壹坪半ハ利ヲ得然ルニ元利ヲ併セテ會社ノ所有スルニテ開墾規則前文ニ銘々一己ノ利欲ニ走リ云々窮民授産ノ御成業ヲ害シ間敷クテ此趣旨ニ牴觸スルヲ以テ被告八郎右衛門ニ於テ擅ニ開墾地ヲ引揚シ下スル私欲ヲ所業ナリトテ開墾規則第六條中ニ據ルコトヲ以テ手葉裁判所ノ判決第三條中ニ小作人取扱規則ニ據ルコトヲ以テ之ヲ

政府ノ小作人取扱規則並ニ其地ニ亦政府ノ地ナリ之ヲ平民八郎右衛門ノ小作人取扱規則トスレハ同裁判所ノ判決第一條中ニ開墾規則ニ參照スルニ於テ政府ノ小作人取扱規則ト八郎右衛門ノ小作人取扱規則ニ並行スルニキリナシ又八郎右衛門ノ規則ニ政府ノ規則ヲ參照スルニシテ其地ハ八郎右衛門ノ地ト見認メラザルニ欺官民混淆事理明了ナラズ因テ小作人取扱規則各條ヲ立テ及ヒ開墾地ニ付テノ權限ヲ審理スルニ付テ乞フニ於テ其地ハ開墾ノ地ト見認メラザルニ欺官民混淆事理明了ナラズ因テ小作人取扱規則各條ヲ立テ及ヒ開墾地ニ付テノ權限ヲ審理スルニ付テ乞フニ於テ其地ハ開墾ノ地ト見認メラザルニ欺

千葉裁判所判決第一條中ニ開墾規則及ヒ小作人取扱規則ニ參照スルニ於テ原告以テ私有地トシテ可相心得事トアリテ小作人取扱規則第何條ニ據ルニ付テ記載スル又小作人取扱規則ニ於テ政府ヨリ施行セラルル規則ナ

ルヤ八郎右衛門ノ設立シタル規則ナリヤ其判決明カナラスト雖モ抑此開墾ハ窮民授産ノ爲メ政府特別ノ恩典ニ出テタルニテ開墾規則第三條ニ依リ賃銀飯米家作ノ御手當ヲ蒙リ受作人トナリ自力出來次第右地所買取地主トナルニキリ方法ナリ此ハ政府ノ開墾局ヨリ政府ノ規則ヲ以テ政府ヨリ御手當ヲ被下受作人トナリ又其地ヲ買取ルニ得ル旨政府ヨリ普ク人民ニ示サレタル上ハ斷然政府ノ地所ト謂ハサルヲ得ルニ依リ之ヲ八郎右衛門ノ私有地ト看做スルモ八郎右衛門ノ私有地ニ於テ政府ヨリ開墾局并ニ規則ヲ立テラレ其規則ヲ普ク人民ニ示サルニキリナシ又政府ニ於テ八郎右衛門ノ事務ヲ行ハルニキリ理ナシ然ルニ詞訟ノ末忽然顯ハレタル小作人取扱規則以テ窮民授産ノ方法ヲ害スルニ付テハ當初施行セラレタル窮民授産ノ廉ハ取消ニ相成タル歟小作人取扱規則以テ窮民授産ノ

住無産トナルヘキヲ執行セラルルモ久歟前後ノ規則區別相立テ
 様審判ヲラソテテ乞フ
 第六條
 小作証文中ニ貴所様御持ト記シタルハ八郎右衛門ヘ對スル語ニ似
 レトモ御持トハ御持場御持主ノ二様ニ涉ル字ニテ御持主トレハ八
 郎右衛門ヲ指シタルニ相當御持場トレハ其職務ヲ指シタルニ相
 當リ判然ナラス又同証文中ニ三井組開墾掛中ト記シタルハ政府
 開墾會社ノ事務ヲ預ル及社員ヲ指シタルニ當リトモ若シ是モ八
 郎右衛門ノ開墾掛中トモハ開墾ノ事業ハ政府ニ屬窮民授産
 爲メニセラル、開墾ノ掛中トモハ開墾ガル歟其原由ヲ審理ス
 テ了ラズ乞フ
 第七條
 小作証文中ニ地稅ト記シ御上納ト記シ御役所ト記シタルハ則官ニ

小作証文中ニ地稅ト記シ御上納ト記シ御役所ト記シタルハ則官ニ
 對スル語ナリ左クハ此三語ヲ以テ小作証文ハ其職務ヘ對シ差入
 レタルト判然タリ既ニ八郎右衛門ハ會社ノ役員タルヲ以テ上稅ハ
 勿論都テ違背ハ仕間敷ト記シタルナリ然ルモ八郎右衛門ハ其職務
 上ニテ受ケタル小作証文ヲ以テ私有ノ証トスルハ平民若シ八郎右
 衛門ニ限り地稅御上納御役所ノ名稱ヲ許サレタル者歟若シ許サレ
 タルモノトセハ其許サレタルトテ承知セスシテ差出シタル小作証
 文ハ其承知セサル廉チ以テ取消サレシ事トシテ
 第八條
 小作証文中ニ御會社ノ御規則ト記シタルハ政府ノ恩典ニ出テタル
 窮民授産開墾規則前文ニ志願シ者ニ會社ヲ爲結云々トアレヲ指シ
 タルモノナリ若シ茲ニ八郎右衛門ノ開墾地アリ八郎右衛門以規則

ア、ト、ス、レハ政府ニ開墾地ノ幾部分ヲ何年月日ニ入郎右衛門ニ分
割セラレタル歟若又開墾ノ事業ハ最初ヨリ入郎右衛門ノ如キ開墾
會社社員ノ事業ナリトモ然レバ平民ノ開墾地ニ政府ヨリ
局ヲ設ケ政府ノ窮民ヲ平民ノ開墾地ニ於テ授産スル規則ヲ施行セ
ズレバモノ歟其開墾ノ規則トハ根源ヲ審理アラソク之ヲ
第九條其規則ニ依リテ開墾地ノ幾部分ヲ何年月日ニ入郎右衛門
千葉裁判所ニ於テ三井八郎右衛門ノ口供ニ開墾規則第五條ニ依リ
金札貳拾万圓會社一同ノ基金トシテ貸下ケ相成候分明治五年五月
中廢局廢社ノ砌右拜借金貳拾万圓ハ其儘會社并窮民ニ下賜候旨
被仰渡候ニ付窮民共ニ貸渡候金穀ハ勿論其他悉皆渡切ニ相成爾後
獨立ノ農夫ト相成候トナレトモ東京ノ窮民ハ開墾規則第一條ニ依
リ三ヶ年ノ間衣食住ハ勿論万事御世話ヲ蒙リ受作人トナリタルモノ

ナリ近在ノ窮民ハ開墾規則第二條ニ依リ賃銀飯米家作ノ御手當ヲ
蒙リ受作人トナレトモ東京ノ窮民ハ差等ニ隨ヒ御救助ノ厚薄ア
ル雖モ拜借金ヲ會社并窮民ニ下賜候旨仰渡サレテ東京ノ窮民
以窮民モ近在ノ窮民ニ差等ニ別ナレトモ然レバ東京ノ窮民
名目金穀其他御貸渡ヲ被下切金相成近在ノ窮民ハ御下渡ノ賃銀
被下切金相成ラズ均シク政府ヲ恩典ニシテ二途ニ處分セラレテ盡キ
等ナキハ勿論ナレトモ入郎右衛門其他社員ノ方法ヲ曲ケ事務ヲ取
扱ヒ然レバ判然トシテ故ニ其不當ヲ審理セザルニ付乞願ニ依リ

第十條

前條ノ口供ニ依リハ入郎右衛門ニ於テハ東京窮民ノ外開墾ニ著手
セシ窮民ハ開墾規則第三條ノ部内ニ非サル者ナラズ歟若シ然レバ
開墾規則第三條ハ有名無實ト看做タレ歟已ニ窮民授産ノ規

則ア其規則ヲ適當シテ窮民ニ其規則ノ事業ヲ踐行シタルニ却テ規則ニ適當セザルモノトスルハ不當ナルヲ以テ其不當ノ廉ヲ審理アラソク夫乞フ

第十一條

近在窮民ハ開墾規則第二條ノ通貨銀飯米家作御手當ヲ蒙リ一旦受作人トナシ自力出來次第御拂下願テ地主トナリテ志願ニテ開墾ニ着手セシ處御手當等ヲ下渡シキヲ以テ據テ本村ノ財産ヲ賣却シ又ハ他借テテ壹反ニ付金七圓五格錢位ニ相掛テ又ハ其金額ニ應シテ筋力ヲ盡シ開墾セシニ成功ノ後ニ至リ壹反ニ付賃銀金壹圓五拾錢宛下渡相成タモ未ダ飯米家作ノ御手當ヲ受テタルノモナラス開墾入費モ十分ノ二三當ニ金額壹反ニ付壹ヲ下渡アリタモ十分ノ八ハ窮民ノ出セシ資本ナルヲ以テ其實況ヲ審理ア

ラソク

第十二條

千葉裁判所ニ於テ被告ヲ申立ニテ東京ノ窮民二千五百戸九千餘人ニテ開墾其他ノ失費高凡七拾万圓餘ニ至リト因テ葛飾郡豐四季村宇南組ト稱フル四拾戸ノ者ノ救助ヲ蒙リタル金額ヲ計算スルニ平均壹戸ニ付金三拾圓未滿ナリ試ニ此割合ヲ以テ東京ノ窮民二千五百戸ニ算當スルニ七萬五千圓ニ上ラヌトモ其他ノ入費ヲ格外ニ見込メテ御貸下金貳拾万圓ノ高ヲ越ユヘキ管ヲシ然ルニ七拾萬圓餘ヲ申立バ不相當ニシテ信シ難シ況ヤ御貸下金ト通算スルハ百萬圓餘ナルヲヤ果シテ實ナルモ冗費此ノ如クナルハ開墾規則前文中銘々ニ己ノ利欲ニ走ラス窮民授産ノ道相立候様注意可仕トテ旨ニ對シ不條理ナルニ依リ實地精算ノ審理アラソク

第十三條

千葉裁判所ノ判決第一條中ニ其土地ヲ管轄スル千葉縣廳ノ證明
 ル所ニ據レハ該地ハ會社ニ附與セラレタルモノニテ全ク八郎右衛
 門ノ私有地ト可相心得トアレトモ千葉縣廳ノ證明ナルトシテ
 何年何月何ノ御役所ヨリ何等ノ達書アリ何等ノ証ニ據リ八郎右衛
 門ノ私有地トナリタルトシテ證據ヲ示シ窮民ノ承知ヲ經タルニ及
 サレハ千葉縣廳ノ證明ハ無証ノ口實ニ是トセラレシモノナルヤホ
 保シ難キニ依リ不明ノ判決ナリト思考ス

第十四條

千葉裁判所ノ判文第二條中ニ被告ハ會社ニ加入致シタル筋ニ無之
 固ヨリ社外ノハ作人ニシテ其義務ヲ盡ス迄ノモノトアリ其社外タ
 ルハ勿論ナレトモ開墾規則第二條ニ開墾加入願出候者所置ノ事ト

第十五條

アル廉ニ依リ開墾ニ加入セシモノナレハ其義務ヲ盡スニ至テハ政
 府ニ對シテハ盡スヘキノ義務アレトモ八郎右衛門ニ盡スヘキノ義
 務ナシ故ニ權限上不備ノ判決ナリト思考ス

千葉裁判所ノ判決第二條中ニ窮民授産處分上ノ事ニ付可否ノ論議
 ニハ關係無之トアレトモ窮民授産開墾規則ノ趣旨ヲ體認シ耕耘勞
 苦七八年ノ久シキヲ經開墾地ノ人民トナリタル者ニ於テ窮民授産處
 分上ノ可否ヲ論議セスシテ誰カ之ヲ論議スルコトヲ得ンヤ然レトモ
 始ヨリ處分上ノ可否ヲ論議セシメアラズ八郎右衛門ニ於テ小作地引
 揚云々ト非理ノ訴ヲ爲スニ依リ止ムヲ得ス開墾規則ヲ援引シテ論
 爭スルニ至リシノミ然ルニ八郎右衛門ノ主張スル所ハ開墾規則ニ
 抵觸スルコトナラス何年何月ヨリ八郎右衛門ノ私有地ト成リタル

トノ証據トスヘキ文書モナク又曾テ通知シタルトモナク讀聞カセ
タルトモナキ小作人取扱規則ヲ証憑トセリ因テ姑ク可否ヲ議論ス
ル權利上一歩ヲ譲リ專ラ審問ニ對シ八郎右衛門ノ私有地トナリタ
ル確証ヲ求メタルニ却テ此ヲ舍テ處分上可否ノ論議ニ關係無之ト
判決セラレタルハ不明ノ判決ナリト思考ス

第十六條

千葉裁判所ノ判決第二條全文ノ意ハ三井八郎右衛門ノ被告タル窮
民ハ開墾規則ニ依ラザルトノ判決ナル歟若シ然ルトキハ第十條ニ
論シタル如ク開墾規則第二條ハ有名無實ナル者歟又ハ取消サレタ
ルモノ歟然ラズンハ開墾規則第二條ニ依リタル窮民ハ處分上ノ可
否ヲ論議スルノ權ヲ有スルハ至當ノ條理ナリト思考ス

第十七條

小金佐倉牧々開墾地ハ舊來御用地ト唱ヘ野付村々地先進退ノ牧馬
場ナリシヲ窮民授産ノ爲メ壹萬三千町歩ヲ八年内ノ開墾ニシ
テ既ニ千葉縣管内一覽表ニモ開墾地反別ト別段記載シアル地種ニ
シテ地所ノ名稱ニ依レハ野方無税ノ公有地ニ適當セリ又大藏省布
達地租改正施行規則第十二則新開場畝下年季中ノ分ハ其年季中無
税ノ積リ相心得新開試作地反別何程ト相記無代價ノ券狀可相渡事
トアル藤ト開墾規則第一條中御下金ヲ以開墾仕一旦受作人ト相成
其入費ヲ十年内ニ返濟スルトキハ獨立農夫タルヘシトアル藤ト
ヲ參照スレハ普通ノ新開モ窮民授産ノ爲メ開墾モ道理上ニ於テ
異ナルトナク即チ畝下年季中ノ新開地二十年限リノ拜借金ヲ負
ヒタル筋ニ相當シ又証跡ニ就テ論ズルトキハ第一條第二條第三
條ニ記載セシ如ク開墾規則御主意ノ通りナリ然ルニ千葉裁判所ニ

於テ官立會社ノ社員タル八郎右衛門關係ノ地六八郎右衛門ノ私有
地ト裁判アリ中村初太郎吉田耕太郎關係ノ地ハ公有地ト裁判アリ
而シテ千葉縣廳ニ於テハ開墾地ハ會社ヘ附與セラレタルモノナリ
ト無證據ノ事ヲ申立ラレタリ又明治五年廢局廢社ノ節許多窮民ノ
内東京ノ窮民ノミヘ開墾地五反五畝歩宛下サレタルハ官有地ノ處
分ナリ元來一種ノ開墾地ニシテ其處分此ノ如ク異同アルハ了解シ
難シ依テ官公民有地ノ區別ヲ審理セラレ開墾規則第三條ノ趣意判
然相立ッ様審理セラレシコトナク

判文

本訴ハ明治八年九月二十五日下總國葛飾郡十餘二村石塚與兵衛ノ
控訴并明治九年三月二十三日下總國葛飾郡豊四季村渡邊忠兵衛ノ
控訴ト其旨趣手續等都テ同様ナル旨申立タリ然ルニ右石塚與兵衛

渡邊忠兵衛ノ控訴ハ何レモ初審裁判ヲ至當トシ判決ニ及ヒタリ因
テハ本訴ノ義モ同様ノ筋ト相心得ヘシ依之訴狀下ケ辰シ候事
明治九年
七月
三日

大審院ニ於テ

原告、饗庭空之助外四人代人松本善五郎上告ノ要領

第一條

東京上等裁判所ノ判決第一條中ニ開墾規則ニ因ル時ハ該會社ハ當
時府下無籍無産ノ窮民救助ノ爲メ府下有志ノ者共朝旨ヲ奉シ結社
セシモノニテトアレトモ開墾規則第一卷前文ニ無籍無産ノ窮民ハ
永シ産業ヲ被爲授度思召ヨリ被仰出候處就中云々右等ノ者共ヲ始
メ其外窮民ニ至ル迄御世話被爲在度云々右窮民授産成功ヲ計ルハ
シ云々トアリ又同規則第三條ニ牧々近在ノ窮民ヨリ開墾加入願出

候者所置ノ事云々在籍有産ノ貧民ニシテ云々幾坪ノ地ヲ開候得ハ
 何百文ノ賃銀幾坪ノ草敷ヲ取候得ハ何程ノ賃銀ト定メ或ハ飯米
 位ノ手當ヲ以地所預リ或ハ家作迄貸渡何シモ開墾成就ノ上受作人
 タルヘキ云々生産ニ就候様可致云々トアリ又同規則第九條ニ今般
 ノ開墾ハ無籍ノ浮浪士始メ其外農工商ニ至ル迄差加候儀ニ付云々
 本アリ此三個條ニ依レハ牧々近在窮民救助ノ道ヲ立置カレタル
 朝旨ナルコト明瞭ナリ然ルニ只開墾規則ニ因ル時ハ府下窮民救助ノ
 爲メトノミアリテ近在窮民救助ノ事ヲ付テテ判決ナシ故ニ府下窮
 民救助ノ道ハ相分リタレトモ近在窮民救助ノ道相分リ難キ判決ナ
 レバ以テ不法ト思考ス

第三條

同裁判所判決第一條中ニ全民立會社ナリ故ニ小作願書及ヒ小作証

書ニ會社役人等ノ稱小作上納等ノ辭ヲ用サタリトテ之ヲ官廳ニ對
 スルモノトナズ可カラサル事且テ下モ會社ノ官立ニシテ民立ニ
 アラサレ所以ハ控訴狀第一條ニ陳述セシ如ク又テハ會社ハ官立
 ニシテ民立ニシテ第一窮民授産ノ爲メ開墾局ヲ設立スル第二
 窮民授産開墾規則ヲ施行セラルルニ付會社若シテ官立ノ方法ヲ
 用第三小金原開墾被仰出候御規則面ノ通御局御支配小作人ニ被成
 下度云々開墾會社御役人申様ヲ記シタル小作願書又差出シタル第
 四地税御上納又ハ御役所ト記シタル小作書若シテ差出シタル開墾
 事業ハ政府特別ノ恩典ニ出テ其開墾地ハ往時御用地ト唱ヘタ開墾
 馬場ナリシテ自分ノ勞力ヲ以テ漸次良田ト爲シ七今年間現ニ其地
 ニ住居セリ左ノ如クハ開墾規則ニ據ルモ窮民授産ノ趣旨ニ對スルモ
 又往昔ヨリ土地ノ開墾スルハ其地ハ開墾者ノ所有トテテ習慣ニ據

ルモ小作願書小作証書ハ官廳ニ對シ然モ其ノ官廳ニ對シテ
 此ノ判決ハ不法ナリ則チ思考スルニ官廳ニ對シテ
 第三條ニ依リテ其ノ判決ハ不法ナリ然レモ其ノ官廳ニ對シテ
 同裁判所ノ判決第二條中ニ自費開墾者ト賃錢取ル小作人トノ開墾
 規則上其差別アリ然レモ元來自分共ニ於テ自費開墾者ト申立
 不レモ其ノ開墾規則第三條近傍窮民ノ部分ト申立タレ然レモ
 自費開墾者ト申立タレ如ク判決ハ不法ナリ然レモ其ノ官廳ニ對シテ
 但開墾成功迄ハ入費ハ壹反ニ付金七圓五拾錢程モ相掛リタルニ
 其賃錢且テ下渡サレタレ然レモ其ノ官廳ニ對シテ
 入費十分ノ空額下金アリ然レモ其ノ官廳ニ對シテ
 出タルモノナルニ東京上等裁判所於テ其實際ヲ審理セシ
 其レガ如クハ人民ノ損害ヲ保護セシメ然レモ其ノ官廳ニ對シテ
 ナリト思考ス

第四條

同裁判所ノ判決第二條中ニ原告人於テ賃錢ヲ受取リタル以上ハ決
 シテ自費開墾者ニテラス其自ラ云フ所ノ往々地主タルヲ得ルニ目
 的ナリシトハ規則第二條近傍窮民ノ部分ニ就テ論スルモノナリト
 アリ其文意ヲ推スニ自分ハ開墾規則第二條ニ依リテ得ヘカレサル
 トノ判決ナリ賃錢ヲ取ル取ラサルトニ差別アル然レモ勿論其レトモ
 然レモ開墾規則第二條ニ賃銀飯米家作手當又以テ地所預リ受
 作人タルニキトアルニ據レハ賃銀ヲ受取リタリ且テ規則第二條ニ
 依ルヘキモノナルニ規則第三條ニ依リテ得ヘカレサルトノ意ヲ以
 テ判決心ヲシタルハ不法ナリ然レモ其ノ官廳ニ對シテ
 第五條

同裁判所之判決第三條中其小作金ヲ納ルコトヲ拒メルハ元ト官有地ト心得小作セシニ圖ラズモ三井組ノ所有地トナリシ趣ニ付其原因ヲ知ラサレハ納メ難シト謂フ雖モ原告ニ於テ初メ小作人タラシコトヲ願出シヨリ以來云々其所有主ノ官私ニ拘ラス被告へ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然ナリトアレトモ所有主ノ官私ニ拘ラス被告へ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然ナリトアレトモ所有主ノ官私ニ拘ラス被告へ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然ナリトハ驚愕ニ堪ヘサルナリ何トナレハ官有私有ノ別ヲ明カニシ而シテ後土地ヲ引渡スヘ理由アラハ其時被告人へ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然ナルニ只官私ニ拘ラス小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然ナリトノ判決ハ不法ナリト思考ス

第六條

同裁判所ノ判決第三條中ニ諸事被告ノ支配ヲ受來リ今モ仍ホ異ナ

ルコトナシ云々且該地ヲ會社へ附與セラレシコトハ固ヨリ官廳ノ處分ニ關スルコトニテ其當否ヲ被告へ對シ申立ヘキ筋ニ非ストアレトモ官廳ノ處分ニテ該地ヲ會社へ附與セラレタルモノナラ其處分ノ理由ヲ該地ニ住スル窮民へ公示スヘキハ今モ仍ホ諸事ヲ支配スル八郎右衛門ノ責任ナリ然ルニ其事理曖昧ニシテ土地ヲ引揚ント欲スルニ依リ控訴狀第十五條末文ニ其當否ヲ辨シ事理公明了セシコトヲ求メタルニ却テ其當否ヲ被告へ對シ申立ヘキ筋ニアラズトノ判決ハ不法ナリト思考ス

第七條

本件ノ始末ハ明治二年六月開墾局ヨリ施行セラレタル窮民授産開墾規則ニ基キ結社セシ開墾會社ノ社員三十餘人ノ内三井八郎右衛門ノ代理人市岡晋一郎同社員中村初太郎吉田耕太郎三人ヨリ窮民

内自分共ノ部類七ヶ村貳百三十三人ニ對シ開墾地ハ八郎右衛門外三人ノ私有地ナル旨ヲ以テ小作地引揚ノ訴狀三十三件ヲ加村區裁判所へ差出タリ因テ自分共ニ於テハ官有地受作人タル旨各自答辨セシ處其内八郎右衛門ヨリ石塚與兵衛へ對スル一件ノニ裁判アリ其他ハ千葉裁判所へ差廻サレ同所ニ於テ審理中中村初太郎吉田耕太郎ヨリ立澤甚五郎外三十一人ニ對スル件々ハ原告ハ官有地進退人被告ハ官有地受作人タル旨ノ證書爲取換解訟出リ八郎右衛門ノ被告タル百九十一人ノ件々ハ明治八年十二月明治九年一月兩度ニ裁判申渡サレタリ依テ被告ノ内石塚與兵衛並明治八年九月東京上等裁判所へ控訴シ其他ハ明治九年三月廿三日同裁判所へ控訴シ同所ノ裁判ヲ受テ耕地ヲ引渡シ地稅及ヒ訴訟入費ヲ爲メニ身代限ヲ差出シタリ政府特別ノ恩典ニ出タル同種ノ窮民ニシテ其德澤ヲ

蒙ル丁ニナラサルハ不公平ト思考ス

第八條

被告八郎右衛門ニ於テ開墾地引揚請求ニ證據ニ出シ小作証文ハ平民八郎右衛門へ差入タルニアラスシテ政府ノ開墾事務ヲ擔當スル八郎右衛門ニ差入シタルナリ其事理ハ控訴狀第六條ヨリ第八條迄ニ其陳述シ如クモ然ルニ八郎右衛門ニ於テハ自己へ差入レタル証文ハ其權利ヲ取リ違ハ地所引揚ヲ訴出ル雖モ抑窮民授産ニ開墾ハ八郎右衛門ノ開墾ヲ手政府特別ノ恩典ニ出タル開墾ハ手政府特別ノ恩典ニ出タル開墾局ヨリ窮民授産開墾規則ヲ施行モ以テ其規則前文ニ依テ窮民授産成功迄ハ申渡不寫天事件ハ左列ニ右小作証文ハ職務上ニ八郎右衛門ニ差入タル旨ヲ以テ小作証文ヲ以テ小作地ヲ引揚ントスル

答辨書ヲ分テ三章トシ第一章ヲ爭訟ノ大体ニ就テ上告ノ不當ヲ辨
 解シ第三章ハ上告狀ニ就テ逐條答辨ス其答辨ヲ付憑証トス如處ノ
 書類ハ今般答辨ニ添ヘ差出然リ其書目左ニ如ク錄ス其書目ノ前
 列ニ載テ証據書類目錄ニ列ス其書目ノ後列ニ載テ証據書類ノ
 第一號 辯明ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ
 辯明ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領
 第二號 辯明ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ
 辯明ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領

第一號 辯明ノ要領

辯明ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領

第二號 辯明ノ要領

辯明ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領

第三號 辯明ノ要領

辯明ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領

第四號 辯明ノ要領

辯明ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領

第五號 辯明ノ要領

辯明ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領

第六號 辯明ノ要領

辯明ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領

第七號 辯明ノ要領

辯明ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領

第八號 辯明ノ要領

辯明ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領

第九號 辯明ノ要領

辯明ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領

第十號 辯明ノ要領

辯明ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領

第十一號 辯明ノ要領

辯明ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領ニ付テ答辨ノ要領

一 窮民授産開墾規則第一卷

第二號 乙印

一 窮民授産開墾規則第二卷

第三號

一 小作人取扱方規則

第四號 甲印

一 下総國開墾地ノ事ニ付東京府ヨリ千葉縣へ廻答書ノ寫

第四號 乙印

一 東京府ヨリ下総國牧ヶ開墾一件ニ付舊印幡縣へ演說書中抜書

ノ寫

第四號 丙印

一 民部官ヨリ屋作料下渡書及ヒ東京窮民無産ノ者御處置大意

第四號丁印

一東京窮民授產仕法畧卷ノ一寫

第四號戊印

一窮民授產取扱方内則寫

第四號己印

一開墾事業頓末大意

第四號庚印

一下総開墾地ノ事ニ付千葉縣ヨリ加村區裁判所へノ國答書ノ寫

尙原告人饗庭空之助外四人ニ對スル證據目錄左ノ如シ

第一號

一開墾會社宛ノ小作願書六通

第二號

一三井組開墾方宛ノ小作証文一通

第三號

一三井組開墾方宛ノ小作反別取調ノ儀ニ付証文一通

第四號

一貨錢受取書三通

第五號甲

一解訟後入費費受証文一通

第五號乙

一解訟後詫書一通

第六號

一地券証拾五通

第一章

第一條

原告人共訴フル所ノ要旨タルヤ下総國牧々開墾仰出サレシヨリ原告人共ハ開墾ニ從事シ往々地主タルヘキ目的ナリシ後ニ該地ハ三井八郎右衛門ノ私有地タリトノ事ヲ聞キ目的相違スルノミナラス根元該地ハ原告人共ニ於テ地主トナルヲ得ヘキ權利アリテ三井八郎右衛門ハ之ヲ私有スヘキ理由ナシト思ヘルモノ、如シ是レ原告人共ハ開墾着手ノ原因ヲ知シサルニ依リ此妄想ヲ起セシナラン抑開墾ノ擧タル其原因ハ專ラ東京ニ在ル無籍無産ノ窮民ヲシテ永ク産業ニ就カシムルノ恩典ニ出シモノナリ原告人饗庭奎之助ハ原ト浦和縣下武藏國足立郡中尾村ニ小林勘之丞ハ同郡町谷村ニ荒卷武右衛門ハ同郡田島村ニ内田市郎右衛門ハ同郡在家村ニ小池清次郎ハ同郡二ツ宮村ニ於テ孰レモ在籍有産ノ一農夫タリ其持高田畑共作

地不足ナルヲ以テ移住小作致度旨申出タル義ナリ而シテ開墾會社ノ開設ハ明治二年五月ナルニ原告人共ノ小作致度旨申出タルハ明治三年十月ヨリ同四年二月迄ニシテ何レモ會社開設ヨリ數月ヲ經タル後ニ係レリ故ニ其初メ開墾着手ノ際ニ於テ目的トセシ窮民部分トハ全ク性質ヲ異ニスルモノナリ依テ他ノ窮民ト一般ニ恩典ヲ蒙ルヘキ理ナシ

第二條

原告人共ハ素ト窮民ニアラス又開墾規則中ニ所謂力民ナルモノノ部分ニモアラス所謂力民ハ其力ヲ勞セシカ爲メニ別ニ金穀ノ酬ヲ得サルニ依リ即チ其力ヲ勞セシ地面ヲ有スルノ酬ヲ得ヘキ理アルヘシ然ルニ原告人共ハ各開墾賃料ヲ受取タルモノナリ已ニ賃料ヲ受取又累ヌルニ其地ヲ得ルノ理アラシヤ然ラハ則之レヲ開墾規則

中三所謂牧々近在窮民ノ部分ト看做サ、ルヲ得ス而シテ近在窮民ナルモノハ幾坪ノ地ヲ開ケハ何百文ノ賃錢ト定メ開墾成就ノ上請作人タルヘキ條約ヲ以テ生産ヲ立シ下ノ明文アリ故ニ原告人共ノ如キ之ヲ規則上ヨリ論スルモ條理上ヨリ論スルモ共ニ請作人タルニキ下判然タルモノニシテ到底地主トカレテ得ヘカラサルナリ

第三條

原告人共ハ初メテ該地ニ移住セシトギハ官有地ニシテ開墾會社ハ官立ノモノト思ヘリ故ニ小作願書及ヒ小作証書トモ官廳ヘ捧ケシモノナリト申立タリ然ルニ原告人共カ差出セシ小作願書ハ開墾會社ノ役人ニ宛テ其文中ニ會社地主方ヘ小作人ニ被成下附アリ又小作証書ハ該地三井八郎右衛門ノ私有ニ歸シタルノ後ナルカ故ニ則

宛名ハ三井組開墾方御掛衆中ト書シ其冒頭ニ貴所様御持十余二御開墾地移住小作仕ト掲ケ又去ル明治六年ニ原告人共ハ高田村秋山彌平次等ニ同意シ地所買取并ニ賃銀受取方ノ義ヲ千葉裁判所ヘ出訴ノ末遂ニ願下ケテナセシ節貴殿御持地ノ内ニ移住小作又差出小作罷在候ニ付テハ約定ノ都度々々書面差入確定致シ居候ヲ心得違致シ云々ニ枕ヲ差出シタリ是レ原告人共ハ最初ヨリ該地ハ民有ハモノタルヲ信認シ八郎右衛門ノ小作人タルトモ甘心セシ明証ニシテ官有地ト認メタルニテハ然ラズ

第四條

前條々ニ陳述スル如クナルヲ以テ原告人共ハ地主タルヲ得ヘキ理ナキト分明ナリ而シテ該地三井八郎右衛門ノ私有地タルノ証ハ第一舊印幡縣廳ヨリ下付セラレタル地券証アリ其他之ヲ私有スヘキ

理由アル所以ハ豊四季村渡邊忠兵衛ノ上告狀ニ對テ答辨セシ通リ
第二章
第十條

上告狀第一條ニ對スル答辨ハ旨意ハ前文第一章第一條中ニ開陳ス
ル如シ故ニ東京上等裁判所ノ判決ハ不法ニアラト思考ス
第二章
第十條
上告狀第二條ハ申立ハ原告人共カ差出シタル小作証文ノ體面ヲ
見レハ其官廳ニ對スルモノニアラザルハ判然タル故ニ東京上等
裁判所ノ判決ハ不法ニアラト思考ス
第三章
第十條
上告狀第三條ノ申立ハ原告人共カ東京上等裁判所ニ差出シタル控

訴狀ヲ閱讀セシナケレハ果シテ自費開墾者ト申立タルナカリ
シヤ否又識別ニ因テ故ニ之ヲ答辨ナシタルコ能ハサルナリ然レモ原
告人共別今日申立ル處ノ要點ハ開墾規則第三條近傍窮民ノ部分ナ
リ云々ニ在リ而シテ東京上等裁判所ノ判決第三條中ニ規則第二
條近傍窮民ノ部分ニ就テ論スルモノナリトアレハ原告人共カ今日
申立ル如ク判決アリシモノニシテ此判決ヲ不法トスル理由ヲ發見
シ得ズ況テ原告人共カ開墾規則第二條ニ對シテ
論並告狀第三條但書ニ開墾成功マテノ入費云々申立レタル實際
上夫並程開墾費ヲ掛ケテ亦開墾之ヲ行シ得ルニ思量セテ今姑ク原告人
共ノ言ヲ所ニ從フモ東京上等裁判所ノ判決第二條中ニ已ニ近傍
窮民ノ部分ヲ發見知ル上ハ貨錢ノ少キト勞力ヲ用シトハ素ニ
得心ノ上取掛リ且モノ草夫並爲別段ノ權利ヲ生ズル筋無

之由不レ此判決ヲ見レハ東京上等裁判所於テ入費ニ實際ヲ審
 理スルニ依キ道理成キヨク會得スルニ足ルベシトモ、
 第四條 第三項東京上等裁判所ノ判決第三條中該規則第二
 上告狀第四條ニ申立ハ東京上等裁判所ノ判決第三條中該規則第二
 條近傍窮民ノ部分ニ就テ論ズルモ、
 上ハ東京上等裁判所ニ於テ原告ハ開墾規則第二條ニ依ルヲ得ヘカ
 事ト判決セラルニアラスルコト明瞭ナリ、
 第五條 第三項東京上等裁判所ノ判決第三條中該規則第二
 上告狀第五條ノ申立ハ假令其地官有ナルモ私有地ニモ小作人共
 共ニ分限テ以テ小作金ヲ差拒ム理アリ、況ニ原告人共初ヨ
 リ三井八郎右衛門ノ私有地タルヲ識認セシモノナルコト小作証書
 三於テ明瞭ナリ、

第六條

上告狀第六條ノ申立ハ固ニ三井八郎右衛門ハ官吏ニアラサレハ
 該地ヲ會社ニ附與セラレタルノ當否ヲ論スルノ權ナク又原告人共
 三向テ之ヲ説明スルノ責任モ亦該故ニ右判決ニ不法ニテラス不
 考スルニ由ルコト、

第七條

上告狀第七條ノ申立ハ八郎右衛門ノ關係セシト云フラス原告人共
 三於テモ他八ノ事ヲ援引引以テ不公平ト云フニキ理之レナシ、

第八條

上告狀第八條ノ申立ハ前文第二章第三條ヲ辨解シテ明瞭ナリ、
 辨明

第一條

上告狀第一條ノ申立ハ東京上等裁判所ノ判決ヲ了解シ得サルニ出
 テタルモ以テトス何トナレハ東京上等裁判所ノ判決第一條中ニ開墾
 規則ニ因ル時ハ該會社ハ當時府下無籍無産者窮民救助ヲ爲メトア
 リテ開墾地近傍窮民救助ノ事ヲ舉ゲサリシニ開墾會社ノ民立タル
 フ辨明スル爲メ該會社ハ開墾規則ニ因リテ成立チタルモノニテ其
 成立立チタル原因ハ首トシテ東京府下ノ窮民ヲ救助スルニ出テタ
 ルトナリ辨スルニ在レハナリ而シテ其首トスル所ノ東京府下ノ窮民
 ヲ救助スルニ出テタル証ハ原告引証スル所ノ開墾規則前文中ニ就
 中東京ノ儀ハ非常ノ御變革被爲在候ヨク俄ニ無籍者相成候者不少
 云々右等ノ者共夫始メ其外窮民言至ル迄トアリ又原告引証者此所
 ノ開墾規則第二條ニ開墾地近傍在籍有産者窮民ト東京府下ノ無籍
 無産ノ窮民トハ差別アルトナリ記シ同規則第九條ニモ今般ノ開墾ハ

無籍ノ浮浪士ヲ始メ其外農工商トアルヲ以テ見ルヘシ故ニ東京上
 等裁判所ハ救助ノ首トスル所ヲ舉ゲタル迄ニテ開墾地近傍窮民救
 助ノ道ハ立テ置カレサレ朝旨ナリト判決セシ言非ス而シテ原告ニ
 於テ相分リ難シト申立ル近傍窮民救助ノ事ハ開墾規則第二條ニ明
 記シアル上ハ東京上等裁判所カ此判文ニ於テ開墾地近傍窮民ノコ
 ナリ舉ケサリシトテ少シモ上告人ノ權利ニ妨害ナキ言因リ其舉ケサ
 リシヲ以テ不法ノ裁判トスルヲ得ス
 第二條
 上告狀第三條ノ申立ニ付キ小作願書小作証書ノ果シテ官廳ニ對テ
 ルモノナルヤ否ヲ判決スルニハ先ツ其小作願書ヲ受取ルタル開墾
 會社ハ官立ナル乎民立ナル乎小作証書ヲ受取ルタル三井組開墾方
 ハ何等ノ性質ヨリ成リ立チタルモノナルカ未定ニサレハカラス而

シテ原告が會社ヲ官立ナリトスル所以ハ控訴狀第一條ニ陳述セシ
 如シト申立ルニ依リ控訴狀第一條ヲ按スルニ其引証スル所三個條
 ナリトス而シテ其第一個條ハ開墾規則前文ニ會社ヲ爲結トアル是
 ナリ然ルニ會社ヲ爲結トアル前後ノ文ニハ許多ク窮民授産成功迄
 ハ中々不容易大事件ニ付政府ノ御世話而已ニテハ御手ノ十分ニ難
 被爲届御場合モ可有之依テハ今般東京始メ其外開墾ニ加入致度志
 願ノ者ニ會社ヲ爲結自分金穀ヲ以テ開墾致度者ハ富民ノ部ニ入レ
 又ハ志ハ有之候トモ自力無之者ハ力民ノ部ニ入レ富民力民相互ニ
 助ケ合云々トアリ此文意ヲ解釋スルニ窮民授産ノ事ハ當時政府以
 世話ヲミミテ行届キ難キ場合モアルニ依リ志願ノ富民力民ニ會
 社ヲ結ビテ開墾ニ從事シ窮民授産ノ道ヲ立テシムル事ニ依リ故ニ
 志願ノ者ト云ヒ會社ヲ爲結ト云ヒ自分金穀ヲ以テ開墾致度旨ト云

ヒ志ハ有之候トモ自力無之者ト云ヒ歷々皆會社ノ民立タルヲ言
 フモ以テ或モ毫モ會社ヲ官立タル事ヲ言フシ文意ナシ然ラハ則原
 告ノ所謂會社ヲ爲結トアルハ却テ會社ヲ民立タルヲ証スルニ足ル
 モト云ヒテ會社ノ官立タルノ証ト爲スル得ズ又第二箇條第三個條
 引証ハ開墾規則第八條ニ會社役人撰舉ノ事云々役義可申付旨ニ
 付云々會社一般決議ト上可申立事ト云々同規則第十條ニ開墾ノ御
 趣意ヲ拜承致シ願人或有志ノ輩會社ノ者ニ内談等有之節ハ其旨
 委細書取ヲ以當局ヘ可届出等ヲ云々必得達致シ私ニ願書預置又ハ如
 何敷税ト唱竊ニ金銀ヲ欺取云々トアル是ナリ原告ハ會社ノ社員カ
 右兩箇條ノ如ク開墾局ヲ命令ヲ受ケルニ依リ會社ハ官立ノ証ナリ
 トスレトモ抑開墾會社ヲ成リ立チタルニ政府ニ於テ先ツ開墾局ヲ
 置キ開墾規則ヲ設ケ其規則ヲ據リテ富民力民ニ會社ヲ結ハセタル

モノナレハ會社カ此規則ニ賴ツテ就業スヘキハ結社ノ初ヨリ定リ
 タルモノナリ是故ニ開墾局カ有三條ノ如ク會社ノ事務ニ干與スル
 所以ノ者ハ所謂許多ノ窮民ヲシテ授産セシムルハ容易ナラサル大
 事件ナルヲ以テ之レニ從事スルモツテ監護スル事出ルモノナルハ
 ハ明瞭ナリトス左スレハ會社ガ開墾局ノ命令ヲ受ケルハ固ヨリ當
 然ノ事ニシテ其命令ヲ受ケテ下テ會社ハ官立ニモ非ズ民立ニモ非ズ小作
 ヲ得ス又原告ニ於テタトヒ會社ハ官立ニモ非ズ民立ニモ非ズ小作
 願書小作証書ハ官廳ニ對スルモノナリト申立ルトモ會社ハ官立タ
 ル乎民立タル乎ヲ問フ間ニモテ獨リ小作願書小作証書ニ依リ官
 廳ニ對シテモソコトヲ得サレ者トス原告ハ第一窮民授産ノ爲メ
 開墾局ノ設立遂ニ窮民授産開墾規則ヲ施行セラルルニ付會社
 ヲ結ハシテ之ヲ方法法云々ト云フト雖モ開墾局ニ其規則ヲ立テ會

社ヲ爲結タルモノナレハ開墾局ト會社トハ判然タル區別アリトス
 而シテ其會社ヲ爲結トアルハ官ヨリ人民ニ指揮シテ會社ヲ結ハシ
 メシトニテ即チ會社ノ民立タルノ証ニシテ官立タルノ証ト爲スト
 ヲ得ス第三ハ小作願書ニ御局御支配小作人開墾會社御役人中様ト
 記シタリト云フト雖モ前ニ辨明セシ如ク民立ナル會社ニ差出シタ
 ル小作願書ハ之ヲ官廳ニ對スルモノト爲ヌ得ヌ第四ハ小作証書
 ニ地稅御上納御役所ト記シタリト云フト雖モ其名宛ハ會社中ノ一
 人ナル三井組開墾方ニテ其証書ノ首ニ貴所様御持寸餘二村御開墾
 地内移住小作仕度旨願上候處早速御聞濟被成下難有奉存候依之今
 般願ノ通小作下請仕云々ト記シ又末文ニ御會社ノ御規則屹度相守
 可申トアルニヨレハ固ヨリ官廳ニ對スルモノトナスヘカラス是ニ
 由テ之ヲ觀レハ原告カ所謂開墾規則ニ據ルモ窮民授産ノ趣旨ニ對

スルモ會社ハ民立ニシテ官立ニアラサル上ハ小作願書小作証書ハ官廳ニ對スルモノニアラストス又往古ヨリ土地ヲ開墾スレハ其地ハ開墾者ノ所有ト爲ル習慣ト中立レ厄有ハ他人ノ給與ニ依ラズ獨立シテ開墾セシ者ノ事ニシテ此案件ト其性質ヲ異ニセシ者ナリトス右ノ如クナルヲ以テ東京上等裁判所カ會社ノ民立タルヲ辨明シ小作願書及ヒ小作証書ニ會社役人等ノ稱小作上納等ノ辭ヲ用キタリトテ之ヲ官廳ニ對スルモノト爲スヘカラスト判決シタルハ不法ノ裁判ニアラストス

第三條

上告狀第三條ノ中立ニ依リ原告ハ東京上等裁判所ニ於テ自費開墾者ト中立タルヲナキヤ否ヲ審査スルニ明治九年六月九日同裁判所ニ於テ原告ノ口供第一項ニ下総國葛飾郡十余二村石塚與兵衛并同

郡豊四季村渡邊忠兵衛控訴ト都テ同様ナリトアリ依テ明治九年五月廿四日忠兵衛カ口供ヲ檢スルニ自分金穀ヲ以テ開墾致シ候者ハ往々該地ノ所有主タルヲ得ヘキ旨承リ云々自費ヲ以テ開墾致シ云々自分ノ如キ自費開墾セシ者ハ云々トアレハ自費開墾者ト中立タルコト明カナリ故ニ東京上等裁判所ハ自費開墾者ト賃錢取小作人トハ開墾規則上其差別アリ而シテ原告人於テ賃錢ヲ受取リタル以上ハ決シテ自費開墾者ノ部分ニアラスト判決セシモノナレハ不法ノ裁判ニアラストス

上告狀第三條但書ノ中立ヲ審理スルニ原告ハ開墾規則第二條ニアル近傍窮民ノ部中タルトニ異論ナキハ本條ノ中立ニ因テ明瞭ナリ既ニ近傍窮民ノ部中タルニ異論ナキ上ハ東京上等裁判所カ入費ノ實際ヲ審理セサリシチ不條理ト爲スヲ得ス何トナレハ開